

# 川柳塔



令和二年四月一日発行 毎月二日発行  
創刊大正十三年 通卷二一五号

日川協加盟

No.1115

四月号

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし  
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

## 医療法人社団 湯川胃腸病院



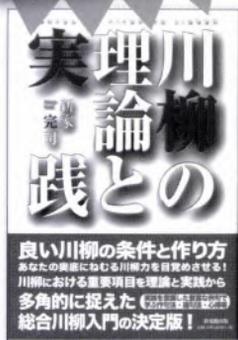
消化器科 放射線科 脳神経外科  
緩和ケア（ホスピス）  
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>

お待たせいたしました！  
第四刷出来！



# 川柳の実践と理論

新家完司・著

ご注文は下記へ、ハガキかFAXにて。  
お支払いは到着後で結構です。

実践を意識した豊富な例句で学ぶ作句法・選句法・心得  
初心者はもちろん、中級者やベテランにも役立つ

〒689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万597 新家完司  
326頁。送料+消費税=2,000円 FAX 0858-52-2449

## 酒供養

小島 蘭 幸

「これ珍しいので蘭幸主幹に差し上げます」藤村亜成氏から頂いたのひらサイズの書物の表紙には、酒供養 路郎生と書いてありました。

「中島生々庵氏厳父四十年忌に酒供養を催さる酒の旧作を御霊前に捧ぐ 一八、八、一八、路郎生」書物は折り畳み式になっていて全部開くと全長約二四〇センチでした。その中に路郎書になる酒の旧作が28句収められています。

さけとろりとろり大空のこころかも 路郎

一番最初に書かれた酒の句で路郎の落款が捺してあります。

のんでほしやめてもほしいさけをつぎ 葎乃

路郎の奥様葎乃の句も1句だけ書いておられます。作品の横に、これは葎乃作 と書かれています。

親の子のなるほどというのみつぶり

この作品の横には、原作者々庵 路郎訂正と書いてありました。

28句の中の、この3句をしみじみと味わうだけでも愛弟子生々庵の厳父四十年忌に対する路郎の熱い思いが、ひしひしと伝わってくるではありませんか。

私は酒供養の作品を読み終えて、表紙から全ての作品をA4の用紙12枚にカラーコピーしました。不思議なことにA4の用紙にカラーコピーすると、また違った味わいが出てくるのです。その中の1枚に富士山が描かれているのがありました。これが2作品と相俟って実に味わい深いのです。早速額に入れて寝室に飾って元気をいただいています。

新型コロナウイルスが世界中を恐怖のどん底に陥れ甚大な被害が出ております。

犠牲者の方々に心より哀悼の意を捧げます。

日常生活も制限され混乱が続いておりますが、皆さま、健康に留意の上、安全にお過ごしください。一日も早い終息を祈念しております。

川柳塔社

座右の句

犬小屋にペンキで窓が書いてある

(薰風)

私の句

アルバムに美人の私ばかりいる

中山春代

## 川柳塔 四月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「吉備国分寺の春」

■巻頭言 酒供養	小島 蘭 幸	……(1)
猫なみの目的	麻生 葭 乃	……(2)
川柳塔(同人吟)	小島 蘭 幸 選	……(4)
川柳塔の川柳讃歌 <sup>Ⓔ</sup>	木津 川 計	……(39)
自選集	森 井 菁 居	……(40)
句集の森	森 井 菁 居	……(43)
温故知新	川 上 大 輪 選	……(44)
水煙抄	川 上 大 輪 選	……(43)
橘高薰風句抄	川 上 大 輪 選	……(44)
英語 de Senryu <sup>Ⓜ</sup>	吉 村 侑 久 代	……(63)
誹風柳多留一二篇研究 82	吉 村 侑 久 代	……(64)
愛染帖	新 家 完 司 選	……(66)

## 猫なみの目的

麻生 葭 乃

「此世の中は仮の宿だ」みんなそう云うている。朝眼が覚めたら、男は男で、女は女でそれぞれ持前の仕事でうろつき廻り、夕食がすんだら寝床へもぐり込む。こんな暮しが走馬灯のように繰り返されて一年が来る。よくも飽きないものだ、私自身もそう考えながら、一年過ぎ、二年過ぎ、今日の高齢に達するまで、寝たりに起きたり、食べたりの連続であった。猫も矢張りそうだった。

然し、猫と人間と一緒にするのは殺生だ。少なくとも、人間の行動には目的があると云う人もあるが、猫だって猫並みに目的を持っている。飼主に可愛がられて、高い屋根へもあがって見よう、此かいわいでのおスにもなつてやろうと思つている。それは高尚であろうと、なかろうと目的には相違ないのだ。

それでは、猫も人間も目的を貫徹するために生きているのだらうか、いや、そうではない。猫は目的を果たせなくても、

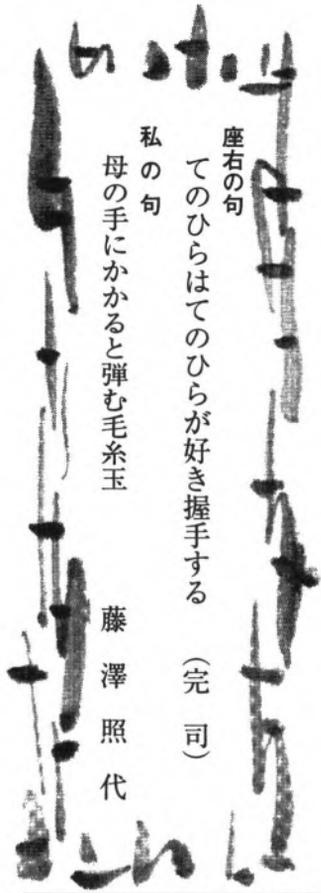
檸檬抄「花」……………	水野黒兎・嶋谷瑠美子共選	(70)
一路集「食欲」……………	伊藤のぶよし選	(74)
「借りる」……………	岩本笑子選	(75)
初歩教室「シヨック」……………	居谷真理子	(76)
川柳塔鑑賞……………	福士慕情	(78)
水煙抄鑑賞……………	柳田かおる	(80)
せんりゆう飛行船⑩……………	新家完司	(81)
「麻生路郎読本」余滴⑮……………	乗原道夫	(82)
インスピレーション・ナビ 印象吟……………	大西泰世	(84)
各地柳壇（佳句地十選／山野寿之・平井美智子）……………		(86)
四月各地句会案内……………		(100)
柳界展望……………		(102)
■編集後記（ひとこと／津守柳伸）……………	朱夏・勝弘	(104)

座右の句

てのひらはてのひらが好き握手する (完 司)

私の句

母の手にかかると弾む毛糸玉 藤澤照代



唯なんとなしに生きていたいのだ。人間の方は理由なしに生きる事に羞恥を感じている。政界のためだとか、芸界のためだとか自分の存在価値を高めようとしている。何となしに生きていた猫の方がよっぽど正直である。

街を走る車や、明滅するネオンの灯も永遠に自分から消えてゆく死の到来を人間は恐れている。よしんば、再生を信じるとしても、生まれかわった自分が、スモッグの街を歩いていた頃の自分を覚えているだろうか。此恐怖がすべての生物を地上に縛ぎとめているのである。思いあがった人間や、何となしに生きていたい動物の新陳代謝が日に日に行われて地上は繁栄してゆくのである。私どもは地球の冷却する日まで、理屈抜きで、自然の力に従うてゆくのが真の幸福であると思う。

猫のわがままに共鳴をする雅量出来  
背の青い魚は食わぬ猫を抱く

(原文のまま。川柳塔 昭和41年3月号より転載)

# 川柳塔

## 小島蘭幸選

檀原市 居谷 真理子

メロデイがこぼれる春が描いてある

飛べないが自分を包む羽根を持つ

オーロラは舞う極寒の地を選び

サビシイと象が呼ぶので逢いに行く

人間の嗚呼を呑み込む冬の黙

爺さんは風 婆さんは樹になつた

松山市 宮尾 みのり

大波小波そしてさざ波三回忌

真ん中に娘を置いて雛飾る

七段は今年が最後おひな様

娘にも歴史ひな様にも歴史

わたくしが前向くための五七五

ナンバーを振った句帳にある歴史

神戸市 富永 恭子

健康に暮らせませすよう豆ご飯

季節めぐる日々の営みは変わらず

鉢植えの花を眺めただけの今日

穏やかな冬日金柑が光る

かかしの里こも少子化高齢化

水際へ国の違いが浮き上がる

校門の桜も永いお付き合い

これからはくらげになつて生きてみる

ポケットがたくさん付いていた昭和

ありそうでなさそうで時どき転けてます

転た寝から覚めて眠剤飲んで寝る

雪がなければすることがないスキー場

笑い合つて豚まんのホカホカ

ゆとりやなお母ちゃんの胴まわり

絆とやたしかめ合つたことはない

あの時にあんただけやと言つたやん

背信で甘い香りがするらしい

いい夫婦もう少しだけ演じとこ

大阪市 谷口 義

桜井市 安土 理恵

寢屋川市 伊達郁夫

ひとり酒過去形ばかり食べている

納得をしたかと霧が晴れてくる

私より目立つ男はみな狡い

ボランテア戻り飯粒残さない

四コマ目青い思い出捨てて冬

解脱して白い煙になる私

米子市 吉田陽子

水仙が香る金魚の墓あたり

梅を見てきて仏さまにも梅の花

随分と生きた癖毛が強くなる

この余生くださったのは福の神

家族とは柵のことなんです

古稀過ぎてはかないものが干支にある

土佐清水市 辻内次根

一月の光のなかで春に遇う

一時を浸る古本古雑誌

だんだんと過密余生の時間割

考えと体にできてきた乖離

生活を猫が心配そうに見る

耳痒い冬の日差しのガラス越し

河内長野市 木見谷孝代

他人は皆日常どんだのわたし

悲しみのピーク半分信じない

守られたあなたを守れずにゴメン

朝のコーヒー入れて遺影と語り合う

風糸をしつかり御する夫が居す

詠むことでやっと自分を取り戻す

羽曳野市 吉村久仁雄

どんだで相田みつをを読み耽る

細腕の妻に介護の力瘤

里の知恵葉っぱも水も星も売る

復興の独楽は今でも回ってる

ひとしづくの愛でその日は生きていけ

戦闘モード妻が真っ赤な紅を引く

大阪市 栃尾奏子

失ってワタシ綺麗になりました

たくましく生きよとイヴの子どもたち

ヒロインをやめたら君に逢ったんだ

幸せになるとは許すことでした

あの夜も嵐も私の一部

受け入れてさあ私を創ろうか

河内長野市 山岡富美子

冬木立冗談ひとつ落ちてない

あきらめが悪いと辛い雨の坂

役どころ二月のチョコはユーモア

昇りより下りに毘はありました

脳トレへだんだん甘くなる齢

眼に見えぬウイルス地球儀を回す

鳥取市 岸 本 宏 章

ずると生きて二度目の五輪見る

フェークではないぞ地球の温暖化

空気にはお礼を言ったことがない

税と物価ダブルパンチのように効く

強かなゴーン見事にドロンした

一億の願い刻んだ不戦の碑

越谷市 久保田 千 代

逢いましよと毎年同じ賀状来る

ふるさとの青空忘れさす都会

マンネリを打破する知恵を絞り出す

組板のリズムに残る自尊心

今日も無事終えて明日へのくすり飲む

反省が浮き沈みして終い風呂

大阪市 小 野 雅 美

弾んでみるかまはずは口紅塗ってから

青空が囲む寂しくないように

同じシーンまた泣いている「おくりびと」

人間だから飲んで騒いで泣きもする

花愛でてちよっと淑女になってみる

泣けるだけ泣いて見上げた空の青

豊中市 きとう こみつ

えのきだけのごとし梅田のタワー群

もったいない切手シートの枠の糊  
愛犬も白内障の手術する

ピクトリアの滝も干上がる温暖化

きつね目の男も目の玉は丸い

花丸をもらってうれしそうな紙

岡山市 永 見 心 咲

上書きの雲がどうにも決まらない

顎乗せて膝をかかえて春を待つ

鳩を出すように秘伝の醤油ダレ

蝶の飛ぶ音はどなたも聞いてない

雨上りポプラも羊歯もべっぴんさん

折り返す電話に雨の匂い嗅ぐ

犬山市 金 子 美 千 代

待ちかねた冬將軍が春に来た

長生きをしそう健診みなセーフ

神棚の天井「空」と貼っておく

老後破産せぬよう子らにケチでいる

「会いたいね」の賀状に電話かけてみる

これ以上便利でなくていい日本

横浜市 川 島 良 子

なるようになるさ覚悟はできている

安倍総理歪む答弁歪む顔

深呼吸3回こころ立て直す

拉致被害解決する気ありますか

面会謝絶九十三歳の扉

一斉にラインが踊るサクラサク

人工芝持ち上げて咲く黄水仙

岡山県 高岡茂子

朝ドラのラスト気になるハムエッグ

曇った鏡写り具合がお気に入り

全ボツも忘れさせてるカキフライ

飛行機で行きも帰りも富士拝む

岡山県 田中 恵

切り替えた頭が風になじめない

ふるさとの海の青さを詩う句碑

肩の荷を降ろすと居場所せまくなる

顔合わせ目を見て話すアナログ派

負けて勝つことも覚えた笑い皺

岡山県 藤澤 照代

朝の風入れば家が光りだす

大笑い閉じ込めているラムネ玉

鯛の目帰れぬ海の色を恋う

猫よりも猫背で足の爪を切る

寒風に梅の仄かな片えくば

岡山県 山 縣 のぶ子

槍ヶ岳富士を見下ろす誇らしさ

過去未来今日も生きてる亡夫の声

乳鉢で混ぜた菓をなつかしむ

雑踏にはぐれぬように赤帽子

ずばり言う友とけんかもして笑う

孫受験お天道様鎮守様

岡山市 大石 洋子

目で物言うマスクの群れに紛れ込む

受験戦争交通戦争生き抜いた

団塊世代背中押されて老後坂

一歩一歩赤子の歩み老いの歩み

岡山市 工藤 千代子

ほうれん草茹でて終わりにする話

道草をしました空を見てました

手のひらに時々つけてみる もしも

ハイボールのなかにぽっかりと昭和

公園の鳩が遊んでくれる午後

岡山市 丹下 凱夫

このままでいいですきつと春は来る

百まではまめに暮らして飲み歩く

一日の出来事梅が咲いたこと

片意地を張らずに腕を組みましょう

日の丸を揚げてカラスに褒められる

岡山市 前田 恵美子

反抗期やめて可愛いおばあちゃん

おせつかい少し控えて昼寝する

ボチボチとコツコツ続く意地はある

輝かぬ頭もあると役に立つ

お風呂から無事に出るのを待つ夫婦

笠岡市 藤井智史

愛は勝つ氣迫のむき出しな素肌  
心地良い大地だ愛のひざまくら  
メロメロな恋のハイビームを放つ  
クリームをたっぷり入れた愛を食う  
古本屋巡りが続く夫婦愛

広島市 岸本清

シュレッダー喧嘩の火種一つ消す  
閉ざされた思考へ心解き放つ  
リフレッシューいつもゴロリと寝ころがる  
直ぐにでもリセットしたいこの身体  
「新型コロナウイルス」車のことと思いきや

竹原市 岩本笑子

どっこいしょ私の足は葉漬け  
幸福な一日だった空の青  
たし算も引き算もして春に  
翼が欲しい娘泊まりに来るといふ  
みかん剥く心優しくあるために

三原市 鴨田昭紀

ハッシユタグ付けて私の身を守る  
氣遣いをしながら廻る夫婦独楽  
流されて流れて人生の旅路  
白か黒中間色はない頑固  
下積みの汗は知らない七光り

岩国市 上村夢香

先生の厳しいことば胸の底  
雨の日の読書三昧非日常  
燃え上がる想いばかりで遠い人  
歯医者さんに胸の奥まで見透かされ  
日記には失敗ばかり綴る文字

宇部市 平田実男

一石を投じる人が居ぬ与党  
顔を洗って答えなさいよ安倍総理  
米寿です腹八分です医者知らず  
何よりのサプリメントに褒め言葉  
スッピンになれた実家も遠くなり

下松市 有海静枝

出来ないと決めてかかって引いた線  
暇ですか問うているよな昼の月  
わたぼうし飛んで行きます良い方へ  
凍えている春のうららの人の輪で  
待たすより待つて作句をするつもり

防府市 坂本加代

本人が言うことだけを信じます  
五欲から一つ取っても生きられぬ  
ほろを着た立派な人は巷にも  
家を出た雛の集団町おこし  
先祖の田有事に備え守り継ぐ

受話機から福顔浮かぶお人柄

鳥取県 門村 幸子

生きる力振り絞ったら鬱が来た

もの忘れ今のわたしを直視する

得心す加齢の中に妙味あり

どうせなら受け止めましょう老いの影

鳥取県 斉尾 くにこ

あいまいに一礼二礼初詣で

取り残されたレトロな街が新しい

寒風を突けば鯛焼き屋は休み

お陽さまの好きな水仙持ち帰る

手足鼻伸び伸びとセカンドライフ

鳥取県 竹信 照彦

立春にやつと来ましたこの寒波

身に染みる寒さを生きるバネにする

運転免許更新に生きるバネ

免許証あるから行ける各句会

高齢者講習ボケる前に行く

鳥取県 山下 節子

春を呼ぶ窓をしつかり拭きました

私のくらしの知恵は母ゆずり

ずるずると居座ったのはお姑さん

新聞に今日のニュースは載ってない

鍋囲みほっこり和み外は雪

いつの間に窓辺で読書暮れている

鳥取県 池澤 大鯨

銀行の窓口無縁カード潰け

エアコン頼り窓の開閉忘れてた

AIがいつか心の窓を持つ

妻の承諾をもらって今日は縄暖簾

鳥取県 奥田 由美

亡き人の気配感じた寂しき夜

百歳が元気な犬とする散歩

桁違いの財がもたらす内輪もめ

コロナウィルスで右往左往の五輪前

留年に甘い採点する追試

鳥取市 加藤 茶人

よくもまあそんな大金詐欺に遭う

損をする仮想通貨の裏表

ニンニクに青汁緑茶どれ効いた

取りあえず七十五日ただ黙り

体操着娘から母へと受け継がれ

鳥取市 岸本 孝子

内祝包むふくさも弾んでる

氏神さんに子宝連れて礼参り

朝の茶柱ころほっこりさせてくれ

勝ち負けはどうあれ私トラファン

宝石は分相応が美しい

鳥取市 倉益一瑤

リズムになれば祈りの形になる  
仰直りしたいつぶやきだつてある  
下積みの汗は私を裏切らぬ  
今下手に動くとのにされそうだ  
儂きものを閉じ込めてする棺の蓋

鳥取市 田賀八千代

人と人繋ぐお酒も武器になる  
正直に言えば許すか兩上がり  
まだ修行足らぬとハスは閉じたまま  
咲く日まで耐えて女は寝たふりす  
フワフワの音符で迷い道ばかり

鳥取市 田中天翔

車間距離よりも難儀な人の距離  
悩みごと笑顔にであい消えました  
麴屋さんの味噌作りなら即参加  
こうじ三倍ただ今みそは発酵中  
タッパーを持って娘が味噌取りに

鳥取市 棚田大

孫笑う俺のストレス消えちゃつた  
あちこちに新風吹くもまとまらぬ  
あせるなよそう言う上司声弱い  
まさかとは人間だけの言い訳よ  
副作用あちこちあふれくらくらだ

鳥取市 谷口回春子

二枚舌わたしは無理です閻魔さま  
あつかんべえ背中向かつて独り言  
木蓮に生き方学ぶ日なたほこ  
忠告に後ろ姿が返事する  
朝昼晩無言で食べる久し振り

鳥取市 永原昌鼓

挨拶は一言ですむ寒いねえ  
ドッコイシヨヨイシヨは老いの応援歌  
彼の人も苦勞したんだ背が丸い  
ずるずると居座り婿になりすます  
石垣に城主の誇り見てとれる

鳥取市 中村金祥

確定申告不要さみしい年金者  
朝ドラのおかげ規則正しい朝を終え  
真実へ無言貫くこと出来ぬ  
新型で色づけされる世界地図  
買えぬマスク布団に潜るしかないか

鳥取市 夏目一粹

ほめ言葉だけはメモして持っている  
老骨に今でも鞭が飛んで来る  
そのうちに途中下車して徘徊す  
髪切つて終わりにするか冬の恋  
自由とはいいいなツバメがやって来る

鳥取市 副井 ゆたか

子や孫とスペイン旅は夢の日々  
バルセロナ芸術演げの午前午後  
サグラダの雄姿目の前息を呑む  
ブラドにて名画堪能一万歩  
矢の如く過ぎたスペインいざさらば

鳥取市 福西 茶子

乗り心地割りと良かった救急車  
まだ役に立てよと亡母の檄が来る  
雪降らぬ山陰除雪車が錆びる  
ダウン着ています二月の十八度  
つぶやいて歌って捨てるウツひとつ

鳥取市 前田 楓花

ひなびたが青春がまだ残る町  
友達はテレビと言おう一人の日  
正確なのは十二時の腹時計  
かぎ針のひと目を拾う確かな目  
他人事で祝杯ばかりあげている

鳥取市 山下 凱柳

許しあうたび夫婦の絆深くなり  
今年こそ誓い二ヶ月無為に過ぎ  
一強の歪か不正次々と  
コロナ菌で泣くに泣けない観光地  
ホップステップジャンプしたいな五七五

鳥取市 吉田 孔美子

展望不問高速道に沈む村  
絵描きだった命日とした文化の日  
今更なんだ逃げたんだ天国へ  
極暖の下着先輩面の夫から  
もふもふの形見を野良に下しおく

鳥取市 吉田 弘子

大臣が育休をとる世の変化  
心では羨ましいな突然死  
露のとう採る一月のウォーキング  
雪不足もう案じてる水不足  
国賓はサクラの頃のおもてなし

倉吉市 猪川 由美子

改ざんや隠蔽与党呆れるわ  
先ずは見た目顔は多様に表現す  
有名人故に代償大きいね  
防犯カメラに見られていることを忘れ  
横綱不在下位の力士がチャンスだぜ

倉吉市 岡崎 美知江

明日はオベ生きる力を吸っておく  
嫌な事ワハハワハハと落しとく  
あっさりと介護施設へ行った友  
文を待つ施設の友へ四季の風  
よく見れば好きも嫌いも女偏

倉吉市 田中紀美恵

もたもたで片付け出来ぬ八十路なる

我が家ではかかあ天下で円満だ

令和なり天下泰平祈るのみ

どっこいしょそろそろ来たか老いの年

耐える事教えてくれた母感謝

倉吉市 牧野芳光

泥まみれの姿子供に見せておく

日本語と格闘をした跡がある

発掘をする鉱脈が薄すぎる

かき混ぜて水と油をそそのかす

家族の糸を手品のよりに繋いでいる

倉吉市 山中康子

退院後我が家のベッド気楽です

宝ですひ孫と遊ぶ日夢にみる

九十四厄病神はおことわり

好き勝手叱られそうで温かい

今一度みんなわいわい騒ぎたい

米子市 池田美穂

福豆を亡友の分まで倍食べる

福か鬼か節分に産まれた子

豆撒き後鬼も一緒に誕生会

隠してた角も平気で見せている

鬼ならばせめて可愛く歳をとる

米子市 伊塚美枝子

新しい日記に書いた「変りなし」

第三次ボウリング熱来た私

お兄ちゃん私妹たよらんで

雪が無く愚痴も聞こえぬ墓参り

墓参り終えた帰りの涙雨

米子市 後藤宏之

カットカット偽の涙とすぐわかる

神様の名覚えることはあきらめた

現金はないがカードの残はある

縁結び会議来年まで待つて

古傷にお互い触れぬようにする

米子市 後藤美恵子

七十余年ほがらかな空続いてる

病み上がりちよっと頬紅刷いて出る

負うた子に負んぶしてよと言ってみる

八十路半ば飲むな転ぶな子の注意

子の貰うチョコの分け前期待する

米子市 竹村紀の治

腰痛が治ると酒がなお旨い

コンビニでトイレを借りて水を買う

バスデー自分を褒める八十五

古疵も酒の肴にしてしまふ

人生のスパイスにする赤っ恥

米子市 中原 章子

大寒に春の日差しを浴びている

肺炎に罹らぬようによく眠る

弱いから人の気付かぬこと気付く

遠く見る力次第になくして

油断せず元気な春を待っている

米子市 成田 雨奇

米子弁飛び交う蕎麦屋大晦日

酒飲めず九時にならないうち寝る

目の前にあることだけで日が暮れる

加齢とは思いたくないもう夜だ

医者言うとおりで二月に友が死ぬ

米子市 野川 宣子

新しい風吹いて我が家も代替り

裸婦の絵にあちらこちらが負けている

細身でも秘めたパワーは衰えぬ

ゴールまで走り切りたいこの足で

運送きのつばみキラリと個性出す

高根県 伊藤 寿美

皇后の涙その道のりを推し測る

干支はじめ屋根裏走る同居人

オーイ雲あなたに恩が返せない

梅日和帰省した子の鬢の白

クルーズ船を幽霊船にするコロナ

松江市 石橋 芳山

敗北のなからなにを死とするか

嫌われたままで波打ち際の石

棍棒の長さが丁度いい

慟哭の海へと続く非常口

月光に舐められ淑女から熟女

松江市 藤井 寿代

バレンタイン笑顔の束を送ります

窓枠をはずしひとりのパラダイス

負けてなるものかとラケットを握る

家事育児とつくに二〇〇万越えました

断捨離の中に私も入ってた

松江市 松本 知恵子

大雪に父とサバ缶食べた冬

回転寿司くるくる孫の目も回る

百年を湧く水飲んで元気出る

ワテンポずらした位置で時を待つ

曖昧なもやもや感も良しとして

出雲市 伊藤 玲峰

遣されし夫の帽子に見守られ

グランドゴルフ寒空の下友の輪に

出雲大社神に護られ恙無し

浮き浮きとして居れない老い進む

川柳で脳の運動呆けません

雲南市 菅田 かつ子

老い磨く仲間と歩くスニーカー  
ばあさんが好きな鳥が寄ってくる  
じゃまたねそれが別れになろうとは  
友人の哀れあなたはどなたはん  
せつかなわたしでまたも待たされる

松山市 栗田 忠士

清音も濁音も抱き生きている  
厚底の靴を笑っているアベベ  
明日開く夢に震えている蕾  
言い訳は嫌い嘘八百はなお嫌い  
古希の語が死語になりそう長寿国

松山市 古手川 光

冬木立わが人生の今を見る  
次俺かクラスメイトが亦逝った  
肖りたいあの雑草の強さ  
過疎進む母校が消えている故郷  
世界共通語か動物の言葉

松山市 柳田 かおる

髪を切りました恋などしてません  
あほやなあと言われて悪い気はしない  
真ん中に噂をおいて渦にする  
不条理に食べなくなったカップ麺  
人間に見えない敵が居るのかも

西予市 黒田 茂代

四季の花自由に咲ける庭がある  
控え目に貝母存在いとおしい  
純白を誇る高貴な雪椿  
清楚でも存在確かと肥後椿  
娘の植えしいとしき椿名はさくら

西予市 西田 美恵子

蛇口全開娘の肩が泣いている  
謝りたい事がありますお亡母さん  
ポツクリ逝きたいなんて本当なのですか  
真心がああロボットにありますか  
子の我慢に親も我慢の日が続く

東かがわ市 川崎 ひかり

自己喪失答え求める遍路旅  
帰路急ぐ猫が私を待っている  
頑な老いに風穴開けた猫  
プチ家出タマも年頃反抗期  
モンブラン二個で吹き飛ぶ今日のウツ

北九州市 小松 紀子

色あせぬ亡母のおもいで胸にだく  
喜び楽しさきちんと感じたい  
鉛筆をにぎったままで寝てました  
自問自答やはり私はぬけている  
だれかのため何かが出来る幸せ(ボランティア)

抱き締めれば骨折しそう瘠せた妻  
唐津市 坂本蜂朗

鬼の留守仲間集めて無礼講  
子の帰省庖丁研いで待機する  
亡き友の残した酒と語り合う  
食事より制限したいのは薬

唐津市 山口高明

遠来の親友へ封切るVSO  
出張へ常宿あつた良き昭和  
注射する女医を睨んだ女の子  
黒出る怖いお山で茸狩り  
入るのは別と永代頼む老婆

熊本市 杉野羅天

ウエストにゆとり若さを取り戻す  
毒の無い野菜を食って毒を出す  
老化対策まず水分の補給から  
主病んで草芒芒の畑なる  
蝶よ花よと初孫の喉仏

札幌市 小沢淳

待つことに馴れて雪さえ友とする  
立春もこちらは北の冬の底  
一歩引くゆとりもなく冬ざれる  
取り戻せ領土も拉致も青春も  
徳勝龍ファンも負けた春の酔い

積雪ゼロ貯金も底が見えている  
純白のドレスが着れぬ岩木山  
鬼は外みんな我が家によつてくる  
指メガネ僕には見える僕の道  
二十七回忌ですよねお亡母さん  
弘前市 稲見則彦

カラスに負けじ鋼鉄のゴミ置き場  
ゴミ出し日知つたカラスも寄り付かぬ  
山不作冬眠できぬ熊歩く  
いち日に何か読まねば気が済まぬ  
未だ少し残る八十路の探求心

弘前市 今愁女

テキパキと四月を捌く交差点  
バス旅行美肌で妻を誘い出す  
笹かまのあてに晩酌恙なし  
言い訳をおしえてくれる仕舞風呂  
ガラケーを替えてはみたが日は差さぬ

塩竈市 木田比呂朗

損得は言うまいいつか返される  
晩酌にラストオーダー断わられ  
レトルトが詳しくなった妻の留守  
標本のように二人の歯を並べ  
要人を試してみたい国語力

横浜市 菊地政勝

さいたま市 星野育子

予報士を悩ます春の乱高下

大臣の育休まだニュースになる

見てるのは消音テレビ待合室

知識より日々役に立つ知恵がある

メモ書いてみかんを乗せて忘れ物

上尾市 中村伸子

湯たんぽの柔らかき湯で朝支度

もう捨てる辛い悲しいドラマなど

飲めませんがワインなら少しだけ

初期化する大事な物が消えて行く

絵に描いたような夫婦に来る別れ

東京都 川本真理子

春の家族みな窓際に集まって

亡父がまだいるような気がふとしたり

仕方なく相槌をうつ姉の愚痴

お引越し残った猫の目は緑

回し続ける手回しのオルゴール

東京都 まえで とよこ

森林火災ミツバチ花をうしなつた

もうくたくた煙のなかから消防士

いざ支援へこころによりそう自衛隊

はやばやと武漢へとんだチャーター機

クルーズ船へまったをかけたタイミン

八王子市 川名洋子

あの世へはプラマイゼロで逝くつもり

胸に住むさりと触れて消えた人

逆走のニュースに我が身重ねみる

着膨れのラッシュで先ずは一仕事

独り居の鬼いないのに豆をまく

可児市 板山まみ子

次々に知らぬ言葉が押し寄せる

受け答えチンプンカンのカタカナ語

なぐさみに脳トレ本に手を伸ばす

楽しみも仲間あつての草テニス

柳界の八十歳はまだヒヨコ

大山市 関本かつ子

ハンドルの右折左折に声を出し

温暖化かも大根も太り過ぎ

クラス会みんな無事かを確かめる

早送り得意になつたいやな事

診察券ズラリ並べて一つ取り

鈴鹿市 小河柳女

太陽のような家族で満足する

とんぼが描く美しい輪であった

悲しみの背骨を通る木枯しよ

忘却の人とかくれんぼの毎日

すべり台人生すべり完

富山市 島 ひかる

立春によくやく富山雪景色  
許しても佛ごころにまだなれず  
ありがとう言つて言われている笑顔  
昨日より一ついいこととして安堵  
生きてゆく心の花を活けつづけ

神戸市 上田 和宏

襟を正して引いたみくじを祀つて  
一つ気づくと三つ捨てたいものが出る  
赤い糸白くなつても切れもせず  
やり出したら途中でやめぬのが自慢  
茜雲天女の舞いに見えて吉

神戸市 奥澤 洋次郎

おいでおいで常に病気は待つている  
AIの世では生きれんだろ私  
法律が夢の途中を持ってゆく  
オリンピックをウイルスが脅かす  
野の花に出会い私をとりもどす

神戸市 敏森 廣光

コロナウイルス世界が一つになれる敵  
もつともつと馬鹿になれたら楽そうや  
朝の体操無事確認のシニアの輪  
年男次回が遠く見えてきた  
積み上げた書物ほどには無い知識

神戸市 能勢 利子

三歳にはジイジが見えている仏間  
歯と脚を大事にしたら百歳に  
川柳のおかげ退屈とは無縁  
暖冬で多少安い光熱費  
小柄な人が長生きすると医者と言う

神戸市 山口 光久

躰いた小石が注意してくれた  
尾を振らず干渉されずマイペース  
ポケットの数だけジョーク持ちたいな  
ほどほどの暮らしが至福だと思ふ  
もう少し飲んで雲海泳ぎたい

神戸市 山口 美穂

歓迎できぬウイルス海越えやつて来て  
蠟梅の香りと語る亡母をふと  
チヨコレートも餡こも好きな老女です  
今年もお会いできた難さ美しい  
老人が生き辛い世になる決議

神戸市 山崎 武彦

突き上げる胎児の明日へ毛糸編む  
とんとんで上出来僕とお前の子  
びつくり水かけると「しやん」とする夫  
湯通しをしたい男が威張つてる  
盛装を解くとやっぱりお婆ちゃん

明石市 糀谷和郎

変えられぬ昨日変えられる明日  
どちら付かずグレーのままでほつとする

森行けばアートの気配息づかい  
電磁波の網に絡まれてこの世  
怠け癖が脇の甘さをすり抜ける

尼崎市 近兼敦子

どこいった大きな夢があったのに  
がんばってみても届かぬ恋ごころ  
おこづかい減額されて早二年  
シヨウウインドウ映る姿は残念だ  
夢の中母も一緒に若返る

尼崎市 永田紀恵

ままごとのあの日もオレが夫だった  
垣根越し媚を売ってる落椿  
今年から秋桜見る会にする  
リズムカル35810消費税  
鐘ひとつ愛敬も要るのど自慢

尼崎市 藤井宏造

手のひらの筋を見ながら日向ぼこ  
東京五輪そうか今年は閏年  
両の手で握手してくる熱き人  
文句言う尖らす口は父譲り  
微罪なら数えきれないほどにある

尼崎市 藤田雪菜

心機一転春の口紅買いにゆく  
焼魚しないお家もあるみたい  
独り居に風呂メシ炊けた電子音  
美容院で済ましています週刊誌  
髪型を短く変えてチャレンジャー

尼崎市 山田耕治

黙っていたらえらかったなと褒められた  
亡母の言う耳鳴り僕も聞こえてる  
笑い上戸の妻の遺影とにらめっこ  
わたくしの引退試合泣くだろう  
家族写真父が出征する写真

加西市 山端なつみ

関空をガラガラにする新型コロナ  
ウィルスを防げないけどマスクつけ  
アンコール・ワットの日の出手を合わす  
快眠快食快便気楽旅  
憧れのクルーズ船がブリズンに

川西市 山口不動

運転はあと三年と今日決める  
ウィルスは避けて通ると信じてる  
早起きはゴミ当番と犬散歩  
ペランダを満艦飾に三婦人  
旧友のホーム知らせる便りくる

三田市 足立 つな子

まだまだと興味しんしん目を肥やす  
ゆつたりと湯浴みに浸る旅の宿

綾取りを教えた孫も今スマホ

長寿国今後の憂いうけとめる

母がいてこそ代り映えない正月も

三田市 上田 ひとみ

だけでもう私の線は消せません

ええ顔を見せようなんて思わない

ゆらゆらりもうただよっているばかり

迷わずにYESと言えた五年前

抱きまくら何でも話すお友だち

三田市 大西 重男

我が娘父さんこえて爺と呼ぶ

夜の静寂人恋しさにじつと耐え

想い人來たらず過去は風化して

湯に入るも冷めた心は温もらず

暖冬でヒートテックもお蔵入り

三田市 尾崎 一子

二月七日雪が積った里便り

初しほり新酒が届く亡夫の忌

逢いたい未練断ち切る南無阿弥陀

菓子ひとつ供える孫はじいちゃん子

孫と交わす一分トークあとわずか

三田市 九村 義徳

人目にはおしどり夫婦に見えるらし  
若さいい老いもまたいい春を待つ

公園に石蹴り出来る石がない

蓋をしてじっくり煮込む母の訓

開けないで私ただ今思案中

三田市 多田 雅尚

薬局もコンビニさえも無いマスク

二メートル離れ横向き会話する

感染が二次も三次もある怖さ

金やんにノムさんも去りボヤキ減り

外科はメス入れ菌科はすぐにも抜きたがり

三田市 谷口 修平

老い二人無口にさせた虎落笛

雪ダルマ今年はついに見なかった

冬銀河独り見ている不登校

着メロで振り返られたコンサート

寒空に団扇太鼓が行く素足

三田市 野口 真桜子

カビくさい過去を背負って夢を折る

はんぶんの闘志で生きて残す余地

穏やかなベンギンまでも飛びたがる

昭和史のプリキのバスに乗ったまま

曼荼羅の悟りを背負う頭陀袋

三田市 福田好文

高砂市 松尾柳右子

ウィルスでヒト科絶滅する予感  
もう迷うことはなからう帰り道

飲みぐすりきつちり欠かさないう弱気  
ああ平和成人式の艶やかさ  
雛壇に思い出めぐるちらし  
目に見えぬ菌に脅えているマスク

泣き止んだ妻がピシヤリと戸を開める

春の陽に映える園児のユニフォーム

叱られた上司に出合う喫煙所

宝塚市 丸山孔一

コンビニで今年の恵方聞いてくる

宝塚市 丸山孔一

三田市 堀正和

宝塚市 丸山孔一

平成は平和だったねよかったね

いいんだよ力いっぱいやったから  
背のびして手を伸ばしても高い空

令和初誕生日だが変りなし

切手代不足の付箋友の信

堂々と優先席に座る歳

日本を背負う代議士居ないのか  
汚すまい神から借りたこの地球

砂風呂で老若男女アクを抜く

丹波篠山市 北澤稠民

大寒を過ごす南国湯治宿

三田市 松本ゆかり

丹波篠山市 北澤稠民

冬の海安全神話を碎いた日

三田市 松本ゆかり

デジタルとアナログ肩寄せている茶の間

軽やかに春の息吹が風に乗る  
要領もお世辞も下手で生きて行く  
儲けより働くことに喜びを

千年の桜春への深い黙

道ばたの野草は春を裏切らぬ  
生きてゆく今日はいいことあるかなあ

闘病を世間に売るといふ無残

丹波篠山市 酒井健二

ごきぶり出て夫の権威取り戻す

三田市 村田博

丹波篠山市 酒井健二

ご当地検定バッチに宿る郷土愛

三田市 村田博

縁の無いバレンタインに拗ねている

真剣に好青年がマンガ読む  
もうやめた頼まれそうや保証人

ウィルスが怖くて息を止めている

本当の病気を医者は気づかない  
嘘のないあの世と言うが見てきたか

暖冬を少しぬるめの燗で呑む

ユニセフにポイント貯めて極楽へ

手探りでジャブを放っている闇夜

丹波篠山市 長谷川 善 輔

予定表空白の日に沁みる古い

よく当たる見るだけ競馬年金暮らし

武親子ファンで過ごせた競馬歴

お手ぐらいしろよと猫にほろよい酒

ウィルスが世界を蓋い世も末か

西宮市 秋 元 てる

ぶら下がる命重たい老いの初春

敬老会もう卒業と宣えり

病室も砂漠にあらず住み馴れる

日毎夜毎故郷恋しと母白寿

人も国も冷え切る碌な事がない

西宮市 緒 方 美津子

二才の兎耳掻き持つて膝にくる

無口な二人けんかしているわけでない

商魂とわかるまつりの抜け目なさ

春うらら高くとびたいシヤボン玉

名は知らぬ鳥の運んでくれた花

西宮市 亀 岡 哲 子

ヤンチャ坊主の喪主の涙が止まらない

余命三年こらえた涙ワツと出る

今更に優しいことも言えぬまま

柿レモン柚子も実ってなお寂し

思ひ出の家も更地へ三回忌

西宮市 西 口 いわゑ

あつと言う間に如月の音になる

お祈りが届いたらしい雪が降る

鏡たちもう付度もしてくれぬ

ときめいた小紋眠ったままである

六Bとまだまだ旅が出来そうだ

西宮市 福 島 弘 子

追悼文声もふるえる震災忌

花よりも水菜や三つ葉プランター

一工夫のポテトサラダがすぐ空に

小京都レンタルサイクル春はそこ

貸農園師匠が多くまた迷う

西宮市 福 田 正 彦

抗った心静める寒の月

立春の寒の戻りに凜となる

望んでた楽しさ見つけ持ち帰る

聞き上手裏の裏まで知りつくす

切れそうで切れない糸で支え合う

西脇市 七 反 田 順 子

もちの実を鳥が群れ食う心地良い

マドンナも贅肉つけて同窓会

ロボットは素直に作動いたします

万歩計休んで鳴の数かぞえ

クルーズ船新型コロナ騒然と

南あわじ市 萩原 狸月

奈良県 長谷川 崇明

凡庸に生きて咲かせた小さい花

古民家の眠りを覚ましレストラン

裏口をノック論吉の悪だくみ

消去法みな居なくなり棄権する

要求を叫んでいればすむ野党

奈良県 安福和夫

キャッシュレス他国に遅れ国焦る

奨励5バーヤつとオバちゃん動き出す

スーパールのレジの流れがスムーズに

小銭入れ持たずに主婦らカードパス

初給金手にした昔なつかしい

奈良県 谷川 憲

古都の夜鬼が走って福を呼ぶ

朝日浴び体内時計整える

お小言を何かともらう定年後

人の機微までデジタルにせんといて

核無くせ終末時計あと僅か

奈良県 中堀 優

たよれる君だけどいつかは敵味方

極楽への階段なるときつすぎる

前向いて自分の足で歩いてる

恒例の新年会に逢える彼

今日までのしがらみ落とす那智の滝

八十歳百歳の旅いま途中

今更を変えて今から趣味の道

温暖化世界欲しがるノーサイド

微笑の羅漢訪ねて亡母想う

縄のれん今更聞けぬ君の名は

奈良県 渡辺 富子

原発は必要ですか海が問う

賞味期限過ぎた夫婦にあるゆとり

年金と寿命のバランスとれますか

生き生きておひとりさまになる定め

老いの樹海行く手に待っている気配

奈良市 宇賀 史郎

自国主義世界蔓延する地獄

値をチェック鮮度見分けた妻の膳

綻びを繕って着る亡母手編み

馬酔木咲くあなたと二人奈良の旅

ほっとして回復願う退院日

奈良市 大久保 眞澄

カップ麺は3分だんまりは5分

鯨ぐらいで逃げる鬼ならもう仲間

密出国して人前に出る時代

頭の黒い箱入りネズミ空を飛ぶ

魔女に戻ってほっとしている美魔女

奈良市 加藤 江里子

力士からまだこれからと教えられ  
さりげなく自分の色を出せる人  
飾らない言葉に背中押されてる

直哉邸家族思いの直哉識る  
クルーズ船にもう乗りたいと思いません

奈良市 高橋 敬子

あどない頃が一番多い子の写真

受験生緊張さらにコロナ菌

早い感染いまこそ世界ワンチーム

大人がはしゃぐあどない孫の初節句

まだ桜責める野党のふがいなさ

奈良市 辻内 げんえい

税務署は年一回のお付き合

六十の歳の差あつて同じ夢

叱られて免許返納気が楽に

熟女には歳を聞かずに干支をきく

やんわりと叱ってくれる孫がいる

奈良市 山本 昌代

歳歳と歳を連発して逃げる

趣味の会こころ励ます栄養素

風吹いて宙ぶらりんになった僕

健気にも笑って耐えている椿

リハビリで笑い出てきたのは確か

奈良市 米田 恭昌

三次会本音こぼした気のゆるみ

初アートのたどきどきとしてただけ

キャッシュレスアナログ吉じにややこしい

昭和のバブル期懐かしネオン街

人と人の絆にウイルス跋扈する

生駒市 飛永 ふりこ

出しゃばらず俯瞰のゆとり保ちたい

春を呼ぶ遮二無二殻を破りつつ

久久に念願適い師の墓参

つつしみもあまりすぎるとしんどなる

鈍臭い左足です蹴躓く

香芝市 大内 朝子

躍動の大地くすぐる足の裏

わくわくの魔法をかけに春がくる

安定剤因太い神経が欲しい

今日よりも明日はいい日と大落暉

浄土への道をにこにこ生きている

香芝市 山下 純子

神様にちよつとのぞき見されました

夫婦愛保つアイテムほめ言葉

ときめきを少し残して古希迎え

恋してるおハダのつやが語ってる

神主から相談受けて悩み聞く

和歌山市 上田紀子

閏年得をしたのか損なのか  
父の事母の来し方沙羅双樹  
古民家に惹かれ住んでる異国人  
雨も雪も感謝忘れず道祖神  
少数派の中に紛れていた誠

和歌山市 柏原夕胡

終章は椿のように括りたい  
沈黙を破る爆弾抱いている  
隙あらば七つの吹矢飛んでくる  
人の輪の色とりどりに咲く世界  
黒を着てパーズンロード歩きたい

和歌山市 喜田准一

いいもんだ着物姿の裾模様  
隣まで聞こえたいびき否定する  
降りそうな雨に妻から指示が飛ぶ  
一張羅着せられ男落ち着かぬ  
判断のつかぬ弱気で医師不信

和歌山市 坂部紀久子

下書きが突然変わる午後の客  
ドラマのように普段の会話進まない  
メールのみ声出さぬ日が今日もまた  
右往左往世界に遊ぶ細菌よ  
日本の半分火災という地球

和歌山市 土屋起世子

言い訳をそうかそうかと温い膝  
にこにここと騙され上手年の功  
真実に触れない友の温かさ  
揉めそうな財産なくて温い家  
細く長く歩きたくて杖を買う

和歌山市 福井菜摘

どん底で開き直った無の力  
ノックする勇氣苦境を切り開く  
好奇心全開にして子の船出  
ワンカップ大きな事は望まない  
陽の当たる部屋で翼の手入れする

和歌山市 古久保和子

丸いポスト丸い手紙を書いている  
本社から出向で来た宇宙人  
レンジでチン熱い心が届かない  
三食へおやつは欠かせないルール  
三月三日心華やくまだおんな

和歌山市 堀富美子

緩ませて笑い皺から初春が来る  
バス停のお馴染み様が問う無沙汰  
よくもまあ生きたものだ豆の数  
十人十色少し混ぜたい私色  
亡夫には見せたい三人の曾孫

和歌山市 松原寿子

丹波路に和み紡いでいくドラマ  
ローカル線車内で切符買い求め  
澄み切った空気が頬を撫でていく  
納得がいかないままに捻子を巻く  
悔しい日の涙やんわり目を閉じる

岩出市 藤原ほのか

晩酌はノンアルだと決めている  
万歩計つけて寿命を延ばしてる  
ゆったりと流れてやがて辿り着く  
出演を頼まれ本領発揮する  
花束をプレゼントされ愛誓う

海南市 小谷小雪

まだ夢の続きが待つさ走ろうよ  
居眠りへも時を知らせる古時計  
手にキスを受けばあちゃんのどつきどき  
私でも頼ってくれるから泣かぬ  
紙飛行機虹をくぐって行きました

紀の川市 山東日出男

あと五分早く起きると言う布団  
風呂場から今日も聞こえるニニンが四  
着膨れてミノムシ君になる私  
覚えてもひと晩経てば消えていた  
締め切りにいつも追いかけてる

橋本市 石田隆彦

嫁に出す思いの桃よ初出荷  
何もかも加齢のカルテ残される  
ばあちゃんは今日もお庭の草むしり  
百名山登った足だ杖要らぬ  
稀世の少女頭に碁石並べ

京都市 清水英旺

受験シーズンわが闘争もきつかった  
施設に居る友よ元気が春近し  
スマートフォンこなす同輩リスベクト  
ジジむさい形はさせぬと妻チエック  
いつの間にか食器洗いは僕の役

京都市 藤井文代

虚弱なのが用心してか病み知らず  
弱気でも独り言なら強くなる  
雨のバス停映画シーンの中と自負  
お正月寄り合う身内今ホテル  
春近しピンク着たいと病める友

長岡京市 山田葉子

やさしく聞いてもらって話進まない  
休会続く句会も歳を取りました  
着物姿ピタリきまつているゆとり  
誕生日今日の三つの感謝書く  
救急車近所で停まるのに慣れる

八幡市 今井 万紗子

再会を果せぬままに桜散る  
溜息一つ生命線がまた縮む  
ゴムスカートゆとりで挑むバイキング  
細い糸だが夫婦の絆ピンと張る  
家のアンテナ時々余所見して困る

大阪府 米澤 俣子

よろこびにまだ離れたくないこの世  
幕引きの気はいささかもない夕陽  
顔半分のマスクに台無し的美人  
忘れものごっこしている老い二人  
しあわせを明日へつなぐ水の音

大阪市 磯島 福貴子

笑点見て笑いころげる老い二人  
拉致家族タイムリミットすぐそこに  
気付かぬ内に踏み込んでいた徳俵  
あちこちと経年劣化我が身にも  
TVショッピング弱い心を突いてくる

大阪市 岩崎 玲子

手紙好き便箋選び楽しくて  
便箋がネット時代に泣いている  
包み紙本のカバーで甦る  
年金の暮しの中で知恵絞る  
ネギ刻む母のリズムで家廻る

大阪府 内田 志津子

あれやこれ喋りたくなる丸い顔  
生き様を責めるベッドの細い管  
媚び売らず凜として立つバラが好き  
不器用と器用があつて好い加減  
七千歩白い息はく河川敷

大阪府 宇都 満知子

染まらぬ二人コントラストが妙に合う  
乗り捨てられた自転車錆びてゆく  
風に遊ばれる閉店の貼り紙  
鳴き声はうぐいす容姿ならめじろ  
節分の豆一日で食べ切れぬ

大阪市 江島谷 勝弘

雪が降ればなんとなく嬉しい私  
プレバトなら僕は才能なしだろう  
4Kのテレビを買った夢を見る  
みんなほどオリンピックに興味なし  
ちよくちよくではアカンと思う休肝日

大阪市 榎本 日の出

靴ずれの前に張ってるバンソーコ  
どの国もマスク姿のすさまじさ  
この足で万里の頂上踏んで来た  
大好きな聡太君の九連勝  
思い切り豆を蒔いたがうつ飛ばず

大阪市 榎本舞夢

友入院なんでなんでと飛んでゆく  
落ち込んでる間もなく忙し大晦日  
心機一転年甲斐もなく張り切って  
平常心締切り迫る五七五  
友見舞う食事も出来てリハビリも

大阪市 大川桃花

鏡り勝った椅子で居眠りする議員  
男偏にしたい嫉妬という漢字  
孤食でも茄子の煮物に目が笑う  
肝心な所はぶれず生きて来た  
手の平の皺に余生を問うて見る

大阪市 大治重信

獣害を怒りながらも柵作る  
幕尻で優勝している頑張らな  
気がつけば女房と同じ年重ね  
味噌汁を吸り田舎の空気知る  
驚きはヘンリー王子の別荘地

大阪市 笠嶋惠美

息子一家と回転寿司のお正月  
成人式孫も振袖着ると言う  
二粒で幸せになる大いちご  
新しいタオルで祝う誕生日  
ひとりでははやく事なく自然体

大阪市 金川宣子

老いなければ字幕スーパ―読み切れず  
亡母の名を思い出せずにうろたえる  
時々はイタズラしてる温暖化  
受験生頑張る汗が手に滲む  
母の愛宿るほほ笑み永久に

大阪市 川端一步

人好きになつて十歳若くなる  
人間も遊びがないとすぐ折れる  
文は人言われてペンが進まない  
文豪に囲まれているボクの部屋  
心臓がつぶれる「痛め」闘病記

大阪市 古今堂蕉子

今日は良い日だな言葉が湧いてくる  
乾燥肌になった君と別れて  
あほさ加減に我乍らあきれている  
青信号せっかちな人呑気な人  
八十の壁が目の前引き返そ

大阪市 近藤正

新ウィルス威張りマスクは品不足  
桜疑惑総理の語学力テスト  
二度漬けはダメよ二度目の都構想  
付度した人のその後が気にかかる  
幕尻で優勝決めた下克上

大阪市 坂 裕 之

挨拶をすればすつきり出来たのに

商売を続けたいから免許証

まあいいか何でも許すお人好し

受付でマスク気になるお嬢さん

独りだけ納得してのお爺ちゃん

大阪市 高 杉 力

ツッコミを入れながら見るワイドショー

後から前から飴がバス旅行

いいことがなかった街に見送られ

亡くなった友の名消せぬ住所録

とりあえず尻尾ぐらいは振っておく

大阪市 高 杉 千 歩

老人ホーム集中力の邪魔をする

車椅子今年の桜逢いに行く

マイペース邪魔されながら生きている

桜咲く何度作った句が浮かぶ

一日がやっとスマホと遊んでる

大阪市 田 中 廣 子

腹這いで孫あやしてる長閑な日

昼も寝て夜も眠れる年のせい

山小屋のあかり懐かし山登り

甘い声素敵な出逢い待っていた

生かされてここまで来れた夢のよう

大阪市 田 中 ゆみ子

どこからか熱が伝わりくる句集

草餅を作りたいけどまだ仮設

毒りんご食べたらヒロインになれる

住み心地よいか背高泡立草

私にもできることありかすみ草

大阪市 津 村 志華子

懸命に生きた三万五千日

百歳に褒美出たのは其のむかし

天神さんもたまに息抜く繁昌亭

水仙のしとやかさには負けている

たまげたな四月が来れば九十四

大阪市 寺 本 実

お雑煮の餅が小さく刻まれる

ウイルスが変身重ねやってくる

出し惜しみしてた遺産で家が割れ

惜しまれて辞めたと妻に言っておく

外人に囲まれ折る初詣

大阪市 中 井 萌

笑っても泣いても二人なら笑う

生きる為食べ食べる為生きている

ダブルからツインに今は別の部屋

万博もオリンピックも二度の夢

たこ焼きを買い戻すくらいゆとりなら

大阪市 原田 すみ子

正月を仕舞っただけで早や二月

検査値も見た目も老化告げている

お互いの趣味不干渉距離保つ

普通で十分と小さくまとまる

暖冬でもやっぱり春を待っている

大阪市 平井 美智子

ラが鳴らぬままで売られてゆくピアノ

寒い淋しいサ行重ねて遊び下手

とりあえず大阪弁で切り抜ける

ありがとうと言ったら春がついてきた

青空にボカリと浮いている希望

大阪市 平賀 国和

昔の服着るため励むダイエツト

お気の毒楽しいはずの船の旅

美しい日本に合わぬ賭博場

品格を大事にしたい日本人

忘れまい中村医師の志

大阪市 藤田 武人

マンガ本また読み返す大掃除

おめでとう年一回の震えた字

わがままも気ままも老いの自己主張

上下など無し円卓の会議室

ささやかな充電になる縄のれん

大阪市 山本 加お里

久しぶり手をつなぎ寝た三姉妹

一坪の庭が私の癒しの場

急な雨道行く人に知らされる

入院しゆるりゆるりと生きなくちゃ

義兄の死に姉の泣き声もらい泣き

大阪市 横山 里子

目が合った障子の破れノラ猫と

ご苦労様一声かけて仏花捨て

仏滅でもないのに自転車で転げ

婆さんを演じて今日もデイケアー

知り合いの鬼も嘆いた人の世を

大阪市 若本 安代

神に手を合わせるだけで落ち着ける

声に出し夢を語れば叶うはず

いつまでも若いつもりだ飛んでみる

残された日々まだやれるやつてみる

目標を無くすときつと老いすすむ

堺市 奥時 雄

今年また雪見ないまま春がくる

梅桜顔だけ老けた写真撮る

春場所を兄弟で見る有難さ

鬢付けの匂い懐かし大相撲

四本柱今もあつたら大ごとだ

年金と相談しつつ医者通い  
勝算あり切札はまだ胸の奥  
里帰り母と至福の朝ごはん  
戦中派白紙委任の怖さ知る  
公園の鳩と話せるのが自慢

堺市 柿花和夫

堺市 源田八千代

車窓から仁徳陵を見晴るかす  
今は昔多忙極まる年度末  
バーゲンに唆されてすっからかん  
ルージュ引き元気はつらつ新社員  
血圧計年相応に数値出る

堺市 齋藤さくら

最初から負けるつもりです喧嘩  
優しさが顔に出ている初対面  
玄関に蜘蛛が一匹住んでいる  
道頓堀外人さんが減っている  
桁一つ違ってお茶碗拜んでる

堺市 坂上淳司

竹筒の灯りに祈る一一七  
一一七も三一一も忘れない  
後何年取り出ししようの無いデブリ  
秀麗の富岳死火山にはあらず  
鎮魂と癒し神戸の竹灯籠

鬼はパパ本気でママは豆を打つ  
許すこと出来て己が許される  
早世の姉に手向ける彼岸花  
美しい国にそぐわぬ再稼働  
ハイビスカス見ると寅さん思い出す

堺市 澤井敏治

堺市 遠山唯教

たくましく健気に挑む孫ふたり  
成長をするには薬よりも挫折  
老いふたり生きるよろこびかくせない  
ありがたい趣味を楽しみ明日へ立つ  
外出をすれば買出しさせられる

堺市 内藤憲彦

たもつ先生空から桜見えまますか  
ATMに上司のように指示される  
老けたとはお互い言わず友と飲む  
なるようになると思えば湧く勇氣  
車椅子それでも母は母のまま

堺市 矢倉五月

赤ペン片手に歌壇俳壇熟読す  
溜息を気付く人なく今夜もひとり  
同病の友が夢にも出る病床  
信じて飲んだ薬が効いた副作用  
よいこらとどっこいしよで日々暮れた

コンピニの弁当つづく家族葬  
とりあえず分からぬ鍵は箱に溜め  
パソコンの名刺はどこか品がない  
陣痛が始まり妻は化粧する  
梅干しが桐箱入りのプレミアム

池田市 太田省三

納得はしたが気になる処方箋  
七度五分の熱がわたしを弄ぶ  
古日記宝石箱になった過去  
時代小説わたしを包む子守唄  
ゴミ仕分け覚えるだけで惚け防止

貝塚市 石田ひろ子

湯治場でまったり交される本音  
木で寝てるだけでコアラは人気者  
見渡せばこんな幸せ者いない  
おっと危い手元足元黄信号  
ラジオ体操集うシニアの声デカイ

河内長野市 大島ともこ

お見舞いは長居無用の自然体  
ピンチにはポーカーフェース押し通す  
お気軽に吐いた台詞が毒を撒く  
平凡な家族にたっぷりの日差し  
日本中祭りの新日本風土記

河内長野市 梶原弘光

細ほそと命の泉まだつきず  
楽隠居いつも日曜二十四時  
俺お前心の扉ない夫婦  
二分備え八分の暮しする余裕  
寄席を聞きネタを自分とかぶらせる

河内長野市 黒岩靖博

紅と眉きりりと書いて家を出る  
ただいまとまず覗き込む台所  
都合により今日は老人らしくする  
数珠握り一人になった友想う  
ときめきが生きる力を掻き立てる

河内長野市 辻村ヒロ

前置きの長さに老いの出た証拠  
特別の日でもないけど鰻食う  
亡父の背のようだしやきつと水仙花  
聞こえるよ地球のあげている悲鳴  
全自动脳の回路を錆びつかす

河内長野市 中島一彌

家族より医療費かかるポチとタマ  
生きたら我慢訓練かもしれぬ  
妻不機嫌記念日昨日今日気づく  
ぴんと来る子供はいつも妻に付く  
早起きはするが欠伸と独り言

河内長野市 藤塚克三

— 31 —

河内長野市 村上直樹

寅さんはいいな今でも風のまま

旨酒にとろり明日へ繋ぐ夢

薄給の孫から妻へそつとチヨコ

生命線だんだん細くなる不気味

年金を頼りに百寿目指します

河内長野市 森田旅人

気が付けば父母の居ぬ世の喜寿傘寿

ときどきは号令かけて家族の輪

家族の輪笑顔の花が咲いている

病室のわだいな花見に行きましょう

みせているゆとりは痩せ我慢ですかしこ

河内長野市 山室光弘

謳歌する春もシニアも独り身も

数知れぬやんちゃ年貢の納め時

寒い夜は湯気も御馳走独り鍋

孫受験桜咲くまで酒を断つ

異性よりスマホが相手少子化に

岸和田市 岩佐ダン吉

敗けましたよい勉強になりました

一肌を脱ごう私でもいいですか

あの時は勝ったと確か思ってた

手が届くこんなところにある善意

芝居でもいいではないかあの汗だ

岸和田市 宮野みつ江

最低温度が出た日梅ほころぶ

初雪へ水仙満開の便り

町内で今朝また独居老人死

独居死の不安のつもの風邪の熱

「花嫁人形」口ずさむと今も涙

岸和田市 雪本珠子

何気なく言った言葉の副作用

うすうすは知っていたのよ裏の顔

生きてればドラマのような事もある

人生の森で学んだ生きる道

新風を吹き込み脳を活性化

四條畷市 吉岡修

ウイルスにすぐ汚染する泣きばくろ

髪染めて心も染めているらしい

あと五段いつもこらで乗り遅れ

強く熱く内ポケットにある内緒

先生は叱られ強い僕と見た

吹田市 野下之男

レバノンに知らぬ顔して逃げました

たのもしい一般参賀の人の波

ラグビーで山盛りになる面白さ

応援も選手に負けず元氣だね

二ページ全部広告目がまわる

高槻市 指宿 千枝子

やんわりと叱ってほしい呆けてます

細くなる脳がちんぷんかんになる

生け垣に群れ来て雀日向ぼこ

自分らしく自信をもって生きています

令和二年ほんやり浮かぶ昭和の子

高槻市 片山 かずお

きびきびを褒めて世話役してもらおう

エリートのような口だけが動く

二人きり少し寂しいけれど楽

駆けぬのが一番ポチポチと行こう

まだできるつもりで独り住む後期

高槻市 島田 千鶴子

丸かぶりもう無理ですよ恵方巻

食品ロスからすが狙うゴミ出し日

ひょいと出たジョークに和む初対面

背筋ピンようやく迷いから抜ける

どう思う不意に聞かれてはひふへほ

高槻市 初代 正彦

ライバルが少し手加減したのかも

辛口の親身な声に触れました

あの人も居るかと思く縄のれん

あれそれで通じ合うのに暇が要る

湯たんぽにびっくりぼんの新素材

高槻市 杉本 義昭

土俵際粘り粘って春を呼び

日本ラグビー起死回生のドラマ生む

名案が湧くと膝打つ癖がある

いい歳を重ねた証笑い飯

風向きが変り髪形変えてみる

高槻市 富田 美義

結び目をキツちり縛り令和の和

ドッサリの薬を飲んで長寿国

年取ればアンテナ高く腰低く

ストレスが増えても二ホン長寿国

サプリなど知らない者が長寿知り

高槻市 富田 保子

旅終えて川の名前をおさらいす

五年先考えながら生きています

こだわりのみそ汁があり朝御飯

小川道 草花つんで帽にさし

面倒だ何でも一緒に煮てしまえ

高槻市 原 洋志

持つ人の人柄わかる着信音

トリセツで夫婦絆を深め合う

カクテルがチュー杯になり恋熟す

予約してあるから急ぐことはない

嘯み合わせ会話互いにマスク越し

高槻市 松岡 篤

主夫二年食材の値が分かりだす  
廃校舎児童の声が聞こえそう  
法事にも核家族化の波が来て  
トイレ待つ間もスマホやりますか  
柔らかな物腰だった詐欺だった

高槻市 安田 忠子

ゆとりある毎日なのに忙しい  
ゆとりある人生望むねずみ年  
必要でない物なのに捨てられぬ  
必要とされている内まだ元気  
果てしなく続いて欲しいこの健康

豊中市 上出 修

平常心保つ支えはいい笑顔  
全チーム優勝しそうキャンブイン  
身のほどを知って幸せ月見草  
舞う雪に再起を誓う左遷の地  
我が家では神の声です妻の声

豊中市 藤井 則彦

同じ訛の人を見染めた郷土愛  
暇なのにすぐ近道を行きたがり  
字の細い手紙に日がな胸騒ぐ  
少子化をつくづく嘆く鬼子母神  
口癖のどうせに福も逃げて行く

豊中市 松尾 美智代

雲ひとつ無い空に悲しみふっと涌く  
うたかたの命明日はわからない  
眠れぬ夜心静めている三時  
猫の額の庭に今年も福寿草  
細く長く生きて元気な笑い声

豊中市 水野 黒兔

ちらしずしの色とりどりに春匂う  
赤ちゃんのぐつと握った手に未来  
パソコンに使わぬ機能眠りこけ  
城下町傘傾けてすれ違う  
着こなして普段着栄えるパリジェンヌ

富田林市 片岡 智恵子

国境へ平和の重い陽が沈む  
望郷の満月平和手ばなさぬ  
届きそうで届かぬジャンプもう出来ぬ  
増え続けたコンビニ今は減る気配  
オリンピック嫌いな国と好きな国

富田林市 中村 恵

泣き虫一匹布団の中を這う  
目的地周辺までは早かった  
若さが際立つ和服にスニーカー  
マリオネットは踊る糸が切れるまで  
抗ってひとり昭和を舞う一揆

富田林市 山野寿之

湯たんぽの余熱余韻の寒の朝  
振り返る過去妥協癖転び癖  
万物の蓄が春を呼ぶ気配

新年に誓う絆はワンチーム  
寅さんから僕の昭和の走馬灯

寝屋川市 富山ルイ子

妹よりバレンタインにチョココレート  
好き嫌い色々あつて送れない

はやばやと老人ホーム入所決め  
スマホ買う毎日教えてくれるが

今日こそは今日は出来るか諦めぬ

寝屋川市 平松かすみ

こんにちは赤ちゃんだった子も孫も  
どの児にも健康寿命お裾分け

平和だな同性婚も認められ  
初めての馬券も夢の記念品

何もかも手作りだった奴風

寝屋川市 森茜

ちよこちよこせかせか冬日へポメラニアン  
さようなら北風ぼとり紅椿

オスプレイ旋回砂塵まきあげて  
甘酒はお代わりをする下戸のぼく

野良犬も猫もめつきり見かけない

羽曳野市 安芸田 泰子

夕焼けが今日の出来ごと過去にする  
暖冬の向うに見えて来る猛暑

ウイルスに足止めされた旅予定  
やんわりの小言じんわり効いてくる

わだかまり解けて正座の膝くずす  
羽曳野市 磯本 洋一

あの笑顔リチウムの人吉野さん  
領有圏水抜きすれば陸続き

嫁ぐ娘の姿で涙頑固者  
妻が言う私の残業百時間

御田の香帰路の歩幅が広くなり

羽曳野市 宇都宮 ちづる

食べた物すべて書き留めダイエツト  
中学受験でレールに乗った孫

ひな人形またも蔵出ししないまま  
断捨離はケチな私に出来ません

キャンブ情報今年は優勝ありと言う

羽曳野市 徳山 みつこ

やわらかい眼差し放つちひろの絵  
切り札を持っているかに見せ独居

金ないが庭に千両万両の赤  
紅を塗る今日の命に元氣塗る

寒風に尻らの半袖半ズボン

羽曳野市 藤原大子

同じ言葉昨日のように開けぬ今日  
平静を保つ心拍100を超え  
はね返す火種を持つているゆとり  
ひっそりは苦手人の輪で弾む  
神様に生命ゆだねてゆらり生く

羽曳野市 三好専平

医師・牧師・代議士みんなロボット化  
たかがと言いどうせと言って生きのびる  
丹波路の師走に雪の跡もなし

国会で桜と言えばサクラなり  
霊柩車・塵収集車開戦日

東大阪市 北村賢子

ベランダの花一斉に陽を浴びる  
バラになれぬ花もそれなり美しい  
まだ明日も元氣と信じ生きている  
趣味の会交わすところがあたたかい  
コツコツと日日を紡いで生きている

東大阪市 佐々木満作

師の技を盗んで一流を目差す  
如月の海はキラキラ子供の日  
逆境に耐えた男の深い皺  
あなたの目信じてこれ以上責めぬ  
断捨離が進まぬ捨て難いメモリ

枚方市 丹後屋 肇

ハイヒール追い抜いてゆく地下通路  
一子相伝秘訣を探るカバン持ち  
分断の落差ムンクがまた叫ぶ  
振り向けば美女から届く落としもの  
欲呆けの大人へグレタちゃんのこと

枚方市 藤村亜成

隠し味気付かぬとこに妻の良さ  
墨痕鮮やか短冊の筆の息  
下積みの苦勞が滲む芸の味  
死神の背中ボンヤリ見えてくる  
緑に同化透き通る雨蛙

枚方市 山口弘委智

正直が顔に出ている四月馬鹿  
祈願絵馬御礼絵馬にあるゆとり  
一行の軽い肩書背に重い  
鶯を境内に聞き森に聴く  
青空のどこがてっぺん揚雲雀

藤井寺市 太田扶美代

悲しみとギツコンボタンしてました  
春になれば春になればを溜めている  
一度腕を組んでみたいんですけどネエ  
弛めたり締めたり二ヶ月の財布  
鉛筆握りスランプの森に居る

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

お近付きの印にしては重すぎる

お水取り気分転換出来ました

指切りの感触がある幼な顔

文庫本老いのまなこを悲します

ひとつまみの塩があとから効いてくる

藤井寺市 鈴木 いさお

老いらくの恋がふつくら成就する

生き残りゲームどこまで続くやら

人間を少し取り戻して後期

理事ですが大したことはありません

可能性秘めた粗削りの若さ

藤井寺市 高田 美代子

今風邪を引いたら面倒なことに

使い捨て懐炬買ひ足す春の冷え

マイナンバー閻魔に通行手形とす

次世代の力信じていいものか

お返事を下さい桜咲く前に

藤井寺市 吉田 喜代子

風邪知らずまとめてどつと暮れの風邪

新聞に世間の広さ教えられ

一月にあれこの風は春の風

豪華船目には見えない災にあう

拉致家族死ぬに死ねない母無念

松原市 森松 まつお

母性愛溢れるような胸である

カネヤんもエースのジョーも同年

あのビデオ観てると不意にドアが開く

ヘソクリは監視カメラの無い所

妻旅行こんなに静かなる我が家

箕面市 大浦 初音

増えるのはゴミと体重ばかりなり

邪な心を洗う滝の前

順番に逝くとはならぬつらい縁

いい夢を見たくて枕変えてみる

姿見の奥にはほえむ亡母がいる

箕面市 酒井 紀華

凛として老いの品格冬のバラ

人を恋うさくらを恋うて老いの風

しあわせな老女演じて途中下車

ゆつたりと流れる雲とお浄土へ

逢いたい人みな天国で待合せ

箕面市 出口 セツ子

飛行機嫌い子がお土産をたんとくれ

海外の旅行コロナが不安です

転んでも夢見ることはやめません

地域差か野菜が安くなつてない

颯爽と生きたい惜しまれもしたい

箕面市 中山 春代

残照に急かされているシンデレラ

スマホデビュールでできれば二重丸

水仙をわっと投げこむガラス瓶

誉められて辞め時逃がすポランティア

近道のはずが迷子の万歩計

箕面市 広島 巴子

温暖化ちらほらの雪いとおしい

ポリポリと豆食べられる歯に感謝

術も無く感染予防冬籠もり

運動は家で足踏み五十回

バレンタインとろり夫婦で洋酒チョコ

八尾市 内海 幸生

裸木の耐えるが如く生きよ君

楚々と咲く水仙辛苦の跡も無し

間違つて覚えた単語が直らない

猫に爪あるのをうっかり忘れてた

呆けてまへん免許返納したけれど

八尾市 寺川 はじむ

古希過ぎて賞味期限を書き替える

心が和むニユースやっぱり茶が美味い

開運を期したジャンボに笑われる

意の儘に生きて長寿へ歩を運ぶ

五Bの苾滅る割に名句出ぬ

八尾市 宮崎 シマ子

あつと転んだ骨折もろいものだ人

骨折の足を抱えて冬眠中

寒空に介護の為に娘来る

一足の所の物が取れぬ口惜しさ

リハビリ室私一人でない不幸

八尾市 村上 ミツ子

漸く冬らしくなってきた二月

世界を股にあばれまわっているコロナ

血圧を下げるゆつくり深呼吸

唱歌をうたうしばし乙女の頃に

大事にしたい声帯という楽器

八尾市 山根 妙子

休刊日解りながらも見るポスト

小犬の目空いたシヨップは去り難く

気休めのような添付の保護シール

神楽舞う巫女の素足にペディキュア

お払いはPAYでと曾孫おままごと

(前月号) 鳥取県 鳥越 鬼一

今年こそ本気で終活始めます

今年こそ運転免許返します

令和2年平和な年と思つたに

消費税もう上げないで生きられぬ

もう少し待つて下さい阿弥陀様

# 川柳塔の

## 川柳讚歌

188

上方芸能評論家 木津川 計

ああ僕にとつとつ風が吹かなんだ

江島谷 勝弘

黒澤明は若い頃食えず、グリコの「粒三百メートル」の凶案募集で二位になったのを機に料理の本のカットをかって生計を立てた。が、画では才能に自信が持てず、新聞広告で見た「助監督募集」に応募、一〇〇倍の難関を突破して制作会社に入社。のち監督として「羅生門」「七人の侍」などで、「世界のクロサワ」として上昇気流に乗った。風が吹くには才能が輝かねばならないのだ。勝弘さん、諦めてはなりません。命ある句を詠むのです。

決断するには荷物重すぎる

松原 寿子

今春のセンバツ高校野球が中止になった。僕は無論、どれほどファンががっかりしたか、ではない。出場する筈の選手や関係者の悔しさは察するに余りある。決断した高野連の荷物も重かった筈だ。僕も「上方芸能」と

いう重たい荷物を四十八年間背負った。何度も難しい局面に立たされたとき、支えになったのは詩人・小野十三郎の次の言葉だった。「軽く、翼を水平に泳がせて／重たい荷物を運ぼう」。寿子さん、軽く翼を水平に、です。

おみくじは引かないことに決めました

上田 ひとみ

初詣に行った神社でおみくじを引くと「中吉」だったからもう一度引くと「吉」と出た。以来、おみくじを当てにしない。大駅敷の地下道で、二十歳だった僕はフラフラッと手相を見てもらった。「あなたの一期は六十五」と言われ、そんなに長生きできるのかと思つた。国立療養所で右肺の半分を切除して退院したばかりだった。その僕が只今八十四歳。ひとみさん、神社は大切にしなければなりません。おみくじも手相も頼らないことです。

バワハラで鍛えた部下が今上司

上出 修

今も思い出して胸が痛むのは若い頃見た映画「きけ わだつみの声」だ。戦没学生の手記を関川秀夫監督が映画化した。戦局不利な南方戦線の野戦病院に横たわる中年の兵を軍医が見廻りにきて、ハツとした。「もしかしたら〇〇先生?」、その通り、恩師は一兵卒だった。そんな地位の逆転を生み出す戦争の

不条理だった。修さん、あなたも企業戦士たちの戦場で戦ってきたのです。かつて鍛えた部下の上司は、きつと温く接してくれませう。

小遣いを貰う笑顔に騙される

藤田 武人

近くに住む双児の孫娘が遊びにくるとなると、前日からお菓子を買い、渡す小遣いを封に入れ、待ちわびる。子供以上に孫が可愛いのは子育てしない気楽さがもたらす余裕故だろう。愛でるには安らぎが要るのだ。老人が盆栽を楽しみ、猫を飼うのも納得がいく。武人さんも孫好きで、ときに渡してやる小遣いを受け取る際の孫の笑顔がたまらない。そんなにうれしいのかと、また小遣いを……。武人さん、これからも騙されつづけてください。

大阪市壊して明日がみえますか

近藤 正

大阪から大企業が次つぎ東京へ本社を移した。21世紀になって流れになった。大企業だけではない。人材も東京へ流出し、大阪はいま、かつてない人材払底都市になった。在阪の新聞メディアはまだ気付いていない。大阪市を廃止し、四つの特別区に分割する「大阪都構想」を府と市が推進する。それで大阪が復権するのか。都市格を文化の力で高めねばならないのに。正さん、明日はみえませぬ。

# 自選集

小島 蘭 幸

ドイツニ一ランドキャンセル三歳が泣いた  
苦渋の決断キャンセル料は惜しくない

高齢者講習晴れてますように

師の句友の句川柳展となる書齋

浴槽の広さを贅と思わない

森 山 盛 桜

終活に追われて本は斜め読み  
自由に翔べると思つた波頭

文字化けは許しておこう春霞

ガンつけもシカトもやつた事が無い

GSの末路は知らぬ方がいい

八 木 千 代

北帰行  
大好きな湖に残っていたけれど

育んだ雛も羽搏き繰り返す

苦の旅をさせねば 荒い風浪も

一族の未来を背負う長なれば

眦を上げて白鳥風撫む

山 本 希 久 子

愛はやさし愛の字は書きにくし  
桃さくら心ゆったりローカル線  
時どきは妻という字を忘れよう  
満開の花より散りそめの風情  
昨日まで出来たと夫の老いを見る

板 尾 岳 人

兵馬備活き活き活きと生きている  
滝の上ダダダと落ちる男滝  
撫で肩の影見て背伸びしてみよう

サイタ咲いたサクラが咲いた散る桜

迷う道きのうの過去に聞いている

川 上 大 輪

もう一度覗いてみたい穴がある  
非常口開けるとそこは新世界  
振り出しに何度も戻る砂時計

春ですね音符も少し跳ねている

何もない何もないけど平和です

北 野 哲 男

スパイスの効いたコラムに合点す  
還暦を思えば青い歳だった  
大器晩成もうそろそろと言う米寿

帰化をしたカタカナ語にも辞書が要る

川柳は老人文芸えじゃないか

木本朱夏

喜々とした鳥の声する 出かけねば  
寄り添うてメジロにもある好き嫌い  
母鳥の仕草やさしく草萌える  
鳥群れてなにか相談してらし  
コロナ蔓延鳥にも被害ないように

新家完司

如月の空で戯れ合う冬と春  
山陰の空を侮り濡れネズミ  
いきなりの「ちよいと一杯」ウエルカム  
満ち足りてトトロの腹になつて  
靴脱いで巣箱の奥へバタンキュー

高瀬霜石

煩惱の数だけ渡る丸木橋  
常識の壁エヴェレストより高い  
金のない時は判断ミスをする  
見てるのが苦しいワンサイド・ゲーム  
いずれ来るしかし覚悟はできてない

竹治ちかし

巡る季々 桜日本の春を見せ  
勝つ人にも負ける人にもあるドラマ  
愛多く食べた子供は遠くの地  
何はともやらねばならぬ九十五  
緑之助代仕男れいじの九十五

津守柳伸

のし袋米寿の筆がままならぬ  
初旅は焼鯖づくし鯖ソーメン  
リハビリをかねる掃除は手際よい  
外出を控え手洗いうがいする  
いもぼうの予約済まして知恩院

土橋螢

リハビリに書画三昧のちゃんちゃんこ  
冬帽のものと睫毛のうつくしく  
夏みかん一つのせたる炬燵かな  
唯心浄土にあつて日向ほこ  
笹鳴きに静かな吾にかえりたる

西出楓楽

もう半年まだ半年か子が逝つて  
三月一日逝つた息子は五十八  
天国から幸せ祈るエールくる  
春一番心の中を吹き抜ける  
肥後守で削り鉛筆喜ばす

仁部四郎

春が来た廻してみよう走馬灯  
海軍の学校目指した十二歳（昭和20年）  
一浪を勤めある身で卒業し（昭和27年）  
挨拶の葉書ポストへ定年日（平成5年）  
爛漫の春の記憶が老いの杖

三宅保州

福士慕情

杉本文子

三浦強一

草の根を分けても平和追い求め  
草食べたことを信じぬ若者ら  
嘯み締めて下さい米になるまでを  
港から連絡船を消した橋  
石を蹴ることもできない都市砂漠

水脈を辿れば母の郷へ着く  
津軽路を走る電車でスルメ焼く  
のんのんと降る立春を過ぎた雪  
マンサクが春を先駆け揺れている  
雪解けの小川キラキラ陽を弾く

国会荒れてる桜も泣いているだろう  
溜息を上手に溶かすミルクティ  
想い出を詰めたシャボン玉飛ばす  
怖いもの無くなりゆらゆらと生きる  
逃げ道は渡り廊下のその向う

柴又の駅に降り立つ旅靴  
寅さんの再再放映見て飽きず  
節約の時代を生きてゴミ屋敷  
二千万などと老後に水を注す  
国会座ほけつつ込みで盛り上がり

宮西弥生

村上玄也

考える葦引きずつっているやつれ  
さざ波のやつれをかくす丸い眉  
さざ波になって余白埋めている  
春はまたマスクの好きな人のそば  
三浪を越して度胸の滑り止め  
春嫌い花粉黄砂で憂鬱だ  
夏嫌い暑くて汗が出るばかり  
秋嫌い何かと落ち込むようになる  
冬嫌い寒くて動くのが大義  
四季みんなネガティブにしてしまおう

### よつがね・はばたき150号記念川柳大会

日時 6月20日(土) 開場10時

会場 出雲市駅前「バルメイト4階」

参加費 2500円

(大会誌・弁当・各題秀句賞呈)

兼題と選者 (各題2句) 出句締切11時

「豊か」	赤松ますみ	選
「おせっかい」	新家 完司	選
「予感」	永見 心咲	選
「出会い」	竹治 ちかし	選
「のほほん」	長谷川博子	選
「トマト」	寺田 勝美	選

事前投句

「イメ-ジ」 金築 雨学 選

欠席投句 1000円 (切手不可)

投句締切 5月29日

投句先 〒693-0042 出雲市外園町349

熱田熊四郎 宛

電話・FAX 0853-28-0023

## 森の句集



『愛すればこそ』

森井青居

サキソフォン悲しい時は泣けと言う  
愛すればこそ この冬をこの坂を  
生き方の違いを敵のように言う  
もやもやを分析すれば恋だった  
逢う場所を変えても秋がつきまとう  
弔辞読む僕もまさしく男坂  
星にだけ見せるピエロの泪です  
冬に咲くアネモネにある土性骨  
夕やけの中にくつきり僕の城  
戦争を知らない鳩が増えつづけ  
プラトニッククラブなら許してくれる秋  
無位無冠よろし みどりの風といふ  
そんな眼で見れば都会の冷酷さ  
過去はもう追うまい水が濁るから  
無垢になれ無垢になれよと蝉しぐれ

(平成11年2月24日 発行)

## 温故知新

小出智子川柳句集『露の臺』から

怪談より怖い話をしてくれる  
少年と少女の如く訣れけり  
夕立が通って母の眉ゆるむ  
平穩のかたちに椅子が四つある  
わたくしを疑いもせぬ腕時計  
石鹼の泡 幸福は束の間  
木犀香る死ぬにほどよき頃なれば  
テンプルの皿に大小あるように  
眼の上の瘤にならねばよいのだが  
頼りない葦で茂みを抜けられぬ  
親しい親に心配ばかりさす  
夫にはまだ被せられぬベレー帽  
妻は妻の自由にも縛られる  
銀杏散るとまどうことは何もなし  
心配をよそに四、五年すぐに経ち  
輪廻かな井戸を覗いてみたくなる  
夫にはまだ言うてない壺のひび

水煙抄

川上大輪選

佐賀県 真島 久美子

羽化なんてしません無責任な春  
冷え切った手に掴みたいものだから  
立ち尽くす場所に捨てられない迷い  
飛ぶことを意識してみる水彩画  
春を行くどの瞬間も私です  
助手席にペットボトルという地雷

貝塚市 吉道 あかね

あなたとの出会で雨が止みました  
義理チョコもほんの少しは愛がある  
いたずらに無料無料というサブリ  
五十年定位置にある夫婦箸  
萎んだら空気を入れてあげるから  
頑張って生きたと言えるよう生きる

伊丹市 延寿庵 野鶴

ふつつかな形で影が付いて来る  
歎異抄片隅に置く八十路坂  
言い訳はしないで花は凜と咲く

穂の芽がノックして待つ春の天  
流水が軋んで春を連れて来る  
途中下車 蠟梅の香に溶けて行き

大阪府 大浦 福子

流し目と言いたいけれど今垂れ目  
部屋割りはイビキの有無で振りかける  
でくの坊かめへん惚れたうちの負け  
「調子どう」良いわけないわけゼロ金利  
幸不幸しよせんこの世は思いよう  
大鍋を囲んだ頃が花でした

倉吉市 若松 由紀子

嬉しい日いつも赤飯たいた亡母  
脳のネジしっかり巻いて呆けぬ老い  
曲がり角貧乏神と目が合った  
雲掴むような話に乗りがたがる  
遅れたがバスもおくれて来る田舎  
人世を巻き戻したい事多し

ゴミ置場山と積まれた学術書

富士見市 中島通則

年老いた番犬に替えセコムする

無心さを教えてくれるベツト達

AIが人を牛耳る日の恐怖

便利さはほどほどなのが丁度良い

キヤッシュユレス手元不如意と勘違い

松山市 郷田みや

張り詰めたほっぺを笑う紙風船

秒針に追われバックができません

完走の笑顔へパンザイとハグと

太い根に邪魔されながら穴を掘る

隅っこに居ても言いたい事は言う

焼芋が甘くなります新聞紙

河内長野市 穂口正子

夫婦でもグレーゾーンはノータッチ

赤い糸切れて長いが添うたまま

もつれ糸解けば解いたで飛び立てぬ

もう一度鬼になつたら地獄だよ

何故妻がこんなに激怒仁王立ち

余命預金にらみ外壁塗り替える

生駒市 兒玉規雄

春節の厄介者は新コロナ

「ニイハオ」と日本各地に新コロナ

負け惜しみ乗らず良かった豪華船

散歩する犬にもマスクさせている

花便り梅と思えばもう桜

神仏最後はやはり人頼り

大阪市 森廣子

昔なじみの土鍋のおこげまだ恋し

幻想を見ているだけの白い画布

私の中の鬼も老いたか物静か

運命が泣いて笑って降りて来る

運命と受け入れられず立ちすくむ

如月の風の中から何拾う

松江市 中筋弘充

行けるときに行くようにする墓参り

悪友が今日も待つてる縄のれん

ワルツ踊った憧れの人杖をつく

色も香りも目立とうとする薔薇の花

活けられた花が間もなく知る余命

評論をするだけでいい評論家

津山市 高橋由紀女

思い込むだけで掴めぬ575

目前の介護乗り切る支援の輪

AIもきつと温もり伝うはず

参考書枕に眠る二日前

老いてまだチャレンジしたいピブラート

束の間の笑いが解すもつれ糸

瀬戸内市 宮宅 比佐恵

府中市 岸田 武

いい笑顔もらい豊かになる心  
写経して心静かに遊ばせる  
平凡な暮らし笑顔があればいい  
受験絵馬千のドラマが動きだす  
おしゃべりで腹立つときも和む日も

広島市 常國 喜好

三原市 笹重 耕三

毎日がドラマチックにとはならず  
練習はふんわり力が抜けたのに  
転ぶのはいつもの慣れた道だから  
何をしていてもリズムは五七五  
面影の中のドラマは終わらない

広島市 松尾 信彦

鳥取県 下田 茂登子

増税が青息吐息になる挽歌  
時々夫婦でテスト認知症  
知恵袋広げすぎてる老婆心  
好物が体に悪い歳となる  
介護にも創意工夫の手抜きあり

尾道市 小畑 宣之

鳥取県 橋谷 静江

長がつき強くなりたる風当り  
道草の多い人生程豊か  
浮き沈みある筈なのに沈むのみ  
好き嫌い拘り世間狭くなり  
無愛想な飼主尻尾降る子犬

やわらかく優しく恐い人である  
酔っている私に歳を聞いてきた  
跳びたがる靴を一足持っている  
不断着に替えるとお茶が旨くなる  
酔い少し気ままな猫をからかつて

年金の家計簿いつも崖っぷち  
貧乏の真似はだあれもしたがらぬ  
融通がきかぬ堅ぐるしい答え  
七十歳越えた可もなく不可もなく  
思い出し笑いが減った物忘れ

自由になれて自由にならぬ体力だ  
同居して無言で食べる苦いめし  
行く場所は炬燵行くしかない一人  
寝転ぶも仕事の内か炬燵中  
一人事つぶやくことも嫌われる

天職で出会えた人は皆宝  
診察券並べて順に持って出る  
気がつけば心が先に動いている  
年のせい気忙しいのが玉に瑕  
プライドと欲を捨てても句を残す

雪のない旧正月に木瓜の花  
鳥取市 上山一平

年食へば年の数だけ朗らかに  
怒鳴るくせ子ども寄りつく好々爺  
壁に穴ねずみ健気にウォーキング  
鏡餅弱い頭を強くする

鳥取市 大前安子

こころのことは選べずにハグをする  
繰り返すただただ前を向きながら  
鍋囲むことばじゃないね笑みが咲く  
それからと身が前のめり家族の話  
余生とは笑みを絶やさぬことなのか

鳥取市 山野すみれ

抱かれたら溶けてしまった雪女  
本題をついでのようにサラリ言う  
風が吹きついでに踊る縄のれん  
届くのは紋切り型のお礼状  
過去一つ語らぬままの縫いぐるみ

倉吉市 大羽雄大

節分の夫婦ふたりの豆をまく  
義理チョコの一つ夫婦で半分こ  
こっそりのつもり近所の速い耳  
留守のはず目覚し時計鳴っている  
子の握る母のスカート命綱

散歩するいつも一緒だ影ほうし  
悩まない笑顔でいればあすは来る  
茶柱が立ったうれい飲めないよ  
寂しくて目を見てさえ涙出る  
生きているしっかりせよと我に言う  
倉吉市 堀かずこ

新しい言葉海場が拒否をする  
一目ごと悔いと望みを編むセーター  
死ぬるとも思えず今日もしゃべってる  
ルンバ様おでましただから片づける  
ておどりを習い始める喜寿だもの

米子市 妹能令位子

戦時中思い出させる囲炉裏端  
川柳は我が人生の日記帳  
土と生き土に学んで土となる  
妻の言うあれあれ解るのは俺だ  
何もない事を喜ぶ日記帳

益田市 篠原紋次郎

溜息のブラックホール最大化  
ピリオドを打って追伸いつもの手  
呑ん兵衛の枯淡の胸はガラス張り  
不透明な海を泳いでいる鯨  
安楽の椅子から夢のシャボン玉

安来市 原德利

松山市 大内 せつ子

阿南市 小畑 定弘

いいじゃない本気で生きているつもり  
君を引っこぬく溶けそうだったから

夕焼けにまっすぐブランコの軌跡

ほどほどにしましよ味噌汁が冷める

四捨五入される範囲にいるグレー

今治市 永井 松 柏

柿の種かじる第九を聴きながら

蠟梅と河津桜が春の使者

遊びのない正論だからすぐ折れる

金メダル歯形が付くぐらいかじる

フェロモンを嗅ぐとガードが甘くなる

今治市 渡 邊 伊津志

正常に戻らないから持病です

錯覚が乱反射する夢おぼろ

我を張って狭くしている着地点

ライバルのミスに思わず北叟笑む

これからを詰めた袋の無限大

大洲市 花岡 順 子

おもちゃ箱巢立っていった広い部屋

連休は全部バイトの母子家庭

門限を破る確信犯である

束の間を極める蛹から蝶へ

ウイルスへのガード世界が模索中

誕生日はがす鱗もあと少し

オレよりも長生きしろと言ったのに

ほほほの一日だった温め酒

意に沿わぬチョイ役だけどお受けする

喜寿までの足場が急に脆くなる

高知市 三 谷 松太郎

釣れなけりやあしたがあるさ そうだよな

アユいのち免許返上まだいやだ

ピカピカの衣裳ほどには釣ってない

釣り仲間きのうの敵は今日も敵

アユ届けこりゃご馳走を背で聞いて

横浜市 加藤 佳 子

たかが風邪元気印をダウンさせ

マスク買うチャンス逃して空の棚

コロナウイルス国境するり抜けて来る

豪華船ハマで足止め見る悪夢

免疫力高めコロナに自衛する

横浜市 長 島 亜希子

故障箇所聞けば長寿と電器店

仏像のお顔に惚れる歳かしら

こんな漢字読めなくなつて生きられる

散歩道トイレとベンチおさえとく

五十年城主は妻に入れ替わり

豊橋市 西郷 紀美代

しがらみの中で諦め強くなる

わからんと言つてやろうとしない家事

節分に庭木剪定バツサリと

喧嘩した妻の笑顔が戻らない

シナリオを替えてみたいがない勇氣

神戸市 大頭 としお

かかりつけ医師から賀状いただいた

ハードルをちょつびり上げて今年こそ

しなるほど吉兆つけて本えびす

初日記書いてしまった綺麗ごと

身の丈に生きて優しい風が吹く

神戸市 米田 利恵子

虐待のニュースおでんがつつかれる

釣れぬ日は孤独楽しむことにする

予定なら未定 誘つてくれますか

湯けむりに母の瘦せたを知った旅

その時はお箸を置いて眠るだけ

神戸市 斎藤 隆浩

赤信号止まれと睨む子どもたち

速度違反覆面パトが付いて来た

もつたいないもつたいないでゴミ屋敷

酒はと聞かれ嗜む程と答えとく

その薬ほんど毎日要りますか

神戸市 櫻井 崇史

ごろ寝して冬の日差しを独り占め

春風とべらべらめくる旅パンフ

雨の日にうきうき探す旅プラン

宝くじ当たる予感の旅プラン

ひよつとしてこれ当たるかもいい並び

神戸市 田本 古鈴

大河から外れた私どこへゆく

まだ若いまだという字は余計です

なかなか手強いものぞ五十肩

楽しくてやがて切ない恋とやら

色男めぐり逢わずに終わるのか

神戸市 松倉 正美

義理チョコをたんと貰つたのは昔

自分チョコ一日後の処分品

時偶は廻らぬ寿司を食したい

足さつぱり脳まあまあで口は忠実<sup>まめ</sup>

止むを得ず先祖に詫びて墓仕舞

神戸市 山根 弘華

こつこつと積んだ努力が実る夏

なつかしい亡夫の口笛夢の中

九十回初日おがんで令和生き

呼名され二度びつくりの初句会

春うらら心に花を咲かせよう

尼崎市 清水久美子

満腹になったこと無い春財布  
湯たんぼの湯で廊下拭く窓を拭く

卒業の孫から貰う文具類

養命酒飲んであの世に行く食後

盆の雀押ししてアイデア捻り出す

三田市 稲角優子

梅便り八十路が締める靴の紐

花しようぶ母の香りの風わたる

愛少し足せば優しくなれたのに

許されて許し夫婦のよい角度

そうだよと笑みをうかべて聞くつもり

三田市 住吉美和子

進化するネット社会に背をむける

つかみ取り大きなお手々欲しかった

人の世は十人十色でおもしろい

耳痒いよからぬ噂しているな

雪国の子供のほっぺ愛らしい

三田市 中山昭美

眠る子に小さなゴメン共稼ぎ

哀しさも掬っていそう白い指

実物はもっと美人よ免許証

一本の桜を植える終の家

上出来と言えぬ自分史愛おしい

三田市 中山寅男

昼行燈今や輝く専務殿

止めとこね喧嘩口論子の前で

小気味よい拍手で送る嫌な奴

来し方に残る足跡消し忘れ

非正規だポーナス休暇死語なんだ

三田市 森玲子

古き良き日本の良さも変わりつつ

子守歌娘が先に夢の中

好きだけど夫は夢に出てこない

居眠りも歳のせいにしひと眠り

風邪ひいた十三日の金曜日

宝塚市 太田としお

待っているととっても長く感じます

老人の悪口やめる老いてきた

他人の為にこれがなかなか難しい

桜の会より大事な事があるでしょう

五十年今や女房のご家来に

丹波篠山市 澤良子

孫揃いじいじばあばは福の神

生まれつききゃしゃな体で今キラリ

目を合やす心の会話笑顔から

かくし芸あれこれ悩み夜が更ける

根回しがまわりまわって異論なし

奈良市 尾畑 なを江

人生がもつたいないよひきこもり  
このままが良いのだ日なたほこが好き  
この頃は妻が豆まく鬼は外  
きり札は懐に有りすぐ出せる  
みる会が無くてもさくら春に咲く

奈良県 室田 行久

当たりくじ金庫にしまい期限切れ  
ひな飾りしまいたくない男親  
天変地異何処いずこに御座す神仏  
鍋囲み罵詈雑言もごった煮に  
バラエティー離婚の方に時計割く

和歌山県 三枝 眞智子

運だめし年に一度の夢を買う  
気前よく買って爽やか風を切る  
十七文字生き甲斐にして明日がある  
叱るまい若さがゆえの罪一つ  
辻褄の合わぬ夢から朝が来た

和歌山市 北原 昭枝

春一番吹いて目覚める土筆の芽  
アメ玉をお供に若菜摘みに行く  
わがまを少し言つては拗ねている  
失敗を頭の隅に置いている  
落の臺耐えて春まついい笑顔

和歌山市 倉橋 悦子

人生の午後に集まる水飲み場  
旅先の足湯にとける浅い春  
読書中とところどころに入る家事  
なるようになると分つて茂る葦  
考えた末に出たのが大欠伸

和歌山市 佐藤 まき

休業の雪乞う神事スキー場  
梅林のオーブン招かざる寒波  
老いて尚乙女に帰る宝塚  
行楽の季節揺るがす新コロナ  
迫る五輪早い終息祈る日々

和歌山市 西川 千鶴

暖冬にダウンジャケット欠伸する  
俺じゃなく猫に留守居を頼む妻  
盗み酒大層美味でございます  
ピカソの画逆に掲げてご満悦  
失態を揶揄するように鴉鳴く

八幡市 武田 悦寛

描いてた寿命の歳を通過中  
我が余生ゆつくりもしていられない  
錆びた脳宥めすかしてガンパロウ  
生き残る幸せランク一つ下げ  
ジャンプしたが見つかからない着地点

大阪市 石田 孝 純

大阪市 降 幡 弘 美

「節分」を読めない孫が豆をまく

商魂が巻き寿司を売るチョコを売る

暖冬の薄皮剥がし覗く春

家までは二千歩星は三千個

鼻歌にオーディエンスの犬が吠え

大阪市 柴 本 ばつは

大阪市 松 田 聰

春の歌聞きたくなつた糠床も

土が好き夕焼けが好き早寝する

お受験パスさくら吹雪に絵馬が鳴る

中高大わが家三人姫ばかり

老魔には負けたくないわ絶対

大阪府 高 木 道 子

池田市 上 山 堅 坊

切干しを炊いて昭和を撒き散らす

九十二の歳すこやかに飲む喋る

心無い言葉が起こす多重大故

凡ミスをお互い様で知らんぶり

ウィルスの脅威に神もつんのめる

大阪市 中 村 民 子

伊丹市 岡 村 風 琴

疲れてた心解され一人旅

ブランドの売り場横目で通り越す

肩の荷をやつと下ろせば医者通い

ふところが寒いと家で籠もりがち

物忘れ歳のせいだと言うけれど

反抗期対更年期親子ゲンカ

日本語がやたらと変な詐欺メール

好きな子がすぐにバレちゃう小学生

一回で当てられたことない名字

ヤジ出ないPTAの総会は

福の神目の前なのに気が付かず

頑張らずあきらめないでゆく六十路

政治屋の嘘開かされる議会場

雪降ると何故かテンションあがつてる

まだ懲りぬあおり運転要注意

見栄えより歩きやすさで選ぶ靴

失敗をバネにしっかり四股を踏む

向かい風覚悟を決めてハスに立つ

様変わりしながら続く君と僕

後ろ向くことなど知らぬ趣味の道

風紋が砂に刻んだ通り道

軽い愚痴つつんで香る午後のモカ

新しい明日が見たく窓を拭く

つややかに新米凜と炊き上がる

指めがね虹の向こうを覗いてる

豊中市 荒木郁子

相変らず娘の縁の願いごと

金婚式アイラブユーもないけれど

子の進路親の思いは切り捨てる

海の幸戴きもので酒すすむ

老人会話題は進み墓仕舞

豊中市 貝塚正子

象に乗り新郎新婦ご入場

印度式三日三晩の披露宴

帰国して五日後に出た疲労感

七巡り自分の干支にハイタツチ

年女七度目ですのオツホッホ

豊中市 齋藤奈津子

救急車道を譲って無事祈る

近距離のタクシー乗車尻が浮く

バレンタイン本命チョコは自分用

お悔やみの言葉うやむやそれでいい

ビニール袋加齢の指に開かない

堺市 楠井輝子

日傘小町紫外線避け骨粗鬆

骨スカスカガタバシギーギ悲鳴あげ

株で損ぐじゃぐじゃ言わんとあきらめ

ふいに妻主婦定年の宣言を

駄句の山捨てようかまだ芽吹きそう

堺市 羽田野洋介

雲つかむような話は願ひ下げ

割り勘の持ち分だけはばつちりと

どこまでが本気なのか分らない

主題歌を聞けば映画を思い出す

狭くても自分の城があればいい

高槻市 三谷白黒

健診の度に痛感老いの坂

自販機におつり忘れてひき返す

婆さんの愚痴を聞くのが仕事です

AIが囲碁教室の先生に

プライドを捨てると楽になりますよ

寝屋川市 川本信子

春を待つ裸木堂々と仁王立ち

面倒な事見て見ぬ振り後後回し

採めぬよう根回しもして年の功

風呂40度じわりじわりと血が動く

失敗も多いが老いの個性です

寝屋川市 廣田和織

ポケットで大きくなつていく未練

我慢しているのに影が下を向く

破れるほど消しても残る悔いの跡

爺さんになつてしまえば気楽な世

頭まで枯れているからよく燃える

笠岡市 小野 美那子

窓開けりやわたしのよくな昼の月

親近感持ちます語尾の国訛り

すみません啖阿切ったが出来ません

不器用が黙って受ける他人の罰

美作市 岡本 余光

膨らんだ噂話が舞いもどる

年を経て悔悟の念を深くする

感性が曇らぬように塵払い

食欲が押さえ込まれた熱と咳

広島市 田 桑 恵 子

ウィルスにチャンネルみんな乗つとられ

着信音みんな急いでリユック開け

新製品出るただ迷う育毛剤

背中丸いよ声に慌てて胸を張る

竹原市 若 年 幸 子

五輪よりマスクの方が先走る

立退きを迫られ雀姦しい

遊びたい桜園児と戯れる

ユニクロに染まり少うし若くいる

竹原市 土 井 輝 恵

また荷物増えて寿命も延び続け

Tシャツの綻び子等ほごみ箱へ

老婆心五輪済んだら後怖い  
廃らしてならぬ行事の寄付集め

三次市 伊藤 寿子

嫁姑うちに限ってアハハのハ

天使の笑みの0才児にはかなわない

誕生日を焼肉会で自腹切る

歳とつてから昆布のような夫婦愛

鳥取県 飯野 菖子

この腕に休む日は来ぬ草むしり

雑草が空き家を包む佻しさよ

向上心芽生えた孫が頼もしい

渡すもの渡して置こう安心だ

倉吉市 伊藤 嘉昭

パソコンは真剣ならねば道けわし

今日もまた指が覚えるキーボード

スマホでもわからぬ時は教え乞え

年寄れどパソコン教室気は若し

倉吉市 宮田 風露

佻助を活けて床の間らしくなる

私の愚痴聞く夫は仏壇の中

口笛も鳴らなくなつて遠い春

青い空見ると洗濯したくなる

境港市 中井 虎尾

病氣よそ尖閣せまるチャイナ船

美しいゆえに冷えます冬の月

さようなら残月西にやがて消ゆ  
ああ安倍が桜よごして会やめる

境港市 藤原久直

たまご割り得した気分黄身二つ  
大好きな趣味が生きがい宝です  
人生は編んで解いての長い旅  
約束を守らぬ国がややこしい

米子市 川本美津子

幸せの味が分からず今搜す  
消費税アップで笑顔消えて行く  
コーヒートの苦さにも馴れ社会人  
旧姓の名札を付けてクラス会

松江市 相見柳歩

自分から糸を渡して少し引く  
魔女だからこそ優しさに弱いのだ  
幸福な方は何人いてもいい  
目指すのは日々新しい笑顔です

松江市 山根邦代

ひとりでも退屈しない趣味という  
本棚を占領してるセピア色  
うすぐもり今日の夕日は寂しそう  
立春を過ぎて初めて雪景色

出雲市 黒目ひでお

夢追い酒いつまで飲めば夢叶う  
これからは読書三昧してみたい  
アクションのエースのジョーも鬼籍入り  
暖冬で立春過ぎて初寒波

雲南市 永見安子

ほどほどに降らなきゃ夏が気にかかる  
後わずか力をくれる本を読む  
桜咲く頃の別れがもう寂し  
腹立てず進んで動く事にする

福岡県 本田さくら

ああしんど心・体に水をやる  
孫十ヶ月興味津々部屋探索  
お散歩も孫はうさぎでばーば亀  
救急車近所の耳が外に出る

唐津市 岩崎實

返事すぐ達筆にての卒寿展  
一生に何度も死んだ俳優さん  
ヤドカリとしばしの縁で住まいおり  
どの棚もこの棚もみな捨てられず

宮崎市 黒木栄子

置き忘れ擦り合いする老い二人  
悲しみも笑いもあつて共白髪  
老いてなお足腰鍛え山女  
耳遠い夫との会話くたびれる

沖縄県 禰モモト

また来てね休まないでねジムの友  
ファッションはボディラインが決めてです  
善し悪しもうわさがうわさ広めてる  
体脂肪体重計が教えます

沖繩県 宮 すみれ

風にゆれ見え隠れする赤い靴  
サバ缶をフレンチ風に洒落こんで  
気分晴れ句がどんどんとピーヒャララ  
キャベツの葉潤い玉がころげおち

五所川原市 むらの ひとり

ふと写る自分の顔を認めない  
安心感のマスクから抜け出せぬ  
自給とはコッココッコと遊ぶ鶏  
カレーだけ？そろそろ妻のストライキ

弘前市 高森 一 呑

コンピニで三食出来る妻の留守  
神様を相手にしてる無駄話  
美人薄命とことん生きています  
誕生日大手を振って大吟醸

仙台市 月波 与 生

思春期に見た黒船が燃えている  
穴熊の形に人体模型置く  
見送りは痛くならないところまで  
手帳にはもしもたぶんと書いておく

神奈川県 小田 幸 子

我ながらなかなか美人レントゲン  
部品なしたった五年で機種替える  
似てるねと言われ喜ぶ飼い主が  
気がつけば亡父そっくり言いまわし

横浜市 巖 田 かず枝

災いの種が世界を駆け巡る  
お礼時にお菓子好きだと言っておく  
くじ引きは欲を出さずに期待せず  
川柳も手紙も辞書が手放せず

栃木県 廣 瀬 良 磨

携帯の待ち受け画面春にする  
閏月自分のズレも直そうか  
忘れたと言ってしまえば済む年に  
換気扇今日の出来事吸いつくす

静岡市 渡 辺 芳 子

太陽よお願い病氣追い出して  
青空に感謝をこめてありがとう  
老いるわけヒマゴ成人子は七十  
何事もぐずぐずのそのそかたつむり

名古屋市 富 田 末 男

人生を巡る証になる日記  
生き方を信じ学んだ偉人伝  
スタイルに細さが光る夢二の絵  
経験が光る器にしてくれる

名古屋市 山 本 三 樹 夫

薬物で桧舞台を転げ落ち  
答弁の唇見れば嘘が見え  
節分の豆を減らして若返る  
病氣治療騒ぎ始める腹の虫

江南市 脇田雅美

熟年に若さアピール派手づくめ

日本人のハグ何処となくぎこちない

年齢に見合った容姿いつまでも

愛犬の散歩ストレス解いてやる

豊橋市 小松くみ子

花を撮る気付かなかったことが見え

いつもより念入り磨き歯医者者まで

雨の日はイヤリングつけランランと

熱燗は苦手酔いたい時に飲む

石川県 堀本のりひろ

コーヒートの朝の一杯鞭入れる

今日もまた右往左往で生きていく

怒りから生きるエナジー燃えいづる

大落暉大日如来お見送り

神戸市 青山ひろし

腹立ちが蹴る石サイズ選っている

激論は閉店ですでおしまいに

スマイルがみんな似合うと限らない

強がって独り帰って膝を抱き

神戸市 石川克美

先ゆきもないのに暇をもて余し

捜しもの邪魔だてしてる不用品

どっぷりと漬かっていますナンプレに

温暖化地球が困るわけじゃない

神戸市 奥田宗光

老犬の安全地帯僕の膝

瘦せてくれもう限界と膝が言う

もう少し元気になれば医者に行く

惜しまれて消えてしまったシャボン玉

神戸市 玄番美恵子

病む夫と歩幅合わせる散歩道

吠える犬なだめてそつとチャイム押す

未来より今が大事と米を研ぐ

平凡でいいと言いつつ欲の皮

神戸市 輿水弘

犬が逝き我が身は誰にあずけるか

去り際はいいことだけを言っておく

寝不足は昼寝とろとろこれ日課

老い群れて笛の合図を待っている

芦屋市 新阜義明

8時半酒にもあったモーニング

福男厚底ぐつを捜してた

終活の入試問題ありますか

遺言書書かずに逝くとペンを取る

尼崎市 寺嶋恵美子

パック餅早よう食べろと夢ん中

巻きずしはハーフサイズの太巻きで

節操の無き人多い与党席

答弁で小さき器見せる人

帰ったんかと昔と同じ山が言う

白梅と合格通知ジーンと待つ

鈍感力いいねあなたはいつばいで

上司への愚痴はお酒のアテにする

嘘が下手経験不足議員さん

嘘上手いこの子将来政治家に

公文書都合悪けりヤシユレッター

故郷に帰ったような夢を見る

良い写真狙いかメラの連写音

合戦の終りは虹の放水で

ずぶ濡れの団員皆誇らしげ

マスク増え誰が美人か分らない

魔法持つ母の台本見失う

デイに行くカバンにそつと紙パンツ

耳鳴りの奥に鎮座の笛太鼓

亡妹のスマホ呼んでる一周忌

落葉みな風とたわむれ楽しそう

不仲でも夫婦でランチ有馬の湯

朝散歩マスク帽子で変装し

時々は目線を変えて和をつなぐ

尼崎市 山田厚江

伊丹市 平井富夫

小野市 藤原泰宏

三田市 生田えい子

三田市 木村マユミ

時の流れ消えた馴染みの写真館

静かだなあ見ればおいたの絶頂時

発せず目物言える夫婦歴

遺品整理今も母の香生きていた

相撲好き国会中継邪魔をする

庭先の梅綻んで春告げる

朝夕の冷えに負けずに動けてる

揺れていた免許更新目でアウト

引越して置いてきたのに大探し

びしょぬれの傘の秘密も干している

注意書き老眼鏡にルーペ持つ

今日は今日明日よりちよつと若いから

初詣で柏手の音青空へ

福は内豆撒く手には気が宿る

乗り越えた戦中戦後はや米寿

年金の重み亡夫に感謝する

躰いた人に親近感をもつ

AIの奴隷になった細い指

カーナビに唆されて狭い道

気紛れな自然を恨む雪不足

三田市 幸田厚子

三田市 辻開子

三田市 東内美智子

三田市 馬場喜美江

宝塚市 岸田万彩

丹波篠山市 藤井 美智子

蛇口から水が出てくるありがたさ  
亡夫亡父母に無事をいただく般若経

趣味の会今日また一人友増える

森のくまさん歌いひとり居なぐさめる

丹波篠山市 横溝 安子

福は内みんな仲よく鬼も内

豊かすぎ食品ロスが気にかかる

手のかかる夫でもそばに居てほしい

恋文をやつとさがして焼きすてる

西宮市 高橋 千賀子

立春や一年振りに雛と会う

狭くても羽根を休める場所がある

一滴の愛に命が蘇る

湯タンポの火傷の痕が消えぬまま

三木市 山口 ヨシエ

新しい明日へと五感研ぎ澄ます

草萌えるひとりを強く生き伸びる

小休止花満つ庭に蹲る

点と線紡ぎ憶い出果てもなく

奈良市 仲西 賛郎

年ゆかば足腰痛み身も縮む

家での会話テレビニュースと孫のこと

鳥が囀る雨が止んだと告げている

紙パンツ穿いて安心なるとなく

和歌山県 森下 よりこ

油断大敵すぐに財布が風邪を引く  
令和です時代に合わせ生きるだけ

コロナウイルス香港デモが影ひそめ  
一週間分のおやつを買ってくる

和歌山市 定松 宏枝

初物を食べて寿命がまた延びる

当り前これがいちばん難しい

人間は弱い生き物うそをつく

長生きも元氣と笑顔あればこそ

和歌山市 鍋嶋 澄子

もう飽きた御節カレーの旨いこと

穏やかな冬晴れ布団青空へ

古希すぎも祝つてくれる誕生日

眼鏡かけ字面はつきり脳くもり

和歌山市 福島 一雄

節分のお豆とうとういただけず

此のところ舌は私のお医者様

歳毎に金運線が薄くなる

辻毎の地蔵に祈る受験生

和歌山市 まつもと もとこ

エビ天に和紙の座布団しく宴

電子化にしても残高無い口座

道草が好きだ楽しく老いてゆく

個性まで濾過して味を無くす人

岩出市 村中悦男

こだわりを捨てる袋は小さすぎ  
気力だそうと朝の鏡に呼びかける  
これという記憶残らず今日終る  
ダイケアー迎えを待たず薄化粧

京都府 北野クニオ

鬼は外福を呼び込む小さな手  
暖冬に苦情言ってるスキー場  
神懸り幕尻力士初賜杯  
横綱がなくても人気大相撲

大阪府 奥野健一郎

ロボット展僕よりみんな賢そう  
離れて見るとよく喋ってる主人  
送金を根掘り葉掘り聞く銀行  
一步進み二歩下がる老いのリズム

大阪市 阪本秀子

叶うたびだるま落として夢をぬく  
なんとなく分かったように思うだけ  
地球儀のどこにも戦火なきように  
ことさらに明るい父母の星ひかる

大阪市 中村峰子

元気さえあれば全てが回り出す  
愚痴いわず元気の振りで日々暮らす  
無駄遣い元気のためのお賽銭  
これまでも乗り越えてきたこれからも

大阪市 樋口真

日曜も閑散地味な美術展  
大池に浮く鴨数え大回り  
孫と往く遅れながらの六千歩  
ウォーキング脚の軽い日重たい日

大阪市 前川善之

窓からは平和の風が吹いてくる  
生きるのに強い体にダイエツト  
満開の桜も今年早く散る  
野党間一党団結夢と化す

大阪市 宮本千恵子

花粉症マスク売り切れどないしよう  
マスク転売人の不幸に金儲け  
長い留守花は弱って猫すねる  
喜びの種蒔きをして春を待つ

堺市 古川光雄

夫婦仲愉快不愉快入り交る  
母娘御節作りになごむ暮れ  
衣替え古着捨てるか悩む時  
竹製の孫の手背中気持ち良く

池田市 倉本一弥

ありがとうは言える愛してるは照れる  
妻ご機嫌スキヤットの出る台所  
古希過ぎて金より妻が頼りです  
妻二番孫がいちばんチュチュチュ

泉 大津市 助 川 和 美

目覚ましを止めて二度寝の辛い朝

大根の葉はかさんといて使うから

桜見る会主役となったシユレッター

安くなった野菜たっぷり鍋にする

河内長野市 渡 邊 修

ベイベイで戸惑いながら買う八十路

両隣もお一人様の一軒家

名前出さず互い指さす中高年

病室で四人が競う高軒

吹田市 岩 口 のぞみ

新型でひっそりしてる繁華街

かわいかったとアルバムめぐり懐かしむ

ジム帰りご褒美アイス消費超え

こっそりと回らない寿司夫婦だけ

寝屋川市 坂 本 ミヨノ

捨てないで大正生れ杖夫婦

老人会鴨鍋かたく歯医者行く

酒好き父子祖母誕生日祝い酒

二月ですまだ半開き梅の花

東大阪市 秀 爷

感染症鎖国の頃に戻りたし

大相撲三役なんて要りません

チャイナ大阪物売だけの消費街

一茂も一人前の評論家

枚方市 谷 英 也

軽いジョークで淀んだ空拭い去り

痛風の痛みビールが飲めまへん

黄泉の国近くになって母の夢

春恋し寒さに耐える八十路です

八尾市 田 邊 浩 三

病院へ着いたとたんマスクする

大寒も地球は笑う温暖化

また夢か曾孫と散歩杖ついて

杖ついて豆まきをする難しさ

### 第31回 時の川柳交歓川柳会

日 時	5月17日(日)	開場	10時30分
会 場	兵庫県中央労働センター 2階大ホール 神戸市中央区下山手通6-3-28 TEL078-341-2271		
会 費	2000円(記念品・発表誌呈) ※昼食は各自でお済ませください		
講 演	全日本川柳協合理事長 小島 蘭幸 氏		
兼 題	各題2句	欠席投句	拜辞 投句締切 12時
	「高 い」	高橋 土筆坊	選
	「竹 」	くんじろう	選
	「坂 」	阪本 高士	選
	「新 い」	新家 完司	選
	「森 」	森中 恵美子	選
	「中 」	中野 文城	選
	「雑 詠」	矢沢 和女	選
特別課題	1句		
	「小 さい」	小山 紀乃	選
懇親宴	6000円	当日受付	
問合せ先	矢沢 和女	TEL 078-981-5510	
主 催	時の川柳社		

# 橘高薰風句抄

〔橘高薰風川柳句集〕平成十三年発刊

父だけは口を開けずに笑うなり  
二代目の差がいつまでも残りそう

阪神淡路大震災 四句

老師九十二 夫人庄死せり

復旧は急土埃土埃

紋太素生竹二句沙弥の御霊しずか

震災の明日は我が身と思うなり

難波橋獅子像にはや春の雲

桜かてすかっと散ったわけでなし

わが過去に三日月型の亀裂あり

室生寺

女人高野石楠花浄土塔浄土

長谷寺

緋牡丹に負けぬ天晴れ孫娘

小説の路郎うたてし事実より

石曾根民郎先生

金輪際 変らぬ黒縁のめがね

掌で囲むほどの火も恋の巴里祭

平成の荒ぶる年の長刀鉞

あの髭は黒縄地獄からの使者

仏核実験

平成の補陀落渡海ムルロアへ

どこまでが首かと蛇も思案する

残念 残念 残念 村山さんの眉

蜷汁臍も九月に入りけり

もう覚悟出来たらしくて風呂へ行く

仰天の写楽の首絵友危篤

夕日も月も飴玉だった里の森

秋風の吾妻言問秋の橋

思い出をついてうましどぜう鍋

七五三晴着きた手をつながせず

うかうかと来た七十の顔がこれ

新年や年を取るほど白い雪

海潮温泉 四句

岩風呂の岩のうしろはあの世かも

牛尾の湯 弟子はいつまで経っても弟子

宿の庭の雪溶けかかる椀の粥

朝粥へ在りし日の師のおちよほ口

老いらくに童心戻れ難の前

割箸にこうも格式貧富の差

## 英語 de Senryu ⑩

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

又辞職ですかと 妻子驚かず

*"You've resigned again?"*

*my wife and children*

*are not surprised*

古本屋でもやりますと 帰りゆく

*he comes home*

*and says*

*"I'm going to the second hand book shop."*

---

*resign* 辞職する *again* 再び *are not surprised* 驚かない *come home* 家に帰る  
*say* 言う *I'm going to* ~するつもり *second hand book shop* 古本屋

---

〜リバーウィローのため息〜世界の川柳・俳句④⑩ インド政府に勤務するカン  
チャン・チャタジ (*Kanchan Chatterjee*)の句集 *Scattered Leaves* (散らばった木の葉)

インターネットで海外のハイクやセンリュウ作品を収集していると、未知の詩人から突然、句集が送られることがあります。インド在住のカンチャンも、人よりも作品の方が先に私に会いに来てくれました。すでに『川柳塔』でインドの俳人、アンジェリー・デオドハール (2018年8月号)、カラ・ラメシュ (2018年11月号) を紹介していますので、カンチャンは三人目になります。彼はベンガル人の生活・文化を背景にしたハイクを書いているので、日本人の読者には新しい文化を彼のハイクから知るとい意味で貴重な詩人です。さらにハイク以外にタンカ、ハイブンをインターネットや欧米のハイク誌に投稿しています。日本のNHKの海外放送番組であるNHK世界のハイク“*Haiku Masters*”の常連でもありました。彼のハイクは非常に短く、読者にイメージを想像させるのが特徴です。彼の句集、*Scattered Leaves* からいくつか紹介してみましよう。

*muggy night.../ one more mango falls/ on the tin roof*

(蒸す夜・また一つマンゴが落ちる・トタン屋根に)

*dense fog.../ the paper boy misses/ the first floor*

(濃い霧・新聞配達の子/一階を素通りする)

*Diwali.../among the wine bottles/ a laughing Buddha*

(ディワリ・ワイン瓶の間に・笑っている仏様) *diwali* はヒンドウーの有名な灯の祭り。

*monsoon dusk.../ a group of women sings/ the rice planting songs*

(モンスーンの吹く黄昏・女たちの一団が歌っている・田植え歌)

# 誹風柳多留一二篇研究 82

寛元桜2

石川道子・小栗清吾  
細井龍夫・伊吹和男

山田昭夫

清 博美

704 かつがれた圍イの跡にあぶつ坊

石川「阿仏坊 日蓮の弟子、阿仏坊日得。遠

藤武者盛遠の末裔。佐渡において日蓮を殺そうとするが、その法力を感じ弟子となり、終生日蓮の世話をしたという」(『新編川柳大辞典』)。

文永八年九月十二日の日蓮の竜の口の法難から佐渡流謫のことかと思うが、内容はわからない。

清 不明。

705 六月の質屋ながれん武者を干し

石川 質屋の虫干し風景。謡曲「頼政」の「流れん武者には弓はずを取らせ」の文句取り。

土用干しちやの前の物すごき 宝12桜2  
六月のしちや八見せへさくをふり 明四桜2

小栗 贊。鎧などの武具が干してある。清 贊。

706 出ツらうをするときせると髪的事

石川 座敷牢からの出牢であろう。牢から解き放された息子に、銀キセルの、本田髻のといったことは禁止、身を慎んで家業に精出すこと、とまず論じているのであろうか。あるいは、牢から出るや性懲りもなく、キセルの髪形のことについている息子であらうか。

座敷らうはらひ無腰に銀きせる 安五松4  
座しきろう御きやうをねだるふてへやつ

小栗 後説に贊。  
細井 後説の方が面白い。  
清 同。性懲りもなくである。

707 あんにしる鎌をはなせと庄やわけ

石川 田舎の喧嘩、庄屋が出て来て、何にしてもまず持っている鎌を離せ、それから話をしようとして割って入った。女房と問男、鎌を持っているのは亭主であらうか。

あつかいで村問男は五俵出し 安元桜4  
二人りとも帯をしやれと大屋い、 一 20  
清 ともかくも田舎の喧嘩。問男騒動まで展開せずとも思うが、これは鑑賞の問題か。

708 小ざむらいならんでたれてしかられる

石川 主人が小便をしている横でいっしょにして叱られたというのであろう。小ざむらいでなくてはこんなことはできない。

小侍時計をいちりしはられる 明二松4  
小侍ぶどうの棚へしはられる 明四宮4

清 贊。

709 長つぼね肉ク食キをしてふとる也

石川 造り物であれば何ともないが、生の男性を相手にしておなか膨らんだおつぽねである。

長局男の道もくかららず

明七官<sup>2</sup>

不自由にたべるてうまい長局

明七智<sup>1</sup>

伊吹 賛。なま物には気をつけねば。

清 賛。

710 中将の道草に折るかきつはた

小栗 ここで「中将」は「在五中将」と呼ばれた在原業平のことで、おなじみ「伊勢物語」の「から衣」を題材にした類句多数の一。「道草」は「東下りの途次」の意と同時に「かきつはた」の縁語であり、「折る」で「草を折る」と「折り句」に通わせるところが技巧。

東へ下る道草はかきつはた

八〇<sup>22</sup>

かきつはたけ高ひざいごものが折り

二二三

清 賛。

711 そつちらの羽織が女房すめぬ也

小栗 濟めぬは、気に食わぬ。不機嫌な（「江」）。

亭主が外出するに当たって「そつちの羽織を出せ」などと言っているのを、女房は気に食わぬということ。おそらく「そつちらの」は上等な羽織で、わざわざそれを着ていくからには、吉原へ行く気だと勘ぐっているのである。

羽織でもふしれやすと女房い、一〇<sup>14</sup>

女房の顔を見い／＼着かへて出 明三官<sup>3</sup>

清 賛。

712 ひや麦を紗綾や綸子の下タで喰イ

小栗 冷や麦は、細打ちにしたうどんを茹でて水で冷やし、汁をつけて食べるもの。夏時の食料とする（「日国」）。

紗綾は、絹織物の一種。平織地に四枚経綾で文様を織り出したもので、表面がなめらかなで光沢があり、稲妻、菱垣、卍などの模様を織り出したものが多い。

綸子は、縹子地に裏組織で文様を織り出した絹織物（「日国」）。

「冷や麦」は、夏の食べ物であるから、

よろひひた、れてひや麦喰て居ル

安四仁<sup>2</sup>

と同じような状況、すなわち土用干しの句のように見える。立派な衣裳類をぶら下げた下

で、冷や麦を喰っているという図である。ただ、少々気がかりなのは、柳雨氏はこれを「吉原志」に採り、いわゆる「敷き初めの蕎麦振る舞い」の句を集めた中で、

釣そめと見へ冷麦をかつき込

二五<sup>26</sup>

の句と並べておられることである。この二五篇の句は、三蒲団の敷き初めなら蕎麦だが、蚊帳の釣り初め（そんなものが実際にあったかどうか知らぬが）には時節柄冷や麦だね、という意かと思う。しかし、その理屈で行くと主題句は季節を表す措辞がないから、冷や麦を出す必然性がないようにも思う。また「下で」というのも状況が判然としない。

確かに、紗綾や綸子は普通の土用干しより吉原の方が相応しいようにも思えるので悩ましいが、ひとまず土用干しの句としておく。

山田 賛。やはり土用干しでしょう。

清 土用干に賛。あでやかな衣服の下で簡単な食べ物。

713 ほつべたへ穴を明けて八嫁わらひ

小栗 嫁が笑うとえくぼが出来ることを、斯く表現しただけの句と思う。可愛らしい嫁さんなのである。

清 賛。そして若い。

# 愛染帖

## 新家 完司選

(投句276名)

奈良県 渡辺 富子  
デイサービスマ人がひとりいるらしい

(評)出かける日にはズボンの折り目を気にしたり、髭を剃る仕事まで何だかいそいそ。察するところ、別嬪さんがいるらしい。

高槻市 富田 美義  
ああ長寿恋の季節はまだ続く

(評)恋は空を染めて燃えたよ。高齢になると枯れてゆくのかと思つたら、恋の季節は死ぬまで続くようである。

河内長野市 山岡富美子  
皺くちやになろうがときめきは不滅

(評)顔や身体の経年劣化はやむを得ないが、ハートは心掛けしただいでフレッシュでおれる。「ときめき」は若返りのサプリメントだ。

豊中市 きとうこみつ  
通い婚くらいが丁度性にあう

(評)自立心が強くカラッとした気性なのだろう。同じような男ならピットリだが「いつも一緒にいたい」という寂しがり是不適切。

鳥取市 前田 楓花  
こころの中を文字にするのは難しい

(評)驚いたり嘆いたり諦めたり、刻々と移り変わるこころを文字にするのは極めて難しい。川柳作家は凄いいことをしているのだ。

豊中市 水野 黒兎  
若者のヤバイはどうも憂めことば

(評)「あぶないー」と言っているのかと思つたら「すごいー」とか「恰好いいー」とか、心を動かされたときに発しているらしい。

福原市 居谷真理子  
生き恥をさらしていますあしんど

(評)惜しまれながら早世した友もいるが、こちらは恥を晒しながら生き永らえている。長生きはメデタイがしんどいものである。

札幌市 三浦 強一  
察するに老後の心配か口ダシ

(評)なるほど、そう言われてみれば、「老後の資金に二千万円要ると言われたが……」などと鬱陶しいことを考えているようである。

京都市 藤井 文代  
センサーの極み賞味期限は鼻と舌

(評)賞味期限は余裕(1.3倍程)を持たせている。安全性の確認には鍛え上げた鼻と舌が一番。昔はみんなそうしていたのだ。

高槻市 初代 正彦  
人ごみのマスクに悪もいる気配

(評)新型コロナウイルスに備えて、街には

マスク美人マスク美男がいつぱい。指名手配の「悪」が出歩く絶好の機会である。

三田市 多田 雅高  
マスクかけマスクした人避けている

松山市 栗田 忠士  
ウイルスに喘ぐヒト科もITも

神戸市 能勢 利子  
パスポートにブレイキ掛けたコロナ菌

大阪市 栃尾 奏子  
人間がえげると逆襲のコロナ

三田市 村田 博  
マスクして嚏をすれば睨まれる

箕面市 中山 春代  
新型肺炎マスクは要らぬ過疎のパス

横浜市 加藤 佳子  
品切れのマスク洗って春を待つ

横浜市 川島 良子  
本命だ義理だと競うチョココレト

河内長野市 村上 直樹  
大泥棒チョコ一枚でハートまで

神戸市 松倉 正美  
自分チョコは売れ残りの特価品

倉吉市 大羽 雄大  
チョコ売り場店員さんはキュービッド

大阪市 藤田 武人  
チロルチョコ買って自分を慰める

加西市 山端なつみ  
自分へのご褒美チョコはゴディバです

和歌山市 まつもととこ

夢だらけ整理してないオモチャ箱

神戸市 近藤 勝正

暖冬も懐までは届かない

青森市 守田 啓子

ほんとうは取説の字が見えませぬ

松江市 石橋 芳山

消しゴムのカスは素行が悪すぎる

佐賀県 真島久美子

ビタミンを作ろう大笑いしよう

今治市 永井 松柏

午後二時に注文してもモーニング

午後のカフェ古稀三人が謀議する

鳥取県 斉尾くにこ

親よりも先生よりもまずケぐる

「いらっしやい」また会えましたねとポスト

笠岡市 藤井 智史

石頭を粉碎 ストロングゼロ

全没の供養 黙禱ラッパ吹く

尼崎市 清水久美子

別嬪も鼻水垂らす氷点下

たけねずみ食べたヒト科がコロナ撒く

岡山市 丹下 凱夫

阿呆かなあインフルエンザにもならず

ウォーキング後ろ歩きもおてのもの

貝塚市 吉道あかね

じいちゃんとはあちゃんになり日向ぼ

ばんやりの湯たんぼ抱いている朝寝

外人の前では守る信号機

寝屋川市 廣田 和織

丸顔が少し得した初対面

大阪市 石田 孝純

女子会は男刻んで盛り上がる

鳥取市 岸本 孝子

必要に迫られ設置したバリア

東大阪市 佐々木満作

射幸心失せた男と甘味処

岡山市 大石 洋子

威張りたい男とキャリアアウーマンと

鳥取市 福西 茶子

還暦のつもり喜寿祝い要りません

箕面市 出口セツ子

若い気を五体に嘲られている

土佐清水市 辻内 次根

書くことが無い幸せもある日記

まだ生きてみたいこの世はいいところ

衰えていくが死ぬ気はまだしない

五所川原市 むらのひとり

年毎に性悪説のコート着る

神さんを無視して平気そんな歳

岡山県 藤澤 照代

スペアキー五分で出来て合う怖さ

命綱備えて蜘蛛は家築く

堺市 奥 時雄

相撲見物には向いている猫背

待ったなしのトイレに困る大相撲

大阪府 古今堂蕉子

あらいやだ誰の歳よと七十九

七十五境に手足まで謀叛

堺市 内藤 憲彦

脱いだパンツから盗聴器発見

やることはやらんとあかん化石賞

三田市 足立つな子

人のエゴ本腰入れてきた地球

岡山県 岡本 余光

たまにする楽しむ為のやぶにらみ

羽曳野市 宇都宮ちづる

中一の数学ならばまだ解ける

羽曳野市 吉村久仁雄

妻はもう赤子のように僕を見る

豊橋市 西郷紀美代

戦いを本能的にもつ男児

川西市 大坪 一徳

ベテランは囲碁もゴルフも寄せ勝負

三田市 尾崎 一子

寒鱈に新酒一献亡夫の忌

三田市 北野 哲男

卒寿来て時間の足らぬ果報者

豊中市 齋藤奈津子

過疎の村ナビよりわかる道標

堺市 澤井 敏治

哲学の道でスマホに蹴躓く

長岡京市 山田 葉子

鉄道地図ひろげテレビの旅を行く

岡山県 山縣のぶ子

五七五のリズムに乗せて舟を漕ぐ

貝塚市 石田ひろ子

推敲の大事を没句から習う

瀬戸内市 宮宅比佐恵

6Bで好きと夢追うまだ女

鳥取市 山下 凱柳

そろそろか固唾を飲んで待つ呼名

粟屋川市 富山ルイ子

補聴器をつける句会で呼名出来

小野市 藤原 泰宏

全没を治す薬をさがして

唐津市 坂本 蜂朗

趣味の会隣席までの距離にする

三田市 上田ひとみ

頑固だともちろん自覚しています

米子市 後藤 宏之

仲よしの二人はともに難破船

大坂市 小野 雅美

透明な糸に巻かれて世を迷う

尼崎市 山田 耕治

一人住む家でお風呂が呼んでいる

三田市 丹羽 美恵

年金日銀行病院美容院

弘前市 福士 慕情

受動喫煙タバコ止めたら良く分かる

大坂市 大川 桃花

スーパリーのチラシ片手に殺気立つ

堺市 村上 玄也

暖冬と世間は言うが寒い僕

岡山県 田中 恵

ややこしいものは一緒に煮込む

寝屋川市 伊達 郁夫

体温が伝わるように赤児抱く

藤井寺市 太田扶美代

七十九養生訓を読み直す

米子市 竹村紀の治

どなたにも文句言えないもの忘れ

鳥取県 山下 節子

なるほどとうなずいた後すく忘れ

大坂市 宇都満知子

今日をリセットひらひらと乾すハート

大坂市 江島谷勝弘

駅まで三千五百歩のわが家

松山市 柳田かおる

しあわせの極み便座が温かい

宝塚市 太田としお

今頃に悔いております親不孝

岡山県 高岡 茂子

女同士は肩身の狭いバスツアー

香南市 桑名 孝雄

印籠より九十歳がもつと利く

池田市 奥園 敏昭

消費税卒寿も日本支えて

大坂市 内田志津子

人脈も力もないが蔵がある

倉吉市 岡崎美知江

資産ゼロ子に見せようかどうしよう

奈良県 中堀 優

息子等が残ってる金ないからな

安来市 原 徳利

パブリカの花を知らずに唄う歌

松山市 郷田 みや

手洗いを監視している砂時計

豊中市 藤井 則彦

だからとせずにとまると立つ会議

西子市 黒田 茂代

肩にだつてある嬉しい日寂しい日

奈良市 辻内げんえい

妻よりも孫の注意がこたえます

米子市 池田 美穂

SNS新語造語の発生地

大坂市 平賀 国和

高齢者まだ働けと鞭打たれ

松山市 大内せつ子

カフェオレの泡が少うし足りません

河内長野市 中島 一彌

4コーナー回り末脚転げる老い

奈良市 大久保真澄

顔は填輪カラダは土偶タイプです

三田市 堀 正和

大根が豊作おでんの日続く

河内長野市 大島ともこ

非常用水と自前の脂肪持つ

乾杯が待ちきれないでフライング  
広島市 岸本 清

大根と熱燗冬の声を出す  
大阪市 平井美智子

寒い日は熱燗というすぐれもの  
奈良市 尾畑なを江

へしこ酒癖になりそう爛追加  
箕面市 広島 巴子

社長と言われボトルキープをしてしまい  
高槻市 松岡 篤

姪っ子のパースドンペリ飲み祝う  
江南市 脇田 雅美

酒飲める奴かとまずは娘に尋ね  
大阪市 高杉 力

呼び水になったデバ地下試飲酒  
尼崎市 永田 紀惠

父の遺影と飲む酒旨し七回忌  
富土見市 中島 通則

極上の酒を土産に退院日  
大洲市 花岡 順子

友達を輪から抜け出せないお酒  
三原市 笹重 耕三

イライラを風呂で流して缶ビール  
八幡市 武田 悦寛

酒やめて御飯の旨さ知る八十路  
三田市 福田 好文

酒やめて胃が治るのを待っている  
米子市 成田 雨奇

珈琲より甘酒会話深くなる  
和歌山市 土屋起世子

ころころと胆石生まれ四度目除去  
鳥取市 池澤 大鯨

人間の生き死にお金ようけ要る  
大阪市 柴本ぼっは

ばっちり指紋盗られるVサイン  
堺市 坂上 淳司

春の景絵本の中を歩いている  
香芝市 大内 朝子

何もない一日午後は眠くなる  
高槻市 片山かずお

丸いけど情け薄そな昼の月  
大阪市 森 廣子

議事録は残しちやダメとシュレッター  
豊中市 上出 修

幸せの湯気がケタケタ笑う朝  
鳥取市 山野すみれ

年毎に危険な香り消えていく  
神戸市 敏森 廣光

独り貼る背のシツプがひねくれる  
堺市 矢倉 五月

名前よりマイナンバーを書けと言う  
松江市 梅瀬みちを

しゃべらんと済ますつもりのおと居る  
河内長野市 穂口 正子

ワンチーム中に目立ちたがり一人  
奈良市 米田 恭昌

添うために互いの角も丸くする  
海南市 小谷 小雪

歳重ね海馬も老いてさぼり気味  
八王子市 川名 洋子

歩いたら身体に強いバネが出来  
鳥取市 竹信 照彦

アバウトに過ごし夕日に叱られる  
大阪府 米澤 俣子

スリーサイズ保っています五十年  
香芝市 山下 純子

我が家にも窓際あると今気づく  
河内長野市 藤塚 克三

ダイヤ婚でもそれぞれにある母の味  
鳥取市 奥田 由美

ソツのないお詫びで二度目腹を立て  
丹波篠山市 酒井 健二

スマホ忘れ手元不安な路線バス  
尼崎市 藤田 雪菜

自分へのメダルを探す旅に出る  
米子市 伊塚美枝子

もう一度夫婦喧嘩をしてみたい  
三田市 大西 重男

老いを見据えて車椅子九十四  
八尾市 高杉 千歩

学校が消えて跡地にケアハウス  
高槻市 原 洋志

一人めし今夜は芹の卵とじ  
和歌山県 森下よりこ

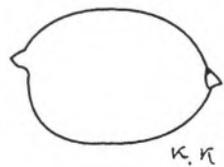
共選欄

檸檬

抄

(薰風書、カットとも)

(投句364名)



「花」 水野 黒 兎 選

叫びたい想い抑えてさくら散る  
花吹雪最後のセリフ考える  
花好きや花弁の中にある宇宙  
咲けば散るだから蓄のままでいる  
道の辺の野花愛しい退院日  
手仕事の好きな祖母母梅の花  
やり直す決心満開の桜  
自分史にポツンポツンと小さい花  
露払い春連れて来る沈丁花  
花嫁が投げたブーケが春を呼ぶ  
老木も同じ花びら付けて咲く  
もう一花咲かせる気力だけはある  
花愛でる人の心に花が咲く  
道端の花一輪の自己主張

鳥取市	夏目 一粋	鳥取市	倉益 一瑤
熊本市	杉野 羅天	鳥取市	藤塚 克三
福西 茶子	西宮市	緒方美津子	大阪市
田中ゆみ子	河内長野市	森田 旅人	京都府
徳山みつこ	羽曳野市	清水 英旺	奈良県
伊達 郁夫	寝屋川市	伊達 郁夫	宇都府
安福 和夫	山根 弘華	平田 実男	神戸市

「花」 鴨 谷 瑠美子 選

花見酒七分だろうが五分だろが  
春夏秋冬花追いかけた若かつた  
ひらひらと散るのも見たい寒椿  
免許証返し見つけた路地の花  
短日や余生の花をどう咲かす  
もう一花咲かせる気力だけはある  
右腕が花道もなく首切れ  
にんげんも花も忘れた季節感  
政界を気づかいながら桜咲く  
梅の花見桜ほどには騒がない  
さくらより梅が好きだと安倍首相  
ほめられてパツと明るく咲いた花  
花めでる余裕も出来た下り坂  
ばくに花持たせてくれて会閉める

大阪市	高杉 力	大阪市	高杉 力
神戸市	近藤 勝正	川西市	山口 不動
三田市	福田 好文	奈良県	安福 和夫
熊本市	杉野 羅天	三原市	鴨田 昭紀
池田 美穂	高槻市	片山かずお	豊中市
上出 修	尼崎市	藤井 宏造	防府市
坂本 加代	米子市	成田 雨奇	

野菜画は実篤花の名はわたし ことばの花束一生枯れさせぬ 家中に花溢れさせ孤高たり 見栄つ張りの花も散り際心得る 花束を抱いて一礼する退社 生け花に座布団もある無人駅 治つたな花がきれいに植えてある 愚直さで職場の花を振り向かす 淡い恋れんげ畑で咲いていた 婆ちゃんはお花畠へ逝きはつた 花が逝く花野の迷路抜けてゆく 梅が咲き私もそつと発芽中 咲き時は忘れぬフクシマの桜 野に星が降りてきたよな犬ふぐり うなだれると叱つてくれる姫女苑 精いっぱい花の役目を演じ切る 春ですよ菜の花の色風の色 寄り添ってくれる魂ある遣花 菜の花の向う遍路の鈴の音 五男一女ついに花柄干せる朝 つつましく咲く花つつましく愛でる モリカケと同じにされた桜かな	藤井寺市 橋本市 堺市 奈良市 枚方市 三田市 犬山市 鳥取市 枚方市 三田市 大阪市 堺市 三原市 大阪市 岡山市 三田市 高槻市 笠岡市 神戸市 三田市 弘前市 大阪市	太田扶美代 石田 隆彦 矢倉 五月 米田 恭昌 丹後屋 肇 堀 正和 関本かつ子 副井ゆたか 藤村 亜成 北野 哲男 寺井 弘子 内藤 憲彦 鴨田 昭紀 大川 桃花 永見 心咲 上田ひとみ 島田千鶴子 藤井 智史 奥澤洋次郎 幸田 厚子 高瀬 霜石 江島谷勝弘
--	---	---

仏様綺麗でしようと庭の花 亡き夫に詫び言いながら花手桶 花を添え耳元で言う有難う 見納めかと言いつつ毎年通り抜け 悩みごと暫し忘れる花の道 山の辺の小花を撫ぜる山ガール 青春に咲いた花なら実を結ぶ 初恋の枯れない花を抱いている 山坂を越えて女房に花持たす 古希祝いまぶしすぎるよ胡蝶蘭 感嘆符いくつも落ちる花の下 病窓で我家の桃の咲き具合 墓参り変らぬものは山桜 秒針などいらぬゆつたり花時計 ビルが建ち花一匁路地と消え 水遣ると対話してくるシクラメン 妬心抱き花は益々美しい あらきれいな花が結んだ隣組 球界の先も見ていた月見草 菜の花が何度咲いても会えぬ人 公園の花に呼ばれて立ち止まる 議事堂で揉めても桜咲くのです	藤井寺市 八尾市 今治市 堺市 横浜市 羽曳野市 西脇市 五所川原市 唐津市 香芝市 倉吉市 堺市 藤井寺市 三田市 伊丹市 羽曳野市 大阪市 倉吉市 高槻市 佐賀県 神戸市 鳥取市	高田美代子 宮崎シマ子 渡邊伊津志 澤井 敏治 菊地 政勝 磯本 洋一 七反田順子 むらのひとり 坂本 蜂朗 山下 純子 牧野 芳光 矢倉 五月 吉田喜代子 村田 博 延寿庵野鶴 宇都宮ちづる 栃尾 奏子 宮田 風露 初代 正彦 真島久美子 櫻井 崇史 福西 茶子
---	--	---

一強の公私混同問う桜

背伸びするルビナス月とハグをする

春風の話相手になるすみれ

群れていると少しはぬくい枯尾花

ライトアップされる桜の私生活

バラ一輪枯れないままに胸の奥

花を見てにつこりできる人が好き

被災地の四季には四季の花が咲く

引き立ててあげようバラの横に立つ

愛でる人あればいつでも花は咲く

金婚式妻が育てた花は僕

出会いから別れまで見た花時計

青春に咲いた花なら実を結ぶ

喝采もあつた路地裏のスマレ

花満開酔ってくちびるには微熱

花一輪そしてあなたを想い春

コスモスが女の意地で咲く枯野

それぞれの花を咲かせてティータイム

短日や余生の花をどう咲かす

献立のわかる路地裏クレマチス

ござ敷いて夢酌み交わし刻を食む

必要と言われて花は返り咲く

咲き誇った椿意志あるように落つ

横浜市 加藤 佳子

鳥取県 斉尾くにこ

安来市 原 徳利

櫻原市 居谷真理子

弘前市 稲見 則彦

河内長野市 坂野 澄子

大阪市 岩崎 玲子

弘前市 福士 慕情

奈良市 大久保真澄

松江市 梅瀬みちを

神戸市 上田 和宏

三田市 多田 雅尚

西脇市 七反田順子

松山市 柳田かおる

大阪市 若本 安代

大阪市 栃尾 奏子

和歌山市 まつともとこ

鳥取県 門村 幸子

川西市 山口 不動

高槻市 富田 美義

三木市 山口ヨシエ

富田林市 中村 恵

富田林市 片岡智恵子

五男一女ついに花柄干せる朝

紅一点一輪挿しの花のよう

淡い恋れんげ畑で咲いていた

見頃ですちよっと寄り道しませんか

桜は利口入学式にちゃんと咲く

花束を好物に替え喜ばれ

毒を持つ花もあるから要注意

美しい花は苦勞を語らない

愚直さで職場の花を振り向かず

精いっぱい花の役目を演じ切る

風船で飛ばした花の種の縁

老人の町はガーデン花つくり

棘のある身とは気付かぬ薔薇である

バラ百本なんの効き目もなく振られ

花束贈呈頑固の涙塚をきる

誕生日せめて花など飾ろうか

九十四の花が周りの的になる

喜寿迎え今が人生花盛り

花いっぱい今年暮れはダイヤ婚

耕せば花も咲くでしょ新天地

必要と言われて花は返り咲く

カンナの朱男なんかと咲呵切る

花の名よりも知ってるお酒の名

三田市 幸田 厚子

小野市 藤原 泰宏

枚方市 藤村 亜成

藤井寺市 鈴木いさお

大阪市 柴本ばつは

堺市 源田八千代

宝塚市 太田としお

尾道市 小川 道子

鳥取市 副井ゆたか

三田市 上田ひとみ

豊中市 きとうこみつ

広島市 松尾 信彦

河内長野市 森田 旅人

大阪市 古今堂蕉子

奈良市 米田 恭昌

松原市 森松まつお

倉吉市 山中 康子

鳥取市 山下 凱柳

大阪市 川端 一步

越谷市 久保田千代

富田林市 中村 恵

神戸市 山崎 武彦

米子市 竹村紀の治

汗積めばどんな道にも花は咲く  
立ち眩み菊はすっかり萎れてる  
葉の花が何度咲いても会えぬ人  
免許証返し見つけた路地の花  
ビルが建ち花一匁路地と消え  
しなやかに揺れてコスモス風の使者  
たまゆらの亡母の声聞く白椿  
花筏海に伝える山便り  
上流は満開らしい花筏  
真ん中で薔薇には薔薇という孤独  
理由など聞くな椿の花が好き  
カンナの朱男なんかと啖呵切る  
なす術もなくしてしばらく落ち椿  
冬火花逢ってはならぬ人といふ  
花の名を君に訊いてる恋してる  
少年の脱皮うながす母の花  
秒針などいらぬゆつたり花時計  
花道を通らぬ父の作業服

秀句

美しい花は苦勞を語らない  
耕せば花も咲くでしょ新天地  
千の想いゆつくり流す花いかだ

東大阪市	北村	賢子
大阪市	森	廣子
佐賀県	真島久美子	
三田市	福田	好文
伊丹市	延寿庵野鶴	
八尾市	山根	妙子
貝塚市	石田ひろ子	
豊中市	齋藤奈津子	
和歌山市	古久保和子	
松山市	宮尾みのり	
岡山市	丹下	凱夫
神戸市	山崎	武彦
岡山市	工藤千代子	
今治市	永井	松柏
大阪市	高杉	力
三原市	笹重	耕三
三田市	村田	博
寝屋川市	川本	信子
尾道市	小川	道子
越谷市	久保田千代	
奈良市	渡辺	富子

団子から花に乗り換えてる老後  
出不精の母を誘った花便り  
被災地の四季には四季の花が咲く  
目立たなく地味なレモンの白い花  
水仙の香り玄関包みこむ  
散り際を飾ってみせる寒椿  
ハイビスカス右も左もトロピカル  
花まかせちよつと遠出の散歩する  
つましく咲く花つましく愛でる  
千の想いゆつくり流す花いかだ  
花吹雪最後のセリフ考える  
好きだった花で柩を埋めてやる  
身の丈の居場所見つけて咲いてます  
花咲爺になろう世のため人のため  
太陽の塔が見下ろす花蓆  
造花とて生きる覚悟は出来ている  
花束を私ごときの顔で受け  
ときめいたあのとき以来バラが好き

秀句

交差点そつと置かれた白い花  
孤独死と思われぬよう花生ける  
花見酒桜に勝てる花はない

宝塚市	岸田	万彩
西予市	西田美恵子	
弘前市	福士	慕情
大阪市	江島谷勝弘	
広島市	田桑	恵子
名古屋	山本三樹夫	
松江市	石橋	芳山
川西市	大坪	一徳
弘前市	高瀬	霜石
奈良県	渡辺	富子
鳥取市	倉益	一瑤
大阪府	米澤	俣子
大山市	金子美千代	
香南市	桑名	孝雄
箕面市	中山	春代
鳥取市	夏目	一粹
神戸市	青山ひろし	
奈良市	山本	昌代
神戸市	敏森	廣光
仙台市	月波	与生
鳥取市	岸本	孝子

「食欲」

(投句 233名)

伊藤 のぶよし 選



隣から食欲そそる句の風  
 食卓に地産地消の句を盛る  
 元気の秘密朝から肉を食べてます  
 屋台から屋台を巡るBグルメ  
 グツグツと湯気にさそわれ手がのびる  
 一声でみな寄ってくる食べ盛り  
 空腹に三分待てがもどかしい  
 給食のおかわりの声頼もしい  
 どか弁が米の消費のピークです  
 ラーメンは別腹ですと言った頃  
 メダカもバラも食べ物に見えてくる  
 うまいと聞いたなら我慢できません  
 食欲をそそるきつね色のおこげ  
 胃袋がもつともつとやかましい  
 食べるのはおなかの子です悪しからず  
 母の食欲もつたいないも入ってる  
 食べ盛り味は二の次三の次  
 積み上げる皿頼もしい伸び盛り  
 ふるさとの米は冷めてもおかわりを  
 見るだけで食欲そそる松葉蟹

奈良市 米田 恭昌  
 弘前市 福士 慕情  
 香芝市 大内 朝子  
 東大阪市 佐々木満作  
 三田市 足立つな子  
 越谷市 久保田千代  
 堺市 矢倉 五月  
 西宮市 緒方美津子  
 八尾市 山根 妙子  
 泉大津市 磯野不二夫  
 奈良市 大久保眞澄  
 米子市 後藤 宏之  
 尼崎市 清水久美子  
 大阪市 金川 宣子  
 和歌山市 福井 菜摘  
 大阪市 原田すみ子  
 宝塚市 太田としお  
 横浜市 菊地 政勝  
 池田市 倉本 一弥  
 鳥取市 岸本 宏章

盛りつけに食欲そそる日本食  
 ひとしきり笑ってデザートもべろり  
 みそ汁の匂いにみんな起きてくる  
 食欲を満たしてくれる嫁の腕  
 戦中派大食ショーは馴染めない  
 食欲旺盛切換え速い男です  
 満腹を許されぬ鶴の悲しみよ  
 食欲を満たせる日本有難い  
 おかげさま何を食べても美味しくて  
 考えぬ葦だ食欲ばかりある  
 天と地の恵み食欲かりたてる  
 食べながらしゃべって食べながら聞いて

三田市 木村マユミ  
 榎原市 居谷真理子  
 西子市 黒田 茂代  
 弘前市 稲見 則彦  
 三田市 福田 好文  
 大阪市 柴本ばつは  
 岡山県 藤澤 照代  
 松山市 宮尾みのり  
 大阪市 若本 安代  
 仙台市 月波 与生  
 鳥取市 夏目 一粋  
 佐賀市 真島久美子

佳句  
 食欲が戻り十五の恋終わる  
 見合いなれしているようだよく食べる  
 おかわりに笑みがこぼれる介護の手 河内長野市  
 ここぞって時に頼りになるバナナ 弘前市  
 炊きたてのごはんの匂いには負ける 藤井寺市  
 人  
 食べてみてごらんと苺赤くなる 倉吉市  
 地  
 食欲と格闘をする咀嚼力 豊中市  
 天  
 食欲の行きつく果てにある戦 大阪市  
 軸  
 先ずは腹いっぱい悩むのは明日 樋口 眞

「借りる」

(投句 230名)

岩本笑子選



高い本借りると決めて図書館へ  
「つけ」として「客と店とのよい絆  
借りるより買って読みたい話題作  
大宇宙の一隅借りて生きている  
切り取ってある図書館で借りた本  
借り物の祝辞でページ間違える  
借りものの命を丁寧に生きる  
神様に地球を借りているヒト科  
借用書亡父の苦勞をとっておく  
行き詰まり迷った時に妻の知恵  
陽と水の力を借りて咲かずバラ  
通院へ妻の耳借り口を借り  
姑さんを時々レンタルする平和  
死ぬまでにローン返済しておこう  
借金はないぞと言えぬ八十路坂  
傘借りて行きつけとなる喫茶店  
借金を返し大きな息をつく  
借りものの地球を愛しゴミ拾う  
借物競争張り切る父と手をつなぐ  
借景を楽しんでいるわが庵

大阪市 平賀 国和  
香南市 桑名 孝雄  
横浜市 加藤 佳子  
鳥取市 岸本 宏章  
大山市 関本かつ子  
三田市 多田 雅尚  
大阪市 平井美智子  
富山市 伴 よしお  
東京都 川本真理子  
大阪市 坂 裕之  
豊中市 松尾美智代  
神戸市 奥澤洋次郎  
三田市 北野 哲男  
神戸市 松倉 正美  
鳥取県 竹信 照彦  
丹波篠山市 酒井 健二  
倉吉市 大羽 雄大  
岡山県 藤澤 照代  
川西市 大坪 一徳  
池田市 上山 堅坊

妻や子に借りがあるからボケられぬ  
借りたのを忘れ引き算間違える  
借金も財産ですと胸を張る  
クローバー挿んだままの借りた本  
昭和二十年八月六日を借りる

借景の山は運刻の冬將軍

借りたなら善意の傘は返さねば

ポケットの小銭に混じる借用証

ローン完済家も私もくたびれる

借りるわけ無いのに猫の手もなんて

先人の知恵をこっそり借りに行く

人手不足千手観音お借りする

佳句

ぬくい肩借りて一歩に日が昇る

大逆転ファンのパワーを借りるだけ

モナリザの笑み借りてからよくもてる

にわか雨借りてたままの傘返す

ご主人をお借りしますと言うでんわ

人

母の名を借りて令和を生きてみる

地

飯の世で借りた命を紡いでる

天

言の葉を借りに行きます広辞苑

軸

走る走る借り物の傘運動会

堺市 内藤 憲彦  
鳥取市 田中 天翔  
三田市 九村 義徳  
岡山市 大石 洋子  
仙台市 月波 与生  
河内長野市 中島 一彌  
香芝市 大内 朝子  
枚方市 山口弘委智  
札幌市 三浦 強一  
堺市 矢倉 五月  
三原市 鴨田 昭紀  
奈良県 長谷川崇明  
河内長野市 坂野 澄子  
岩国市 上村 夢香  
大阪市 田中ゆみ子  
大阪市 樋口 眞  
三田市 福田 好文  
大阪市 小野 雅美  
弘前市 福士 慕情  
高槻市 島田千鶴子

# 初歩教室

題 — シヨック

## 居谷 真理子

さあ四月、新しい季節です。

皆さんは句会や勉強会などによくお出かけですか。たくさんの人と出会えるのは楽しいことですね。また自分の句も広い場所に出すと別の顔を見せたりします。いろんな都合で外出がかなわない方も是非「投句」のご活用を。「川柳塔」誌各欄へはどしどし句を出して新しい世界を広げましょう。毎月の本社句会へのご出席、ご投句もお待ちしています。

(原は原句 参は参考句)

原 大胆な逃亡許す恥さらし

(加佳 子)

「恥さらし」と怒りを表現。しかしナマの言葉で感情むき出しの感もあり。もう少し余裕が欲しいです。

参 大胆な逃亡許す法治国

原 愛じゃなく面食いだった嗚呼君は 一 弥

参 憧れの君は面食いだったのだ

原 物忘れ続きシヨックを隠せない (兼) 廣 子

このシヨックは不安感を連れています。

参 大丈夫だるか物忘れが続く

原 分断が世界で進みシヨックです ひでお

内容のわりには表現がおだやかですね。

参 シヨックシヨック分断されていく世界

原 へは碁でも負ければシヨック返事せず 嘉 昭

参 へは碁でも負けたシヨックは隠せない

原 上の空遠くに聞えるガン告知 貴美江

参 空遠く鳴り響いてるガン告知

原 シヨックなあシヨックだったとやりすこす よしお

参 あのシヨックシヨックだったともう過去に

原 お早ようのほど良いシヨック元気でる 一 平

参 お早ようの声に血流元気づく

原 露天風呂寒さにシヨック雪景色 三樹夫

「雪」があれば「寒さ」は要りません。

参 体にはシヨック雪の露天風呂

原 ウエストのボタン飛ぶほど肥えちゃった 弘 美

「肥えちゃった」で説明になっちゃった。

参 ウエストのボタンが飛んだハックシヨク

原 初詣で行列長くあきらめた 開 子

参 行列を見にきただけの初詣で

原 法曹界上や下えの大慌て 英 也

正しくは「上を下への」ですね。

参 法曹界逃げた鯨に大慌て

原 借金の遺産出て来てシヨックやわ厚江

参 相続は借金だけの大シヨック

原 吾ケータイスマホあやつる五才児が 由紀子

参 わたくしはガラケイ五歳児はスマホ

原 ますルージュ老けて見られて奮い立つ 閑

参 ルージュひく老けて見られたその日から

原 宝くじ二番違いでゴミ箱へ 崇 史

宝くじの句はよく出ます。これぐらい省略しても大丈夫でしょう。

参 ゴミ箱で二番違いが泣いている

原 よく映る鏡に皺を見てシヨック (川) 信 子

参 正直な鏡に皺を教えられ

参 皺だけははつきり映すこの鏡

参 正直な鏡は嫌いだ嫌いだ

原 この差し歯餅が手となりくつついた (澤) 良 子

面白いですね。背景を正月にしてトホホ感を強調。

参 雑煮餅ひよいと差し歯をひっこ抜く

原 ぶり返し痛くなってる五十肩 紀美代

参 この歳で卒業できぬ五十肩

原 喪中はがき今年は況して届く暮 厚 子

況して「まして」と読むの初めて知り

ました。喪中はがきはたいいてい暮れ近く  
に届くので「暮」は省略。

参 喪中はがき今日もポストにある今年

原 天災へゼロから生きる気力なし 眞智子

参 天災に気力根こそぎ奪われる

でも前向きな句も詠みたいです。

参 天災が残していったのは命

原 女房は炎鵬よりもデカイんだ 不二夫

なるほどこれも一つのシヨック。笑えま

す。でも「女房」は古くさい感じ。軽快に。

参 僕の妻炎鵬よりもデカイんだ

原 失恋のシヨックに泣いた中三期 秀 爷

中三期？中学三年のことでしょうか

参 失恋のシヨックに泣いた十五歳

参 中三で初めて恋に泣きました

原 日本政治桜シヨックで立往生 光 雄

「桜シヨック」、言いて妙

参 議事堂で桜シヨックの後始末

原 書類見て一寸シヨックの我的齡 睦 子

「齡」は「よわい」と読みますので下六に

なつてしまいます。

参 書類には正しい歳が書いてある

原 はみ出した肉と儂い髪になり もとこ

参 たつぶりの肉ととほしい髪になり

原 風吹きビカビカ窓に濡れ落葉 えい子

参 磨きあげた窓に風の濡れ落葉

原 この人にあるまじきところたえる 千代

参 この人の裏側を見てうろたえる

原 スキー場雪がないから泣いている 風 露

参 スキー場雪が降らずに涙雨

原 救急車の中で目覚めて声も出ず ゆき

参 気がついたときは救急車の中で

原 スルーした薬器箱にだまされて のぞみ

参 悠悠と薬器に化けて通り抜け

原 注射下手医者にシヨックまだ傷たむ ミヨノ

参 シヨック死をしそう注射の下手な医者

原 久しぶり会った彼女の変わり様 泰 宏

参 声聞いて彼女と分かる変わり様

参 太ったねと言いつつ久しぶり

原 右ひだり選んだ方がハズレくじ くみ子

参 二つに一つ必ずハズレくじを引く

原 年金も思った程にもらえない 千賀子

参 もつとひねりが欲しいです。

参 年金の皮算用をしました

原 裏話お通夜の席が凍りつく 行 久

お通夜は暗いし、凍りつくは冷たいし…

参 今だから言える話が通夜の席

参 実はねにお通夜の席の大シヨック

原 アイデアがひよいと浮かんでスッと消え(東美智子

少し強めました。

参 グッドアイデアひよいと浮かんでスッと消え

原 丁寧な言葉返されシヨック受け(高道 子

参 ご丁寧なお返事されてあらシヨック

原 同期会合わせ鏡の友ばかり 令位子

情景を描写したつもりですが違っていた

らごめんなさい。

参 同期会みんな丸い背深い皺

「佳句」

シヨッキングピンクがマッチマイワイフ

好物を最後にとつておいたのに 正 美

ババジャイママがいいのとくずられる 奈津子

「今月の推せん句」 亜希子

夢求め買った団地の空洞化

中島 通則

2千万聞いたシヨックがまだ癒えぬ

近藤 勝正

ならぬことならぬと言つてバツシンク

細田 マキコ

# 川柳塔鑑賞

同人吟 福士慕情

— 3月号から

人間は大好き 人混みは嫌い

大久保 眞澄

喜怒哀楽を表現出来る人間は絶好の川柳の素材になる。大勢の中で句材を拾う方法もあると思うが、私も人混みはどうも苦手である。

友の賀状去年に増して震えた手

辻内 げんえい

手書きの賀状は人情味があつて嬉しい。年賀状終いする人が多くなる中で、不自由な手で書いている友の律儀な姿が見える。震えた字に感慨を深くする。

決断をするには荷物重すぎる

松原 寿子

重い軽いは別として、人は何かしらの荷物を背負っている。知らず知らずの内には決断を迫られる時がある。まず荷物を少しでも軽くすることである。

クラス会何故か女性は若すぎる

藤井 文代

恩師より白髪が多くなり、頭が薄くなっている男性、それに引き換え服装もおしゃれで、髪を染め化粧を施している女性、お喋りも尽きない。

いい嘘をつけたと安堵する見舞い

吉村 久仁雄

嘘は泥棒の始まりと言われているが、病人を労つての嘘は本人にとっては辛いことだがベッドの笑顔を見ているとこれよかつたとはっとする。

臭いもの蓋より先にシュレツター

谷口 回春子

永田町の公文書はどことなく臭い、都合の悪いことは直ぐシュレツターに掛けて証拠隠蔽をしてしまう。さくらを観る会へ参加された人達もたまつたものじゃない。

貧乏な昭和の方が子沢山

谷口 修平

日本列島の隅々まで少子化に頭を悩ませている。戦中に生まれた私の家族は八人、他所の家庭を見ても子供が五、六人は普通であり、貧しくても笑顔があり家族の連帯感があつた。

記念日を忘れ小さくなっている

稲見 則彦

結婚記念日なのか、それとも誕生日なのか。最近はいつうっかり忘れる事が多くなつた。奥さんに言われて、面目ないどひたすら小さくなつていいる作者。

始めたら止められないという注射

中村 伸子

採血の際、血管の細い私は何所へ針を刺そうか看護師が一瞬躊躇う。上手な人は一回で済むが、たまには二、三回血管を外すこともある。しかし、一度刺したら途中で針を抜くことは無い。

躊躇した自動ドアがお出迎え

川島 良子

自動ドアの付近に立つとドアが開いたり閉じたりを繰り返す。自動ドアは出来れば早く入って欲しいと思つている。冬の寒い時は躊躇することも無く直ぐに入つて欲しいと思つている。

ほっこりと癒してくれる里の味

坂 裕之

故郷はいい、母が生存の頃は母の味、亡くなってからでも郷土の料理は懐かしい。津軽の冬には、鱈のジャッパ汁と野菜を刻んだケノ汁がある。

あの日より今の貴方がずっと好き

中井 萌

あの人は燃えるような恋をした日でしょう。か、それとも新婚時代のことでしょうか、生きとし生きて素敵な伴侶といふことの幸せ、長く続いて欲しいです。

忘却という神様の贈り物

若 本 安代

失敗や後悔を引きずって生きるのは辛いことである。悩んだ末に解決する事象もあるが、それすら刻が経てば思い出の中に閉じ込められる。時間は神様からの贈り物。

定職はないが老後が忙しい

岩 佐 丹吉

毎日が日曜日の私も、かなり雑用に追われて義理を欠いている事が多い。高齢の女性は結構外へ出ているが、男性はその割ではない。もっと外へ出よう。

初詣で神は多国語聞き分ける

島田 千鶴子

観光地は何処でも日本語より外国語が盛んである。名のある神社仏閣への初詣で。此処でも外国語が氾濫している。神仏も外国語の勉強に精を出す。

コンパスが気軽に決める避難地区

原 洋志

被災地の中心から何キロメートルと概略をコンパスでぐるりと避難地区を決めている。地形などから見ると、一概にそれでいいものかと思う。

今がピークと毎日思うようにする

藤村 亜成

「今よりも若い明日は無いと知る」という句がある。健康第一、今日のピークが毎日続くように自分の健康を維持したいものである。

頑固さも妻の魔法に踊らされ

山口 光久

昭和初期の私の年代では夫婦随が幅を利かせていた。しかし、今は奥さんの掌で踊っているのが幸せと思っている作者。その内に頑固さもとれて、皆から好かれる好々爺になる予感。

下の名で呼ばれ一日若くなり

岩 本 笑子

名前と呼ばれるということは、両親か夫、幼馴染か学友など。今はお母さんとか、お祖母ちゃんと呼ばれているので、名前と呼ばれると一瞬若返る。

宴会のお椀の蓋に四苦八苦

山下 節子

四苦八苦している様子が見えるようである。下手に開けようとする中の中の汁が飛び散ったりと大変である。お椀を挟むようにして蓋を開けると開けやすい。

西暦と元号合わせやこしい

猪川 由美子

私はまだ、昭和の元号を使っている、したがって2020年は、昭和95年で過去の出来事を思い出している。

四季を詠む風情が消える温暖化

後 藤 美恵子

グレタさんが声を大にして温暖化防止を訴えている。歳時記が狂いだす。

和解する酒がつつい逆効果

梅 瀬 みちを

シャンシャンと手を打って和解したはずなのに、酒が進むうちに又繰り返す。

# 水煙抄鑑賞

— 3月号から

柳田 かおる

さりげない言葉がやけに嬉しい日

北山 まみどり

同じ言葉なのに心のあり方によって、素直な心に入ってきたのです。

ほっとする話題を探す虫めがね

中山 昭美

本当に大変なニュースばかり、ほっとする話は虫めがねで探しても見つからないくらいです。

弱点を晒し気楽に生きている

吉道 あかね

そうですね、強がっていると世間を狭くしてしまいます。弱いところを見せてしまうと楽です。親しみを感じたり

緩めるとこんなに楽になりました

郷田 みや

やさしい言葉で、みやさんの生き方が見えるようです。

迷ってばかり迷わずに咲いたのに  
けじめなどつかないけれど白ペンキ

真島 久美子

迷い悩む今の自分の気持ちに、けじめはつけられない、振り出しに戻してみる  
白いペンキが爽快。

何もしてくれない野仏を洗う

月波 与生

野仏を洗い、わたしを洗い、自分自身に問いかけているのでしょね。

独り者たまには湯船つかろうか

廣瀬 良磨

勿体ないからシャワーで済ませます。時は入浴剤でも入れて身も心も温めて。

辛口の忠告貰い奮い立つ

上山 堅坊

やさしい言葉よりも厳しい忠告により  
本気で自分を発奮させる。

このノート僕の堪忍袋です

小畑 宣之

書くことで自分の中のもやもやを吐き出す、このノートが受け止めてくれる。

きつとまた会っさよならの向こう側

中前 幸子

会えるのが当然のようにさよならなら

同級生の葬儀をはしごして帰る

中筋 弘充

葬儀のはしご、たまらなく寂しいです。  
引き出しに何故入れたのか鍵がある

川本 信子

ふしぎふしぎ、何かドラマがありそう

スイトビー来客ひとりひそと待つ

延寿庵 野鶴

きつとやさしい、大切な人をお待ち。

矢印の通りに進むのは嫌だ

岸田 万彩

そうです、自分の意思で自分の足跡を。

遠回りして来た汗が澄んでいる

千葉 風樹

深いなあ、つい近道を探してしまう。

回り道をして得たものが多い。

ほめるなら逝った時より今でしょう

近藤 勝正

亡くなった後に、よく何とか賞などと生きている時の方がどんなに嬉しいか。

二番でよかまだ登り切る道がある

伊藤 嘉昭

人は頂上を目指して頑張っているような気がする、でも二番でよかった、まだ次の目標ができた。



物体を見詰める (1)

必要は發明の母と言いますが、有史以来、ヒト科は必要に応じた様々な道具を創り続けてきました。それ等は違和感もなく日常生活に入り込んでいますが、ジッと見詰めていると、何やら面白いものが浮かんでくることがあります。

本欄の30と31で「観察と考察」と題として、持ち物や物体を観察した句を採り上げていますが今回はその続きです。

ジャンプ傘そんなに急ぐことはない

先を読むのには便利な破れ傘

コンビニエ出かけるときは古い傘

天気予報のウソツキ傘は杖にする

傘立てにあなたと差した傘がある

逆転は傘のしずくを切ってから

「雨の降る日は天気が悪い。スズメは高下駄よう履かん」は、当然の事を言った慣用句ですが、科学技術が発達した現代でも「雨が降ったら傘を差す」のは変わらず。進化したのはジャンプ傘と折り畳み傘ぐらいなものでしょうか。

引き出しに逃げ回ってる万歩計

万歩計百歩歩いて確かめる

もう少し早く歩くと万歩計

山頭火ほどは歩けぬ万歩計

万歩計つけるとおじいさんになる

万歩計桃源郷をめざすなり

万歩計という名称は山佐時計計器(株)の登録商標で、一

般には「歩数計」とするべきですが、今では「万歩計」がすっかり定着。単なる計測器ではありませんが「もう少し頑張れ」とか「目標達成!」とか励ましてくれるようです。しかし、そのように歩数を気にするのも老人の証でしょうか。

美しいと断じて口にせぬ鏡

十年後の顔も見せるという鏡

陽の入る部屋で鏡は見ないこと

正直に映すと嫌われる鏡

ベストセラー読んでいるかと言つ鏡

女坂うぬぼれ鏡拭きながら

「鏡よ鏡、世界で一番美しいのは誰?」との問いかけに、「それはアナタ!」と返ってきたのはせいぜい二十歳代まで。中年を過ぎると「短所ばかりを写す」「美しいとは言わぬ」意地悪な鏡になってしまうようですが、そのようなことにめげず「合格!」と自主判定するのも女性の逞しさです。

不慣れた付箋貼れない電子辞書

ページ繰る楽しみもない電子辞書

そよ風がページを繰れぬ電子辞書

すぐ分かり直ぐに忘れる電子辞書

仏滅だ電子辞書まで電池切れ

電池切れしても忘れぬ電子辞書

ポケットに入るほどの大きさでありながら「広辞苑」「和英」

「英和」「類語」「古語」「四字熟語」「ことわざ」等々、膨大な情報

が詰まっている電子辞書。句会や大会に必携となっていますが、「付箋を貼れない」「ページを繰る楽しみがない」「冷

たくて風にも反応しない」等の欠点もあるようです。

田中 みね  
久場 征子  
針生 和代  
神野きつこ  
田村きみ子  
西出 楓条

竹山千賀子  
金野 正郎  
水野 黒兎  
海老池 洋  
木田比呂朗  
笹原 子墨

# 『麻生路郎読本』余滴 (57)

## 路郎の「川柳人協会」⑤

葉原道夫

「川柳雑誌」昭和12年7月号「川柳協会の❖頁」に、(岸本水府君は六月五日附で、森雞牛子君は六月廿日附で川・協名譽會員を辭退された)とある。8月号では、(本田溪花坊君は七月三十一日限り川協名譽會員を辭退された)とあり、関西柳界の中心人物が3人も協会を脱退した。

8月号には次の記事も掲載されている。

〔最近の「三味線草」で\*川・協の名譽會員に期限があるのを難じてゐるが、川・協の名譽會員は偶像ではない筈だ。過去の功績の表彰と同意語にも等しい世の常の名譽會員とは譯が違ふ。川・協の仕事は偶像を奉載して出来る仕事と仕事が違ふ。尠くとも將來の川柳界を深思する人々、その向上と發展に熾烈なる熱意と不斷の實踐を期待する人々に捧げた尊稱なのである。全然

起つ能はざるを知つた人々、柳界に害毒を流す人々は自らその期限の到るをまつて後退さるるに便であり、後退を勧むるに穩健でもあるからである。しかしながら協会側よりこれをなすことは協会の目的に違背せる行動をされざる限り殆んど稀有であることを申上げて置きたい。本會の如きは一つに協力によりてはじめてこれが貫徹し得られるものであるから役員制度の生きて働く手段に出たの外ならぬ。〕

\*「三味線草」は、森雞牛子主宰の雑誌。

「川柳雑誌」3月号の「役員費の廢止」に、(役員任期は總て滿一ヶ年とし正會員中から理事長が推薦する形式にした)とある。

8月号には、8月1日以降の名譽會員23名が発表されている。

蛭子省二(朝鮮) 榎田珍竹林(静岡) 藤本福造(京都) 堀口塊人(同) 池田可宵(朝鮮) 伊志田孝三郎(名古屋) 亀井晟修(函館) 川上三太郎(東京) 小林不浪人(青森) 前田五健(松山) 前田雀郎(東京) 森東魚(豊中) 村田周魚(東京) 中島紫痴郎(長野) 中澤濁水(高知) 大島壽明(大連) 大谷五花村(東京) 齋藤旭

映(名古屋) 坂井久良伎(千葉) 相本紋太(神戸) 塚越正光(大阪) 和田天民子(東京) 安川久留美(金沢)

— ABC順・敬称略

昭和12年12月3日に、大阪朝日新聞の大広間で、川柳人協会主催・朝日新聞社後援の「同情週間 師走川柳大会」が催された。11月号の「編輯從横」に、(大阪朝日新聞の社會事業團から歳末同情週間の義金を募る目的で川柳大會を開くことを依頼されたが、コレは「川柳雑誌社で舉行するよりも、川柳人協会の仕事として、うつつけのものなので、川協年中行事の一つとして川協に譲ることにした。(略)川・雜の年中行事だつた京阪神支部聯合主催の忘年川柳大會は時節柄でもあり本年は舉行を見合せ、川協の「師走川柳大會」を應援することに決定されたので、各支部の方々は費用や賞品にあてるため従來御寄贈下さつた金員を「川協」の方へ御惠贈願ひたい。そうすることが川柳を一層大きくすることに必要なのでお願ひする)と、大会開催に到つた経緯を説明している。

同情週間(同情という語を用いている点

に時代の差を感じるが」とは、いまの歳末助け合い運動に当たるもので、朝日新聞社は関東大震災の翌年の大正13年から実施した。「川柳雑誌」昭和12年12月号の「同情週間 師走川柳大會實況」により、大会の様子を記録しておく。夕方6時には、ほぼ満員。兼題締切7時、席題締切7時50分。午後8時開会。路郎の開会の辞。続いて講演。森東魚「翻訳川柳に就て」、本田溪花坊「師走の心もち」、相元紋太「私の句」。艸葉、塊人、東洋鬼、文久の兼題披露。後半の講演。藤本福造「私の好きな句」、路郎「川柳人協会に就て」。緑雨、大研子、麦魚、京二、百雷の席題披露。その後、余興の即興漫画と福引き。11時散会。会費収入63円を朝日新聞社会事業団に寄付した。

朝日新聞社後援の「同情週間 師走川柳大會」は、昭和14年まで実施された。15年は、川柳雑誌社主催・川柳人協会後援の「師走川柳大會」に変わった。朝日新聞社の「同情週間」は、15年から「歳末厚生週間」と改め事業の見直しをしたため、そうなったのだろう。

昭和13年2月号「川♣協♣の♣頁」の「古

稀祝賀と記念品 久良伎翁の古稀に際して」で、路郎は次のように述べている。

（日本柳壇の耆宿坂井久良伎翁（川柳人協会名譽會員）が齡ひ古稀に達しられたことはまことに慶賀に堪へない。

柳壇を回顧するに四十年にわたつて翁の毀譽褒貶は綿々として盡くるところを知らない。しかも敢然として耳を藉さず自己の信ずるがまま、江戸市民詩としての川柳、没我享樂の人事詩としての川柳が持つ日本精神を説いて倦むところを知らない。けだし、明治、大正、昭和に於ける巨擘たるを失はない。（以下略）

「久良伎翁古稀祝賀記念品贈呈について」に、（一、記念品贈呈資金は一口三拾錢のこと（一口分を願ぶる小額としたる理由は川柳人及び川柳に關心を持つ人々の一人でも多く賛同せられんことを希望するに外ならない。幾口でも申込んで下さい。）一、記念品贈呈資金受付は三月一日から、八月三十一日までとする。（比較的長期とした理由は出来得る限り広く知らしめたいからである。）とあり、寄付を募っている。

寄付金は合計で351口、105円30銭集まった。

12月号に、（坂井久良伎翁古稀祝賀記念と

して川柳人協會有志より贈呈の「金一曲屏風」（贈呈者芳名明記）は麻生路郎理事長東上、贈呈する豫定であつたが師走川柳大會殘務多忙のため福田山雨樓理事代つて贈呈の勞をとられる運びとなつたので、十二月十一日福田理事下阪、麻生理事長と同道、三越百貨店にて贈呈品を受取り麻生理事長に見送られ、午後一時の特急燕で歸東された）とある。

昭和14年1月号に、久良伎の感謝状が掲載されている。

（一）謹告

一金地二曲屏風 一點

右は全國川柳有志諸氏より、不肖久良伎古稀記念品として貴會を通じ御寄贈相成り、御芳志の段々深く感銘罷まかりあり在申し候、一々感謝状差上ぐべき筈に候も、老病動脈硬化症にて双脚麻痺勝にて起居不十分爲に靜養中略儀乍ら此弘告を以つて貴會を通じ御挨拶に代へ申候

昭和十三年十二月十八日

市川市新田百五

阪井久良伎

川柳人協合理事長

麻生路郎殿（次回に続く）



(投句199名)

あれもダメ、これも中止、  
という日々が続いて何だ  
か窒息しそう。

かと言って、相手が目に  
見えないウイルスだけに  
どうしようもありません。

全世界を巻き込んだ新型コロナウイルス  
の猛威は何時になれば収まるんだろうか  
と、運を天に任せる思いで手洗いに励むこ  
としか出来ませんが、気持ちだけは何とか  
明るくしたいものです。

では、ナビです。



大阪府 宇都満知子  
母さんはびたラーメンでも平気

(評) 食べようと思つたら子供がお茶を  
こぼしたり、他の用事を言いつけられたり、  
おいしいうちにはなかなか、です。

佐賀県 真島久美子  
王様の悪口を言う穴探す

(評) この穴が見つかれば、もう何を言っ

ても平気、全部吸い取ってくれますもの。  
山来れば二、三コは欲しいですが。

大阪府 岩崎 玲子  
あの方の女房ちよいと見てみたい

(評) あの実真面目な人の奥さんってど  
んな人。反対に、あの遊び人の奥方の顔が  
見てみたい。どっちにせよ見たい。

和歌山府 土屋起世子  
うそに嘘だんだん間が深くなる

(評) 嘘をつくと辻褄を合わせるために  
また嘘を重ねなければならなくなる。本人  
にとってもしんどいことです。

東京都 川本真理子  
ひとつずつ食べて祈りになつてゆく

(評) 直接的、間接的に生き物の命をい  
ただいて我々は生きている、それを常に忘  
れずにいたいものです。

大阪府 寺井 弘子  
騙されてあげる花野のど真中

(評) 騙されてあげるとは余裕のあるお  
言葉、もちろん場所にもよりますが、それ  
が花野とあれば納得です。

西宮市 西口いわゑ  
ルージュ一本淑女にも悪女にも

(評) 塗る、塗らない、また色の濃淡に  
よつても顔の印象をガラッと変えています。  
う一本の口紅、さて、どう使いますか。

大阪府 笠嶋 恵美  
この椅子に座ればきつと若返る

(評) ひよっとしてこの椅子、座ればヤ

ル気が湧いてきたりするのは。外見だけ  
でなく中身も大事ですもの。

鳥取市 福西 茶子  
品格の無い答弁は止めなさい

(評) 国会のテレビ中継を見てみると、  
人を小馬鹿にしたような大臣の顔が出てき  
てゴハンが不味くなります。

米子市 吉田 陽子  
温暖化人心だけが冷えて行く

(評) 地球温暖化によって、今まで経験  
したことのない自然現象が起り、人間の  
力では捕えない不安がいっぱい。

三田市 堀 正和  
マスクなく今日も外出禁止です

大洲市 花岡 順子  
未来から骨のないのがやつてきた  
出かけませんか桜狩などしませんか

丹波篠山市 長谷川善輔  
猫と俺残されるのはどちらだろ

河内長野市 山岡富美子  
干物ではないぞお婆ちゃん昼寝

三田市 北野 哲男  
私がナッツ姫なり空で食う

奈良市 山本 昌代  
いかがですか味はバツグンお試しを  
柳田かおる

松山市 柳田かおる  
ウイルスに人の無力を思い知る  
大阪府 栃尾 奏子

欲望のままに止まらぬ柿の種

松江市 石橋 芳山  
悪いことしようと誘われています

榎原市 居谷真理子

ニッポンハタコイカナマコタベルコニ  
津山市 高橋由紀女

だとしても許せぬ事が一つある

松山市 郷田 みや

背もたれをそつとさすつて定年日

尼崎市 近兼 敦子

ああ今日も誘惑に負け手がのびる

熊本市 杉野 羅天

AI化学宇宙語などもインプット

弘前市 福士 慕情

頼りない奴と思うか俺社長

堺市 矢倉 五月

新発売マッサージ機に骨抜かれ

大阪市 田中ゆみ子

休んだら私の席がなくなつた

羽曳野市 徳山みつこ

百歳を目指し筋トレ欠かさない

大阪市 藤田 武人

乙姫の正体ついにばらされる

池田市 太田 省三

猫の手じゃ役に立たないサービスマ

東大阪市 佐々木満作

税金を取らぬ火星へいらつしやい

富田林市 山野 寿之

お断り延命治療よりお酒

大阪市 江島谷勝弘

ともかくも僕はいもたこなんさん派

奈良市 大久保真澄

足クセじゃない足ワザと言うてほし

大阪市 石橋 直子

上司だよ取つ付きにくい宇宙人

富土川市 中島 通則

転ばぬ先の三本足になりました

仙台市 月波 与生

着ぐるみを脱いでも誰も驚かぬ

大阪市 榎本 舞夢

口八丁手八丁です天下取る

防府市 坂本 加代

明日知れぬ命と思うアクティブに

大阪市 平井美智子

判を押す紙一枚の持ち重り

大山市 金子美千代

飢餓の子を思う食品ロス思う

弘前市 高瀬 霜石

醜という文字に似ているプレデター

唐津市 仁部 四郎

向うから見ればボクらは異星人

大阪市 古今堂蕉子

言い訳の安倍を作っている僕ら

藤井寺市 鴨谷瑠美子

本箱の隅にいるのは古い師

豊中市 松尾美智代

新幹線座るとすぐに解くパズル

堺市 坂上 淳司

たこ焼の上でゆらゆら花がつお

三田市 野口真桜子

寒いけどたまに散歩もしなくっちゃ

鳥取市 永原 昌鼓

お静かに医者診察始まるよ

磐屋川市 平松かすみ

ある日ふと整形美女を夢みる

横浜市 菊地 政勝

言うことが人間離れして愉快

豊中市 水野 黒兎

海外旅行に各自一台翻訳機

弘前市 稲見 則彦

温暖化ほうら地球も仲間入り

磐屋川市 森 茜

貴賓席のマナーと映画鑑賞と

高槻市 安田 忠子

ちよつと待てこの警告が見えないか

大阪市 石田 孝純

すみません恋は両替出来ません

三原市 笹重 耕三

大臣の椅子ウイルスに侵される

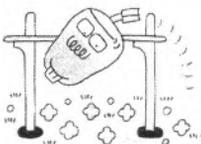
和歌山市 まつもともとこ

自家発電わたしの得意分野です

鳥取市 谷口回春子

正体はだあれも知らぬふふふのふ

### 6月号発表 (4月15日締切)



(平本 霧石人 画)  
柳箋に2句

# わが家

毎月24日締切・35句以内厳守  
掲載は原稿到着順となります。  
楷書で誤字のないようお願いします。  
編集部

## 川柳さんだ(兵庫)

村田

博報

幸せの数だけ回す万華鏡  
金婚夫婦干支はまさかの犬と猿  
幸せにしますと言った口はどれ  
幸せだわたしが家計握ってる  
主婦業の休暇届が置いてある  
温暖化温けりゃ良いと言うとれん  
ああしんど新年句会八回目  
パーゲンの妻の相伴はくたびれる  
残業の人も乗ってる終電車  
被災地も安全信じ住んでいた  
動かずにどんと構えて語り合う  
食べるほど薬を飲んで害なしや  
転ばずに風邪もひかずに生きてます  
叱ってくれて安全保つ地域愛  
安全な国で三食泣き笑い

真桜子 修平 宣子 ちあき 義徳 健二 勝弘 千賀子 耕治 順子 正彦 寅男 野薫 厚子 ヨシエ

母の胸すぐに眠たくなるのです  
デジタルより柱時計の音が好き  
デジタルは似合わないよと花時計  
独り居に風呂が沸いたと電子音  
母長寿ベースメーカーありがとう  
現生で払う言うのにキヤツシユレス  
ああ無情デジタル表示金メダル  
デジタルで修正できぬひがみ癖  
一瞬の泣く子も黙る母の声  
子の進路黙っておくと決めたけど  
父さんがデンと座ってよくいる安堵  
寡黙でもその一言がよくひびく  
黙禱に頭離れぬ子の悲鳴  
愚痴ほやきぐったり癒す冬の天  
分灯で平和を照らす街神戸  
駆け抜けたわが人生に悔いはない  
竹の灯へ私も犠牲者の一人  
豆大福口あんぐりとかぶる時  
新しい住所は極楽一丁目  
晩酌は今日一日の句詠点

## 川柳花の輪(大阪)

岡本

ひとみ 廣光 加代子 利子 利尚 武彦 おさむ 恭子 つな子 宏造 一子 美智子 美籠 美弘 優子 紀恵 千津子 ゆかり 正和 哲男

人の意見よく聞く人が和を保つ  
特売品電車乗り継ぎ買いに行く  
裏金が動いて意見一致する  
失う物ない人なを云うも無駄  
わが家では俺が一番無駄らしい  
民衆の真の叫びが弔する  
言わなくて良かったゴクリと呑む意見  
川柳塔打吹(鳥取)  
齊尾くにこ報

薫 信子 亜成 紀子 翡翠子 悦子 貴恵 大鯨 三津子 公恵 紀美恵 紀の治 清 美知江 龍枝 玲坊 滋 重忠 節子 芳光 陽之助 久芽代 義人 完司

金は天下を回らず金持ちになびく  
公園のベンチで天下取る話  
金持ちも美人も天下人も死ぬ  
立ち飲みで天下国家を一気飲み  
わたくしも天上天下唯独り  
天下取り日本国ではみみっつい  
豊かさに知らず知らずに堪えている

和歌山三幸川柳会

西川 千鶴報

約束はきつと守るとみえを切る  
いい景色一度は見たい足の裏  
パパ抜きのパパが手元をはなれない  
ゴメンでは済みそうもない朝帰り  
ごめんねと生きた秋刀魚を真つぷたつ  
政治家の謝罪会見聞き飽きた  
初ものはご先祖様が味見する  
初詣一年分を拝み溜め  
脱皮してハズレくじとは言わせない  
楽しみに今年も聴ける春の海  
勉強に終わりがないと今悟る  
身の錆を落として首がよく回る  
ごめんなさいと素直に言える人間味  
幸せにきつとするよに付いて来た  
ロケットの遺灰と共に遍路旅  
星古い最悪の日にジャンボ買う  
くじ運が悪かっただけです私

みゆき 美ツ千 石花菜 重利 富隆 照彦 准一 俣子 当代 日出男 幹子 保州 和子 智三 知香 一雄 宏枝 起世子 富香 ひろ子 敏照 まま 美羽

生きて来て良かったなあと終わりたい  
豊かさが茶粥文化を消してゆく  
翔んで翔んで翔んで終活進まない  
古い二人言い分決めるアマダクジ  
聞き役になって楽です笑うだけ  
吉と出た婚活あすに灯を点す  
相棒が見つかりほつとするピアス  
嬬やかに歩む終わりのある旅路  
くじ運がなくて小さな庭の花  
首ねつこ押さえて夫の女癖  
気にしないつもりも吉で出る安堵  
百歳が老後のためにくじを買う  
今の世は首を傾げる事ばかり  
寒空の首なし地藏花手向け  
首縦に振るまで座る陳情書  
来る来ない千切つた花に詫びている  
首つたけだったあの娘も人の妻  
手配書の写真不服で自首をする

川柳塔みちのく(青森) 稻見 則彦報

五体満足賑やかな場所今も好き  
賑やかな人でしたもう七回忌  
オンリーワンあなたのために藍染める  
ブンブンの音に合格祈願する  
人肌のお爛あることそれが愛  
竹とんぼブライバシーが覗かれる

よしこ 康則 明子 昇 美枝子 菜摘 八重子 純子 昭枝 眞智子 悦男 義泰 珠子 彦弘 あき子 かず子 俊介 千鶴 ひとし 則彦 風来坊 美鈴 隆樹 一吞

山野寿之選

風の音明日の答えは持つている  
飛ぶときを待つて備える羽繕い  
花道はなかつた母の割烹着  
さらさらと水に流せばいい話  
蠟梅のふくらみ春待つペーパー服  
私の顔忘れた母とおままごと  
怪しげな期待をくれたあのジョーク  
許そうか少し努力はいるけれど  
耳垢を取ると聞こえてくる唱歌  
捨て犬を困み思案のランドセル

佳句地十選

(3月号から)

平井 美智子 選

試すからも少し欲しい試供品  
山びこはちよつと遅れて好きという  
イケメンの医者には見せぬこの元氣  
日の丸が楕円になつていく妥協  
博労の伯父が寄付した寺の鐘  
兄嫁の本音聞いている雑煮椀  
笑いながら怒つてもいる酔つ払い  
脅されて逃げたカラスは又戻る  
許そうか少し努力はいるけれど  
お金さえあればなんとかできるのに

清春 妙子 榮子 恵 重忠 公子 弘光 照彦 哲子 勝弘

子沢山これが日本の心意気  
父と子の夢を紡いでいる字風

青空を泳いでみたい飾り風

母性愛話してみてもケ・セ・ラ・セ・ラ  
飛ぶための羽少しずつ錆びてくる

ゲーム捨てて風上げさせてやりたいな

命日に「愛の讃歌」を口ずさむ

悩む子を遠くで見てる母の愛

仏像は眼差し細め愛こぼし

四世代そろそろ令和のお正月

地域愛とともきれいなゴミ置き場

過疎捨てる少年高く高く飛び

天高しこころ晴れ晴れ深呼吸

はくよりも強気な君となら歩く

聞く耳は持つておられますさあどうぞ

ひと口の酒に令和が通過する

魂が渴かぬように水注ぐ

妻よ子よ所詮はひとり旅である

きっぱりとノーとも言えず仰ぐ空

古日記戦争語る生き地獄

Yシャツの袴立てるかで鎖骨と相談

人になりたい一人前になりたい

川柳塔すみよし(大阪) 森松まつお報

いつか来るゴールまでなら笑おうよ  
週末時計0になるのを阻止せねば

重虎

黙人

慕情

久美子

柳子

孝子

京子

初枝

英子

吹喜

真由美

きよし

のぶよし

龍馬

ふさゑ

花峯

菟

霜石

洋子

呑舟

和香子

規子

いつの日か途中下車して会いに行く

老いた父母やがて私も辿る道

紅顔を誇らないつか黄昏れる

幸運はそのうちなんて狡い籤

AIにいつか将棋を勝ってやる

いつか来るその日の為に爾々と

いつかきつと天下を取ると誓ったに

いつか来るまさか天に預けます

この恨みいつか必ず晴らします

刃渡りの見事さ独楽は生きてるぞ

独楽ねずみみたいに励み今の幸

昭和の母いつも手作り独楽まわし

独楽のように筋を通した答弁を

チャレンジに怯むこと無い独楽の芯

夫婦独楽はじかれるのはいつも僕

爺ちゃんが喝采浴びる独楽回し

あわてても水は流れていくばかり

あわてんでもええやん極楽か地獄

青信号あわてて渡る癖がある

レシビなら時短簡単スマホなら

里帰り味噌汁吸り違い知る

手と足の一句に会ったのはあの日

六桁の背広五年も着崩れず  
スマホ機能みごとに制覇三歳児  
ヒント少し知恵の輪見事解きました  
もの言わぬ生き物の知恵目を見張る

芳香

克己

俊雄

宏造

一步

志津子

舞夢

大輔

いさお

ばっは

萌

たかこ

廣子

美籠

久仁雄

妙子

ゆみ子

進

さくら

満知子

重信

ガン吉

久美子  
五月  
大子  
満作

ちよい悪が黙々とするボランティア  
読み終えて生き抜く覚悟ひしと湧く

パニアアイス醬油かけると超うまい

異常気象こりゃあやっぱり人災か

まつお

富柳会(大阪) 山野 寿之報

春うららもう溜息は水らせる

原色の主張は他人を寄せつけず

遊ぶこと辞めると老いていく男

目が合えば財布がゆるむ募金箱

手遊びがやがて虜になった趣味

自慢話溜め息ついて聞いてやる

隙間修復出来ず出る吐息

人間の生き様映す走馬灯

木枯らしが一人の旅の背を押す

正確は一つじゃないよトンボの目

厳寒の菰を被っている大志

割り勘はとことん飲んで酔いつぶれ

しあわせに気付くしあわせ春の窓

まなざしの深さは歳月の実り

とことんの覚悟が見せている自信

説得も溜息つかれ糠に釘

魚の目が今日も散歩の邪魔をする

其の内と貯める空箱親譲り  
夜が明ける私の影が消えている  
大掃除明日あしたでまた明日

輝子

ふりこ

直子

まつお

和子

恵

武人

澄子

寿之

一文

高鷲

壽峰

伸雄

田鶴子

欣之

清

あかり

かこ

文重

きみ子

由夏

きよみ

隆允  
エミ

ユーモアを貰う出目金ブルドック 安希子

城北川柳会(大阪) 近藤 正報

悲しくて日記白紙のまま眠る 郁夫

待つていろんどんでん返しある明日 博

公園の鳩と話せる車椅子 和夫

ウイルスが閑古鳥呼ぶ観光地 寛昭

リーダーになって気配りマメになる 久美子

鳩首談コロナウイルス殲滅に 正彦

拗う手にちよくちよく零れ春の水 弘委智

おせじでも変わらなぬはうれしいね 宣子

やはり白紙透かして見ても焙つても 北舟

関白も機嫌伺う山の神 俊雄

我が子です答案用紙白紙の子 千賀

老いたかなちよくちよく顔を出す弱気 堅坊

ウイルス禍刻変化不安増す 福貴子

妻の名をちよくちよく忘れオイと呼ぶ 実

想い出を昭和に戻す鳩時計 克己

難題に白紙委任はちと困る 高志

生きるよろこびに愛されるよろこび 麗子

人はみな生まれた時は白紙です 追伸の余白へ母の花ことは 殺し屋のウイルス蔓延の恐怖 今日の色空の茜で塗り終える モリトモも桜も白紙してはならぬ ほろ酔えば仏に変わる鬼の父 いいんですどうせ私は変わりもの

菜子 野鶴 満作 満知子 一步 満洲夫 勝弘

天井で秘策を練っているネズミ 初夢はハワイのビーチで寝てました 誕生日大地目覚める音がする 日向ほこいじわる雲が邪魔をする 怒りたくないのだから早く気付いてよ なつとつうたべたらくものすできました

節夫 歩美 厚子 貞子 史子 四歳ちか

竹原川柳会(広島) 古田比呂子報

手順良く見るみる出来るお惣菜 家事分担順番守る皿洗ひ 正座して年齢順にお年玉 順番の列でやさしい風を待つ 書き順はどうあれ母の字は丸い カラオケの順大ジョッキ大ジョッキ 順調です産声を持つ岩田帯 多数決こんな議事堂まだ強気 検診の結果数値に脅される 未知数を悔いなく生きる八十路坂 小さな幸数えて束ねて花束に ねずみの嫁入り御伽噺は身の丈に 春になったら鼠も春になる 鼠どしの義弟お金をよく貯める 平和とは鼠と猫の仲直り レパノンの空気ゆつたり吸う窮鼠

慶子 千代美 宣之 鬼焼 栄香 蘭幸 幸子 敬子 昭紀 弘子 淑子 比呂子 輝恵 笑子 寿子 節生 夢香

誘われたところで花を咲かせます リフレッシュ群れを飛びだし旅に出る 老いたなあ手抜き料理が多くなる 暗黙のうちに家族を許してる 老骨に鞭打ちムラの仕事する ご飯炊く役割がありボケられぬ 終活に満面笑う写真選る チャン付けの幼馴染に見栄はない 薄化粧せめて元氣に見えるよう また会おう口先でした欠にマル 紙コップ愛を注いでおもてなし 定年を待ちあぐねてる村の役 哀しみの日にも鳴りだす腹時計 冬木立くぐり終活セミナーへ ルミナリエ亡母に一度も見せぬまま 取り扱い注意全身賞味切れ 片付けながら脳味噌を整地する

美羽 海希 亜矢 三郎 和代 章子 美恵子 洋子 安子 千恵子 八重 和郎 真帆 みち子 節子 陽子 游子

川柳同友会みらい(鳥取)吉田 陽子報

四歳ちか

四歳ちか

四歳ちか

四歳ちか

四歳ちか

四歳ちか

四歳ちか

四歳ちか

いのち短し軽い車に乗り変える

公 弘

一日も欠かせぬ趣味に辿りつき

雄 太

身の縮む思いコホンと咳ひとつ

理 恵

### はびきの市民川柳会(大阪)徳山みつこ報

傘寿より若く見えます二才程

瑠美子

もちろん行きます行きまます連れてつて

勝 弘

前髪は伸縮自在アデランス

すみれ

よく生きた傘寿すぐそこ見えている

かつ美

言うまでもございませぬねあれ息子

主

伸びた首夜中に縮む月あかり

盛 隆

傘寿の決意一日万歩酒二合

久仁雄

花見会勿論みんな桜です

和 夫

萎縮した心を癒やす温い愛

恭 昌

傘寿すぎ故障なき身感謝する

正義

あなたのこと言うまでもなく好きやねん

優

天国への梯子を少しずつ伸ばす

和 之

お早うと言える相手が居てくれる

ひとみ

酒二合大風呂敷が待つ出番

貫 一

慌てないほちほち溶かす老い上手

光 堂

今朝も出会い互いの健康確める

千鶴子

ポール追う一途眩しいキャンブイン

江 里 子

絶望をほちほち溶かす老い上手

百 合 子

平和だと喜べる朝いつまでも

冬のと

雑踏で孤独の世界たのしんで

たか子

幕尻で優勝してもいいですよ

崇 明

朝の陽へ窓全開の深呼吸

まつお

生きのびる浮世の義理を果たすまで

行 久

世渡りはほちほちそれでも蹴躡く

比呂志

朝練に行く子へ愛のお弁当

美代子

日一日世界無限に広がる子

富 子

ほちほちとあばらや暮らし三世代

史 郎

丁寧と真摯が含む嘘のトゲ

専 平

づぼらやのふぐが待つてる新世界

甚 之 市

暖冬にやつと咲いたか雪の花

三樹夫

はじらいを含んだ色香新成人

フ ジ

その先は神しか知らぬ世界です

す み え

肌の色だけの差別の色メガネ

美千代

眼差しに愁い含ませ夢二の絵

久仁子

男の世界女の世界と言えぬ世に

敬 介

輝く日もうたぶんない冬の星

まみ子

米イラン腹に含んださぐりあい

一 文

音の無い世界十指よく弾む

栄 子

寝ころんで五体満足ありがたい

雅 美

寒の水五臓六腑へ撒飛ばす

ゆみ子

地球儀が世界の旅を誘導す

ふりこ

ややこしい話にメガネ邪魔になり

かつ子

刺含む言葉にあった思いやり

大 子

行きたいなあ世界一周船の旅

賛 郎

川柳あまがさき(兵庫) 大浦

初音報

含みある言葉ゆつくり噛みしめる

泰 子

男見る目は世界一ですボクの妻

のぶし

新ウィルスへボチにもマスク買つてやる

公 子

桜見る会の名簿に含まれず

真

世の中の不正の縮図かもいじめ

萌 子

公園の枯葉ワルツで戯れる

菊 江

時を経て百歳時代令和なり

洋 一

縮む日本大国の夢まだ覚めず

文 聡

ゆつくりとミミス耕す春の土

こみつ

いけずやな含み笑いを返すだけ

ちづる

奈良と聞き勝手に手を縮めてる

展 代

うぐいす嬢相場三萬知らんけど

英 坊

イケメンの中に含まれますか僕

いさお

行動範囲縮んでチラシ見てるだけ

敬 子

山勘でマークシートの答案紙

シルク

意地張って張って縮んだ僕の影

美智子

恵方巻かぶり今年の幸貰う  
 恵方巻き半額で売る残り福  
 故郷へ足を向けては夢を見る  
 甘いのがよかるうと撒く甘納豆  
 小柄です並のお棺でいいですよ  
 ワンチーム妻に言われて風呂掃除  
 笑顔だよ今日も鏡に教えられ  
 高い熟練は知らぬが子はさぼる  
 生命が少し伸びそう手相見る  
 ゆったりとあなたの横でデブになる  
 ゆったりと流れる川に教えられ  
 定年後窓際族の気が分かり  
 オープンの前にカジノは札が飛ぶ  
 豆まいて風新しく入れ替える  
 スキー場雪が降らずに土だらけ  
 土臭き男を洗う都会風  
 居候みみずゲジゲジダンゴ虫  
 いい土だ大草原になってきた  
 冥土の母へ土産話が重くなる  
 立つ春に土竜の唄が聞こえそう  
 こねるほど土はやさしい顔になる  
 土払う姿絵になるスベリコミ  
 くちゆくちゆく孫のうがいはユーモラス  
 盛りあげて子が手を合わす蟬の墓  
 チラチラと母を窺う泥遊び  
 哲学の道でナンパをしてきはる

(高)千賀子  
 和子  
 富夫  
 純  
 新録  
 孝治  
 祐康  
 五月  
 正彦  
 厚江  
 初音  
 (人)修平  
 健二  
 ヨシエ  
 柳明  
 歌留多  
 勝弘  
 紀華  
 りこ  
 哲夫  
 久仁雄  
 耕治  
 満作  
 美籠  
 つな子  
 宏造

才能と言えらるるか子沢山  
 ゆったりとできずにいるかあの世でも  
 信じよう土の匂のする人だ  
 川柳塔唐津(佐賀)  
 仁部 四郎報  
 少し悔い残る高校テニス馬鹿  
 キャッシュレス資本はいくら要りますか  
 21世紀中国インドの風が吹く  
 辣味噌の甕を代々受け継がれ  
 わかやま吟社  
 小谷 小雪報  
 味付けは舌が覚える母の味  
 亡夫の癖今ははっきり覚えてる  
 聞き流すことを覚えてから軽い  
 時どきは記憶が揺らぐ疎ましざ  
 うる覚えばかりで海馬叩かれる  
 覚えは早いすぐに忘れる得意技  
 北風の寒さに耐えて男意気  
 独り居のさむさへ鍋が煮えてくる  
 生きてなお女ひとりの寒い地図  
 しゃべり過ぎ又も反省寒い口  
 いい客でいたい文句こぼさない  
 出番までゲストは欠伸ばばかりする  
 赤ん坊一人で客をおもてなし  
 来賓に見たこともない顔が在る  
 体温で布団温め独り寝る

(谷)修平  
 雅美  
 (竹)千賀子  
 蜂朗  
 四郎  
 高実  
 高明  
 ほのか  
 紀久子  
 知香  
 富美子  
 徑子  
 紀子  
 准一  
 あきこ  
 寿子  
 秀子  
 小雪  
 大輪  
 よしこ  
 日出男  
 愿

南大阪川柳会  
 松岡 篤報  
 晩学の辞書をひもとき煙に巻く  
 次々と煙のように消えた夢  
 解脱して白い煙になる私  
 野菜作り興味を持って楽しんで  
 もしかして百均依存症かしら  
 国訛り聞きたく途中下車の駅  
 税務署が興味示さぬわが資産  
 入門書読んで興味が失せていく  
 ローンクを囲めば浮かぶ絆の輪  
 いい人だったなあと囲むデスマスク  
 一升鍋囲む車座ワンチーム  
 ゴッホ展人は黙して美を囲む  
 孫が来て秘蔵の洋酒空にする  
 今日もまた惜しい惜しいの釣り談義  
 惜しまれて逝くのが死亡適齢期  
 暖冬でさらのコートは掛けたまま  
 世は無情惜しい人から先に逝く  
 マドンナに誘われたけど手持ち無し  
 惜しまれて中村哲は天国へ  
 寂しさは保さんから来ぬ賀状  
 ひと手間をかけた茶の間が丸くなる  
 美しい日本はどこへ賭博場  
 横顔の似ていて慌て目をそらす  
 不都合は黒塗りで出る公文書

弘委智  
 峰子  
 郁夫  
 ルイ子  
 東風  
 ばっは  
 実  
 昌紀  
 敏治  
 あや子  
 篤  
 志華子  
 修  
 柳石子  
 楓楽  
 直子  
 克己  
 勝弘  
 一步  
 ひさ乃  
 柳伸  
 国和  
 弘子  
 俊雄

まあいいかでは済まぬ議員の不良率  
酒くすり交互に飲んで永らえる

ブラザ川柳(大阪)

このへんで自慢話に変わるはず  
買ひ物はずいつい夫の嗜好品  
マタニティマーク気づいて席を譲った子  
教え子が今や校長我が誉れ  
お茶の間を明るく照らす主婦の知恵  
春隣やますそに咲く福寿草  
麻酔から覚めれば妻のいい笑顔  
拉致家族いつ会えるかと叫ぶ海  
強気にも見え隠れする気の弱さ  
離婚より再婚悩むダメ野党  
プレグジツト揺れて身内はメグジツト  
気付かれぬようにグリーンは箱の中  
我が家にも窓際あると今気づく

憲彦  
いさお

正子

和代

清乃

政夫

園子

もとめ

淳司

悦夫

千枝子

修

一彌

弘光

克三

黒兎報

桂子

久子

守啓

信男

郁子

奈津子

一弥

いらいらは背中貼れぬシブ卒業  
いらいらのこころ静める夕茜  
羨まし野に咲く花のマイペース  
おばちゃんが声で席とる梅田駅  
サッチーを追ってボヤキの野村近く  
サッチーと野球を愛し球は天

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤

宏之報

五輝星人気高らか味如何  
自慢では無いと断り自慢する  
家計簿が米を好んでメタボです  
令和二年心身共に動き出す  
イケメンのねずみチヨロチヨロ顔を見せ  
皮までも脱いでみたいなかゆい肌  
災害地届けと入れておく小銭  
天命をわたくしなりに生きつなぐ  
神在月何を願うか人の波  
初競りの一億越えに手も止まる  
悪口を言う時丈は目が光る  
大きな空不平不満を呑み込んだ  
正月に昔は歳もいただいた  
名を忘れ表札見ながら散歩する  
大山の初雪近く降って来た  
暖冬にめつり減った鍋料理  
金メダル目差しスタート干支ねずみ  
詐欺師には気をつけてねと子の年賀

順子  
堅坊  
則彦  
春代  
正子  
黒兎

八尾市民川柳会(大阪)中蘭

清報

米寿来て朝の目覚めで今日も生き  
ドンマイドンマイ投げてしまったフォアボール  
海知らぬするめにもある自尊心  
私の中に埋もれていく時間  
吐く息も昨日と違う寒もどる  
襟立ててのれんの爛を乞う余寒  
するめ裂く思わく通りならぬので  
海風にワルツを踊る鯛たち  
顔を上げ悲劇を喜劇回れ右  
被災地の余寒厳しい青テント  
急がねば会いたい人も老いていく  
とちつたらとちつて還る日の罅  
独酌の贅鱈を舐める箸

川柳大阪

山崎

珠生報

運命線私を待っていたあなた  
くじ運悪く当たってしまったイヤな役  
幸せのクルーズウイルスで地獄  
幸運は健康なので有難い  
運は天に可能な限り飛んでみる  
うれしいな孫の就職我が家にも  
月あかりで見ると余計に恐い顔  
1・17灯りで送る鎮魂歌  
幸せはわたくしを待たせ窓あかり

ゆたか  
千代

耀一

賀世子

寿之

高鷲

みどり

涼子

壽峰

常男

あかり

欣之

芳香

福貴子

朝子

和

(今)万紗子

美世子

まつお

一歩

(田)ゆみ子

難関に挑む深夜の窓明り

夜桜のあかりに集う善と悪

慕情呼ぶ雨に濡れてる街灯り

コロナウイルス出口のあかりいつ見える

あまい物メタボ気にせず食べたいな

ご用心甘い話に罫がある

マッチ擦るその瞬間のワクワクさ

火遊びのマッチ文春が暴く

ミスマッチに見えてとつてもいい夫婦

忘れずにお内裏様を飾らなきゃ

岩美川柳会(鳥取)

山下

節子報

節分祭金毘羅さんへ人が湧く

福は内福が来たかと聞いてみる

婆さんのチヨコ爺さんの仏壇へ

マスクしないとお見せ出来ない素顔です

成人から老人そして廃人へ

マスクして目が十二分物を言う

孫栗立つまでは豆まき絶やすまい

節分は忘れず春を連れて来る

感情の起伏激しくマスクする

成人式の晴れ着が雨に泣いていた

三度目の成人式でちゃんちゃんこ

ホワイトチヨコ買いつめているお父さん

酒タバコ成人式を機に止める

チヨコもらう食べない内に眼が覚めた

志津子

珠生

克己

北賢子

廣子

美籠

昌代

比呂志

堅坊

勝弘

重忠

弘六

一平

一瑤

完司

美恵子

たぬ

菖子

敏子

雅女

真理子

振作

彰夫

千代

鬼は外夫婦向きあい豆を撒く

酒タバコご縁はないが成人病

チヨコあげた名簿は廃棄などしない

成人式「ひげ」をちよっぴり生やしたろ

頼もしく見えるスーツの息子です

丸くなるう丸くなるうと努力中

ひとりずつ抜けて孤高のコップ酒

抱きしめて下さいいふるえ止ります

言いかけて途中でやめるいやなヤツ

好きな日に逝けるものなら西行忌

幕尻の優勝額が飾られる

ふるえる手握り離さぬケアの部屋

落ちてなおふるえる程の楳の朱

今朝も又元気をもらう冬薔薇

私に言いますかなあぬけけと

願い事多くて消えた流れ星

蓋をしてまた繰り返す治療ミス

本心をはがすキヤベツの葉のように

会えないと分かっているもハートチヨコ

句読点打ち直して道半ば

咳一つしてもみんなの目が光る

途中下車そんな男の秘密基地

胸を張り出来ちゃった婚ですと言う

新記録大騒ぎです羽生くん

凱柳

茶子

幸安

蟹郎

節子

光久

武彦

靖夫

富次

りこ

和宏

健彦

いわゑ

(編)弘子

(満)弘子

利子

洋次郎

野鶴

千代美

千賀子

昭九朗

敏夫

一徳

敦子

肥えているのに線が細いと言われている

任せたと言いついでも口挟む

今はただぼんやり空を見えています

花びらがふるえて春が開きます

しあわせな老女演じる途中下車

空咳に皆の視線が痛すぎる

後悔の記録のノート忘れたい

長電話そろそろ妻に椅子がいる

途中下車行きたくないの終着駅

丸暗記途中からでは言いにくい

すき焼きの肉ぐつぐつと震えたり

ほんやりと過す幸せ途中下車

ふるえながらも屋台で啜る夜泣きそば

選手より僕がふるえる最終回

復活祭土の裂目に萌える春

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

節電で体験しよう星明り

あれこれと子の心配をする母性

変な夢みて妻の寝息を確める

アスリートキラキラ照準は五輪

年かさね終の住処をさがしてる

脳味噌が化石になってゆく気配

冬枯れの蕾ふくらむ春気配

青い星あ人間にいじめられ

ヤブ椿雪降る庭に赤く咲く

勝弘

翔

ひとみ

哲子

紀華

宣子

正彦

宏造

邦男

新録

伯備

弘委智

野薫

忠男

真桜子

(立)郁子

朝子

鈍甲

満知子

(田)廣子

堅坊

弘子

直子

万作

子の星よなんで私が後になる  
藪椿生きていくとはこのような

この星にもう要りません核の数  
言い訳は嫌ださつさと謝ろう

あれこれの疑惑迎れば安倍夫妻  
さまざまな支えに感謝する命

あの星が母なら追つてゆくものを  
超新星令和生れの初曾孫

生ゴミの中で椿の愚痴を聞く  
探梅の園にほのぼの春日和

あれこれ通じる夫婦五十年  
暗闇の星の一つと師を仰ぐ

ズンドコはおばちゃんの星きよし様  
お茶室に乙女椿が楚楚として

安倍さんの泥船しむ気配あり  
くしゃみ三つ春の気配とコロナ菌

マンガの子お目目に星がありました  
あれこれと隅から隅へ面倒見

カラオケで十八番は雪椿  
月明り負けぬ明かりで光る星

燃えている椿とキミのチョコレート  
気合充分時間前でも立つ気配

腐つても鯛でありたい安倍総理  
張り手して勝ち星ですかご無体な

星空を担いで帰る塾カバン  
床の間に椿一輪客を待つ

克己

紀乃

一志

太夫

小恵美子

一步

みつ江

高鷲

壽峰

清

哲夫

己智子

忍

五二

敏治

博美

武

優子

和

六甲川柳会(兵庫)

奥澤洋次郎報

いい笑顔永久保存しておこう  
ブタ鏡が街の復興見つめてる

病む夫に歩幅合わせる散歩道  
ときは激辛カレーで惚け防止

はやる心宥めて一人写経する  
大きいと用をなさない落し蓋

傷口に塩振る友の容赦なし  
手洗いうがいママの叫びは武漢まで

ウィルスにマスク取られた花粉症  
お下りのサイズが僕のサイズです

脚腰をなだめなだめて老いの坂  
温暖化地球は何も困らない

肥えたかなベルト無しでも留つてる  
なだめても聞かぬ人だよトランプは

叱責の激しさ心ノ一天気  
泣きやまぬ子供なだめる母の笑み

雨音の激しく避難せよと降る  
激情を孤独なゴッホひまわりに

見え見えの答弁口裏合せ済み  
白酒で目元真っ赤に尉と姥

老いらくの恋はゆつくり純になる  
ドラマにはならぬ幸せそれでいい

梅の香がやんわり冬を押し返す  
激走は出来ぬが歩幅乱れない

積み重ね努力は夢の形して

川柳花の輪(大阪)

岡本

薫報

たらふくに食べて今い言にくい  
温暖化啓蟄まだずはい出した

五味わかる舌のセンサー老化する  
色褪せた短冊父の自慢の句

妻の良さ気付かぬとこに隠し味  
書道展みそひと文字の読めない字

願いごとあまり多すぎへタル笹  
明日は散る花に湧き水掛けてやる

噛み締めて何くそ勝つぞ剛気湧く  
ライバルの笑みに挑戦湧いてくる

暖冬でわけのわからぬ虫が湧く  
人情が湧いてた路地に戸が閉まる

接戦になるほど血の気湧いて立ち  
うじ虫が湧いてきれいな骨になる

税金を厳しく集め無駄遣い  
違つてよし集めた意見人間味

恥ばかり集めた捨てて軽くなる  
デンジャラスゾーンは意思を持つ拳

意思疎通出来ぬカラスがしゃしゃり出る  
正直に意思表示して悔い残す

着膨れの意思計量器のせられる  
着膨れの意思計量器のせられる

敏夫

笑子

やすの

信子

みちる

亜成

泰子

薫

柳歩報

弘充

芳枝

桂子

ゆき

雪代

あきら

七七

みちを

米估

柳歩

すり鉢の中で碎けるゴマの意思  
意思固い人に急用頼みます

德利  
久絵

振り返る首が廻らぬうしろまで  
二十代勤め勉学両輪で

けいこ  
明友

去るものは日日疎くなる世の習い  
去る人の分まで生きる余命率

八千代  
雅明

Bの意思計りかねてるAとO  
うっかりと逃げる非常口は遠い

瑞人  
美智子

下手な文字筆が悪いと言っておく  
達筆な君の仮名文字意味不明

萩江  
由紀子

飛び石も恋の小道具だった頃  
焼け石に水は承知で義捐金

五月  
妙子

うっかりを潔癖症は見逃さず  
大丈夫コンロも進化自動式

青帆  
禮子

万葉がな読めず頷く展示会  
死の文字がウロチョロチョロとお邪魔虫

風露  
宣子

結石封じ友の処分はビールやて  
今の子はちよつと叱ると石になる

廣子  
清

うっかりと出した言葉にカギできず  
なめくじに砂糖なめくじ猛ダツシユ

静枝  
モナカ

パソコンの文字は相手を読みきれぬ  
此の文字を辿った先は母の声

茂夫  
祐子

ほほえみと指であれこれ語る手話  
あれこれと人も肴にする酒場

完司  
雄大

大仏の声が世界に届かない  
冬が来た今も天から声がする

熊四郎  
知恵子

初対面身元調べの好きな人  
胃カメラをすんなり飲まず抱き枕

大鯨  
隆昌

宝石は要らぬ長生き頼んでる  
退職日妻がニッコリ離縁状

宏造  
さくら

痛いとこひとつも無いが認知症  
議事堂の痛いとこに絆創膏

石花菜  
麦青

あれこれと考えないで眠りましょ  
九条であつて戦後の平和あり

玲彦  
照彦

飼い猫が戻らぬままに冬の窓  
去り際にたまらずついに出了た本音

志津子  
唯教

痛いとこ突かれ答弁無茶苦茶だ  
痛いがな踏みつけているハイヒール

智恵子  
重忠

今頃に感謝の極み父と母  
去ることを今か今かと胸に秘め

照彦  
舞夢

ふるさとを捨てた思い出まで捨てた  
振り出しに戻る男だ風と去る

としお  
進

痛い箇所増える令和に付き合つて  
不意にくるぎっくり腰は敵である

龍枝  
恭子

艶のある喉聞く父のアイヤ節  
暮じまいにそうかそうかと喉仏

みつこ  
勝弘

君となら確かめ合える未来地図  
キスマークたんと付けられ身が持たぬ

ばっは  
禮子

生きる為我慢を食べたあの時を  
振り返つても風が吹いているだけだ

日出子  
鬼一

いい喉だむかし若い子泣かせたな  
去つてから気付く幸せの残滓

憲彦  
蕉子

聞いたふうただの話に皆のせる  
君の度胸が試されている水たまり

敬子  
ゆみ子

この村を一本松が振り返る  
大手衛生き返れた日振り返る

次男  
紀美恵

去るものは追わずと決めて瘦せ我慢  
友よ待てせめて一句を吐いて逝け

満知子  
和夫

緊急をただただ隠し見ない振り  
危機の国助けた医師は身も捧げ

世紀子  
憲

二才から母亡きあとを振り返る  
七十余年平和な日本振り返る

幸子  
醉芙蓉

友よ待てせめて一句を吐いて逝け  
光雄

富夫  
光雄

奇麗でも高嶺の花は実らない

時雄

倉吉川柳会(鳥取) 竹信 照彦報

川柳塔さかい(大阪) 内藤 憲彦報

取り巻きが去った脱落者の悲哀

玄也

かのほのと方言で道教えられ

岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報

頑固だと言われながらも好きは好きかおる

返事の声元気を計るパロメーター

しげ子

票稼ぎ桜を出汁にする総理

いやいやは口に出さずに目で合図

雲水

泡吹いて蟹も言い分あるらしい

欠席と出した返事に自己嫌悪

律雄

記念樹よ伸びよ頑固に強靱に

「違者でお出なせ」と母のいい返事

いさお

大好きと申告されて嫁にした

OKの返事は固く手を握る

義泰

出し殻になりたくないと思恵を出す

切なくて別れの文に滲む文字

洋二

窓際族上司のお告げ遅い春

お見合で釣書交換文字踊る

たか子

出汁染みた大根喰って酒呷る

角ばった字だが心は丸い人

日出男

出汁さえも取れない僕という芥

文字までが浮き浮きしてる旅便り

珠子

恋心申告できず気もそぞろ

下手な字を金釘流と自己評価

香代

母が逝きブツブツ小言も共に消え

名無しでも無くて七癖字で判じ

隆雄

領収書捜して還付期待する

ふるりの記憶ほのほの筒井筒

俊雄

頑固さがなぜ似てしまうこの浮世

絵手紙の一筆添えにほのほのと

輝子

申告はしたが納めるものがない

嫁の味替めで家族がほのほのと

和美

君が代にまだ反骨の頑固者

久し振りのラビートほのほのと景色

信子

一人だけブツブツばやき汽車に乗る

ひろ子

茶子報

宏章

孝子

孔美子

文道

草文

照彦

一平

正昭

盛桜

ゆたか

綾子

ゆり子

好幸

小鹿

弘子

頑固だと言われながらも好きは好きかおる

土の中ブツブツ聞こえる春の貯め

還付金一日かけてワンコイン

ブツブツという前にほら動くので

長柳会(大阪) 辻村 ヒロ報

若ぶるが背中に老いが隠れてる

喫煙室まずは塗りますや二色に

誕生日手作りおこわ母の味

この道に自問自答で現在のわれ

ふと気づくもう手遅れか鏡見て

喝采浴びて先頭走る心地よさ

わがゴルフ年が明けても除夜の鐘

想像の上のしゆく事件多々

気がつかず背を向け散った赤い花

果ててなお椿は赤で自己主張

アフガンで必要とされ星となり

文明もニューウイリスもチャイナ発

かおる

英子

恒

みゆき

ヒロ

秀子

洋二

千代

由子

敬二

隆明

一男

靖博

直樹

旅人

淳司

ともこ

弘美

ゆき

孝

光弘

ふみ

正博

孝代

規子子

恭子

英夫

恵子

信二

政雄

ダン吉

喜代志

和美

信子

ひろ子

茶子報

宏章

孝子

孔美子

文道

草文

照彦

一平

正昭

盛桜

ゆたか

綾子

ゆり子

好幸

小鹿

弘子

頑固だと言われながらも好きは好きかおる

土の中ブツブツ聞こえる春の貯め

還付金一日かけてワンコイン

ブツブツという前にほら動くので

長柳会(大阪) 辻村 ヒロ報

若ぶるが背中に老いが隠れてる

喫煙室まずは塗りますや二色に

誕生日手作りおこわ母の味

この道に自問自答で現在のわれ

ふと気づくもう手遅れか鏡見て

喝采浴びて先頭走る心地よさ

わがゴルフ年が明けても除夜の鐘

想像の上のしゆく事件多々

気がつかず背を向け散った赤い花

果ててなお椿は赤で自己主張

アフガンで必要とされ星となり

文明もニューウイリスもチャイナ発

かおる

英子

恒

みゆき

ヒロ

秀子

洋二

千代

由子

敬二

隆明

一男

靖博

直樹

旅人

淳司

ともこ

弘美

ゆき

孝

光弘

ふみ

正博

孝代

規子子

恭子

英夫

恵子

信二

政雄

ダン吉

喜代志

和美

信子

ひろ子

茶子報

宏章

孝子

孔美子

文道

草文

照彦

一平

正昭

盛桜

ゆたか

綾子

ゆり子

好幸

小鹿

弘子

頑固だと言われながらも好きは好きかおる

土の中ブツブツ聞こえる春の貯め

還付金一日かけてワンコイン

ブツブツという前にほら動くので

長柳会(大阪) 辻村 ヒロ報

若ぶるが背中に老いが隠れてる

喫煙室まずは塗りますや二色に

誕生日手作りおこわ母の味

この道に自問自答で現在のわれ

ふと気づくもう手遅れか鏡見て

喝采浴びて先頭走る心地よさ

わがゴルフ年が明けても除夜の鐘

想像の上のしゆく事件多々

気がつかず背を向け散った赤い花

果ててなお椿は赤で自己主張

アフガンで必要とされ星となり

文明もニューウイリスもチャイナ発

かおる

英子

恒

みゆき

ヒロ

秀子

洋二

千代

由子

敬二

隆明

一男

靖博

直樹

旅人

淳司

ともこ

弘美

ゆき

孝

光弘

ふみ

正博

孝代

規子子

恭子

英夫

恵子

信二

政雄

ダン吉

喜代志

和美

信子

ひろ子

茶子報

宏章

孝子

孔美子

文道

草文

照彦

一平

正昭

盛桜

ゆたか

綾子

ゆり子

好幸

小鹿

弘子

頑固だと言われながらも好きは好きかおる

土の中ブツブツ聞こえる春の貯め

還付金一日かけてワンコイン

ブツブツという前にほら動くので

長柳会(大阪) 辻村 ヒロ報

若ぶるが背中に老いが隠れてる

喫煙室まずは塗りますや二色に

誕生日手作りおこわ母の味

この道に自問自答で現在のわれ

ふと気づくもう手遅れか鏡見て

喝采浴びて先頭走る心地よさ

わがゴルフ年が明けても除夜の鐘

想像の上のしゆく事件多々

気がつかず背を向け散った赤い花

果ててなお椿は赤で自己主張

アフガンで必要とされ星となり

文明もニューウイリスもチャイナ発

かおる

英子

恒

みゆき

ヒロ

秀子

洋二

千代

由子

敬二

隆明

一男

靖博

直樹

旅人

淳司

ともこ

弘美

ゆき

孝

光弘

ふみ

正博

孝代

規子子

恭子

英夫

恵子

信二

政雄

ダン吉

喜代志

家族皆ティッシュ抱えて花粉症  
 家族の愛知らずに育つ子守歌  
 犬猫が居てこそ和むワン家族  
 ポチとタマに家族手当では出ませんか  
 認知症母のへそくり眠ってる

川柳藤井寺(大阪) 太田扶美代報

病院のベットで遺言を書いている  
 時代遅れらしいジイジのアドバイス  
 きょうも元気にさあ病院へ行こう  
 どないして建てたボツンと一軒家  
 アドバイス後はわたしの独り言  
 病院の廊下で過去の僕と会う  
 建物と言えるかどうか青テント  
 麻酔から覚めると妻の顔ふたつ  
 後悔へ塩をすりこむアドバイス  
 加齢ですわかつています脳年齢  
 新生児すらり並んだ保育室  
 かつこいい生き方そつと教えます  
 病院でバツタリ会った恋がたき  
 先生は患者見るの命がけ  
 アドバイス有りたいけどすぐ忘れ  
 過疎の島ボツンとひとつ診療所  
 ハルカスより通天閣が肌に合う  
 仮設にも約束通り花は咲く  
 青写真出来ているのに金がない

登美子 和子 隆彦 正美 たけし  
 寂子 かずお みつこ まつお 扶美代 久仁雄 いさお 瑠美子 六点 絹子 正義 正義 高 驚 喜代子 シルク 清 フジ子 信二 光男

新建ちの木の香が匂うマイホーム  
 林立のビルの谷間にある孤独  
 ハムスターにもかかりつけ医がちゃんといふ  
 ネクタイは店員さんのおすすめで  
 歴史ある建物守る匠技

川柳さんだ(兵庫) 富永 恭子報

定年で花束抱いて終電車  
 プーケットスがっちり受けてつぎ私  
 花言葉そえて楽屋に贈る僕  
 愛用の眼鏡の笑顔仏壇に  
 履き心地一番良いは捨てる前  
 愛用の万年筆は手に馴染む  
 薄味にしたのか料理ヘタなのか  
 薄板は薄いまんまのうちのひと  
 検診へお湯割りちよつと薄くする  
 薄いけど源氏の血筋引く気品  
 胸板は薄いまんまのうちのひと  
 頭脳線日に日に薄くなっていく  
 ソプラノが部屋の空気を薄くする  
 春を待つ野焼き始まる薄けむり  
 そろそろかもオーラが薄くなってきた  
 マネキンの薄着一足早い春  
 長生きも長生き税がかかるらし  
 抱きしめて軽さにうるむ冬銀河  
 地元には手厚いケアをする首相  
 ありがとう誰と分らず世話を受け

芳子 壽峰 一歩 キーキー 祐康 ゆかり 真桜子 美智子 徹 千賀子 耕治 正和 健彦 ひとみ 廣光 修平 ヨシエ 千代美 哲男 哲夫 優子 万彩 宣子

妻も子も捨てた夫を今介護  
 相づちが上手い床屋でケアされる  
 ルビ振られ漢字泣いてる子の名前  
 相づちを打つたび迷い溶ける素顔  
 バレンタイン迷ったあげく自分チョコ  
 迷ったら坊ちゃんですねと声かける  
 ショッピング迷うからこそ楽しいの  
 迷うとも前へと母のアドバイス  
 迷ったら足元みろと父の声  
 迷うのも生きてるしるし深呼吸  
 目くじらを立てると狭くなる世間  
 そやかてなおらへんかったあんたしか  
 風邪ひいたすぐに医者行け出社すな  
 目の前の男で事が足りぬとは  
 マスクには単なる風邪と書いてかけ  
 手になじむ花鋏にもある寿命

豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報

好き嫌いなく育てと母のみじん切り  
 あいまいのままにするのも人の知恵  
 秒針を刻んで恥が止まらない  
 同窓会焦がれた人を探せない  
 酎ハイがひと缶あれば出るパワー  
 キャンプからパワー全開二刀流  
 小さき手にパワー秘めてる新生児  
 焦げついた心笑点解きほぐす

加代子 健二 紀恵 弘 おさむ つな子 雄太郎 美籠 一子 堅坊 野薫 寅男 富夫 晃 雅尚 恭子

焦土だったと思えぬ神戸の底力  
やる気負けん気あるから焦らない歩幅  
人も樹も生きた証の輪を刻む

時子

しん型コロナこんなやさしい名の悪魔

歌留多

約束の木に約束の花サクラ咲く

玲子

木簡の文字は歴史を刻み込む

正明

ネジ巻かれパワーもらった古時計

敏昭

趣味三味パワーアップでのめり込む

忠子

古日記憶の力試される

弘委智

生きてきた苦勞は顔に刻まれる

美智代

恋刻んだこの胸も今ベチャバイに

玲子

古時計がやっと引退して静か

見清

ご立腹らしい靴音響かせる

美籠

年輪を刻んで大樹神となる

千鶴子

挫けずに古木も芽吹く春隣

正彦

いよいよ春みどりほのかにふきのとう

黒兎

交渉を成立させたのは無口  
私ほど高品質な妻いない  
後期高齢品質保証しかねます

大子

フッ化水素日本の技術真似できぬ

弘美

5年保証できかねますと顔の皺

恭昌

手にすると何とも言えぬ重みあり

行久

ウイルスのパワーは後手を踏むヒト科

眞澄

午前中にパワーは切れて昼寝する

和夫

見るたびにパワーアップをしてる孫

満作

女子会のパワー笑う喋る食べる

義

パワハラに達した安倍総理

宣子

八十路みてパワーつけると励む古稀

すみ子

住民パワー除夜の鐘撞かせない

蕉子

秒読みになると女に出る度胸

げんえい

冬枯れに凜と椿の紅のいろ

楓楽

逆らわずただ蕩蕩と母の河

桃花

ゴミの日に百科事典が出してある  
哲学の道でアイスを食べて来た  
反日は何故起こるのかなんで本

石花菜

温室の好きなイチゴを冷蔵庫

小鹿

止まり木が用意してある散歩道

照彦

この道は誰の足跡にも合わぬ

くにこ

懐かしい言葉になった御政道

紀の治

金次郎に負けないうぐらい本を読む

余光

悔やんでも後の祭りの必着日

八千代

我が家へと続く世界の道すべて

ゆたか

寄り道の数だけ男太くなる

正人

8020あとの祭りの歯を磨く

雄大

春節のコロナが道を塞ぎだす

幸子

女みこし胸の晒が眩しすぎ

風露

温暖化南極の水が溶ける

由紀子

DNAたどって遍路道を行く

けいこ

富隆

麦青

隆昌

正男

道唱

重忠

久子

清明

コスモス

規雄

完司

翠洋会(大阪)

大久保眞澄報

大山滝句座(鳥取)

新家 完司報

交代を教えてくれている桜

交わりの長さを保つ温かさ

交際もメール友達怖い道

敬子

ふりこ

善之

答のない一本道をまっしぐら

お祭りが去って佻しいキリギリス

何となく亡父が居そうなたんぼ道

寿代

みちを

盛桜

砂浜に温かい文字が描かれた

祭りに来る男喜び嫁しんど

酔っているときのこの世は温かい

清明

コスモス

規雄

# 第26回 川柳塔まつり

と き 2020年(令和2年)10月3日(土)

開場：午前11時 出句締切：正午 開会：午後1時

ところ ホテル アウィーナ大阪 4階 金剛の間

大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12 (近鉄上本町・地下鉄谷町九丁目下車) 電話 06-6772-1441

《同人総会・議事》午前10時より

2019年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告

2020年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

《各賞表彰式・記念句会》

表彰式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞

おはなし「光を失って手にした五七五」

RP-net 川柳会「もやい傘」代表 山本 進 氏

兼 題 「プライド」 川柳塔社 栃尾 奏子 選

「しっかり」 川柳塔社 鈴木 いさお 選

「織る」 川柳塔社 永見 心咲 選

「元 氣」 川柳塔社 竹村 紀の治 選

「混ぜる」 番傘川柳本社 西 美和子 選

事前投句 「扉」(8月31日必着) 川柳塔社 主幹 小島 蘭 幸 選

◎各題2句・勝手ながら欠席投句は拝辞させていただきます

出句締切 正 午 (午後5時頃終了予定) ※各題の「天」位に賞呈

◎会 費 2,000円 (当日頂きます) ご昼食は各自でお済ませください

◎ 呈 記念品

《懇 親 宴》

と き 令和2年10月3日(土) 午後5時～7時

ところ ホテル アウィーナ大阪 3階 葛城の間

☆会 費 7,000円 先着申込み 130名様

\* 事前投句および懇親宴のお申込はチラシに刷りこみのハガキ(ご希望の方は事務所)にて  
8月31日(月)までに本社事務所宛、お送りください。

\* 懇親宴のご送金(句会費除く)は同封の振込用紙でお願い致します。

主催 川 柳 塔 社

大阪市天王寺区大道1丁目14-17-201  
〒543-0052 ☎・FAX 06-6779-3490  
振替 00980-4-298479

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳 あまがさき	14日(火) 14時締切 折る・風・きっかけ・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳 たちばな	15日(水) 13時45分締切 席題・びちびち・乱れる 自由吟	立花北生涯学習プラザ(尼崎市塚口町3-39-7) 06-6422-6741 阪急塚口駅北へ10分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
南大阪 川柳会	18日(土) 13時30分締切 達者・せかす・しっくり・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1124 高槻市南芥川町9-28-901 松岡 篤
岸和田 川柳会	18日(土) 吟行句会「岸和田城」 囀目吟・音・若い	集合場所 南海岸和田駅前 時間 9時45分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
川柳塔 みちのく	18日(土) 17時締切 暇・行列・砂	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」TEL0172-32-2591 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川柳 ねやがわ	19日(日) 14時締切 席題・言い訳・暖かい 当る・自由吟	寝屋川市民会館 京阪寝屋川市駅から徒歩15分 または京阪バス市民会館前下車 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉
川柳 藤井寺	19日(日) 14時締切 ツーショット・けちる 席題共選	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
豊中 もくせい 川柳会	20日(月) 13時50分締切 明日・弾む・さりり・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳 さんだ	21日(火) 13時30分締切 合格・へとへと・グランプ 踏む・自由吟	キッピーモール 6F (JR三田駅前) 〒669-1545 三田市狭間が丘5-10-19 谷 祐康
川柳塔 すみよし	25日(土) 14時15分締切 公園・包む・初々しい	住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和歌山 三幸川 柳会	25日(土) 13時15分締切 桜・浅い・パス	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市川柳 民会	26日(日) 14時締切 池・縫う・ほんのり・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 吟社	26日(日) 13時から 自由吟・押す・的中・居直る 席題	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所(06-6779-3490)へご連絡ください。

## 4 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句会名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
川柳塔 な	中止・投句締切ました。	奈良市中部公民館 4F 奈良市上三条23-4 近鉄「奈良」駅④番出口 徒歩5分 〒633-0054 桜井市阿部787 安土理恵
城北会 川柳会	4日(土)14時締切 美しい・そと・仕草・自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳 とんだばやし 富柳会	4日(土)14時締切 黄・すんなり	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0064 富田林市不動ヶ丘8-31 山野寿之
倉吉会 川柳会	4日(土)14時締切 きりきり・斜交い(はすかい) 考える・席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川柳塔 まつ 吟社	4日(土)13時30分締切 草・喧嘩:ケンカ ころり:コロリ・叫ぶ	松江市雑賀公民館 〒690-1223 松江市美保岡町釜浦222-1 相見柳歩
あかつき 川柳会	10日(金)14時締切 なかなか・袋・出番・時事吟	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
川柳大阪	11日(土)14時締切 ほどほど・途中・風	メトロ・長堀鶴見緑地線 京橋駅「研修室」 〒534-0021 大阪市都島区都島本通4-11-6 山崎珠生
六甲会 川柳会	11日(土)14時締切 席題・数・どンドン・増える 自由吟	六甲道勤労市民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
川柳塔 打吹	11日(土)13時30分締切 靴・ひらめく・うきうき・席題	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
八尾市民 川柳会	12日(日)14時締切 早春・ちゃっかり・聞く・ 雑詠	八尾市安中町3-5-1 洪川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
川柳塔 わかやま 吟社	12日(土)14時10分締切 兼題=誘う・緑・レシート 課題吟=心	和歌山商工会議所 4階 和歌山市西汀丁36 兼題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪町東2-208-5 楽原道夫
西宮北口 川柳会	13日(月)14時締切 忘れる・なりふり・深い・自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦
ほたる 川柳 同好会	14日(火)13時30分締切 骨・受ける・印象吟	豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒鬼
川柳塔 さかい	投句句会14日(火)締切 特別課題:あくせく・入学・騙す 折句:な・る・こ	〒599-8103 堺市東区菩提町5-171 矢倉五月

# 柳界展望

の木本朱夏さんが入賞。  
愛国も憐寸も死語に青  
蜜柑

★「第60回伍健まつり川柳大会」。同人成績。

★「井笠川柳会第20回笠岡大会」が参加者300人で開催。同人成績。

天位 丹下 凱夫

奈落まで一緒に散ってゆくさくら

★「第4回川柳木馬大会」は、参加者74名高知県立県民文化ホールで開催。

同人成績。

秀吟 平井美智子

蓋取れば母が笑っている花野

★「第17回（令和元年）高根県民文化祭」。同人成績。

金賞

菅田かつ子  
ファイトファイト八十  
才のスケジュール

★「第35回富澤赤黄男顕彰俳句大会」は、2624口の応募で開催。同人

次回常任理事会 5月7日（日）AM10時

▽新誌友紹介△

大阪市 阪本 秀子

三田市 澤井 敏治

三田市 木村マユミ

北野 哲男

近藤 風羅

高杉 力

松田蟻日路

高杉 力

小林 金剛

前田 広幸

仁部 四郎

紹介者

唐津市 紹介者

の木本朱夏さんが入賞。  
愛国も憐寸も死語に青  
蜜柑

★「第60回伍健まつり川柳大会」。同人成績。

愛媛新聞社賞

柳田かおる  
二重ロック破りわたし  
の広い海

▽お詫びと訂正△  
○3月号、P87上段1行  
目、太田扶美代↓藤田武  
人。

▽新誌友紹介△

大阪市 阪本 秀子

三田市 澤井 敏治

三田市 木村マユミ

北野 哲男

近藤 風羅

高杉 力

松田蟻日路

高杉 力  
小林 金剛  
前田 広幸  
仁部 四郎  
紹介者

唐津市 紹介者

次回常任理事会 5月7日（日）AM10時

## 井笠川柳会 第21回笠岡大会

とき 5月23日（土）開場9時00分  
開会 午後1時 締切 午前11時30分  
ところ 笠岡市保健センター（ギャラクシーホール）

### 課題と選者

◎第一部 事前投句「新聞」（2句）  
3選者による共選  
部 帆子選・高杉究作選・光延憲司選  
天位の中から1名に市長賞として句碑を贈呈。所定の用紙または便箋に2句併記のうえ、住所・氏名・電話・所属柳社明記。投句料1000円と共に4月28日必着。

投句先 〒714-0081  
笠岡市笠岡2289 井笠川柳会 宛  
TEL-FAX 0865-62-6200

◎第二部 当日投句（各題2句）  
「弱点」 矢沢 和女 選  
「プレーキ」 宮本 喜明 選  
「魔女」 新家 完司 選  
「校歌」 小島 蘭幸 選  
当日席題（1句） 高木 勇三 選

当日参加料 2000円（弁当・発表誌呈）  
欠席投句拝辞  
主催 井笠川柳会

## 第19回 宿場町やかげ川柳大会

とき 5月16日（土）開場 9:00  
投句締切 11:30 開会 13:00  
ところ 矢掛町農村環境改善センター（大ホール）  
岡山県小田郡矢掛町矢掛 3016-1  
TEL 0866-82-0848  
矢掛町役場南側・井原線矢掛駅より南西へ徒歩5分

会費 2000円（記念誌・参加賞・お弁当）  
※ご祝儀拝辞

### 兼題と選者

「粋」	東横ますみ	選
「浸る」	船越 洋行	選
「風」	柴田夕起子	選
「芯」	菊元 誠忠	選
「果実」	長島 敏子	選
「髭」	新家 完司	選
席題「当日発表」	紫 しめの	選

出句 各題2句  
欠席投句締切 4月30日（木）  
欠席投句の方は、投句用紙またはA4程度の用紙に各題2句と、郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記の上、投句料（1000円／定額小為替）を添えて下記宛にお送りください

投句先 〒714-1212  
岡山県小田郡矢掛町横谷1628-1  
紫しめの 宛  
問合せ先 紫しめの TEL 090-7136-8807  
田中 恵 TEL 0866-82-1256  
主催 矢掛川柳会

「咲くやこの花賞」 題と選者

途中参加歓迎・参加費二〇〇〇円

第1回 「鳥」	森中恵美子選 済み
第2回 「振る」	菅沼 匠選 済み
第3回 「表情」	西 恵美子選 4月20日必着
第4回 「わめく」	中野 六助選 5月20日必着
第5回 「死語」	前年度優勝者選 6月20日必着
第6回 「しかるべく」	笠嶋恵美子選 7月20日必着
第7回 「悪友」	井上 一箇選 8月20日必着
第8回 「こっそり」	樋口由紀子選 9月20日必着
第9回 「関係」	新家 完司選 10月20日必着
第10回 「遊具」	赤松ますみ選 11月20日必着
第11回 「干す」	天根 夢草選 12月20日必着
第12回 「贅沢」	小島 蘭幸選 1月20日必着

問合せ TEL・FAX 072-953-8700

川柳「瓦版」

句会 燦 燦

二月句会を読む 板垣孝志

必要とされぬところが朽ちてゆく 平井美智子  
やたらと元気な老人は周囲を困らせる。流れに任せあるが  
ままに

半眼の阿弥陀菩薩に吸い込まれ 古今堂蕉子  
悪人をも浄土へは方便。半分は目に留まらぬよって地獄行  
き

手の届くところに水がある安堵 柿花 和夫  
充分な水と食べ物があれば戦争は起こらない。(故・中村哲)

細い目でウインクしても分らない 木嶋 盛隆  
山田洋二監督は寅さんにウインクをさせた、相手はリリー  
さん

昼行灯と言われ世渡りが上手い 島田 握夢  
釣銭が多すぎても気づかないフリが出来れば一丁前

赤ちゃんに風柔らかい昼のバス 小川賀世子  
ゆったりと座れる昼のバス、赤ちゃんの笑顔に車内がほこ  
るぶ

酒は飲むゆとりあろうがなからうが 大西 将文  
大酒を飲んでコロッと行けばお前も嬉しかろうなどと言う

わたくしのなれの果てです掃除口 山本希久子  
不本意ながら掃除が主要な仕事 自虐的哀愁が漂う句

愛憎の果ては他人の顔で会う 原田すみ子  
霊長類だけが持つ憎しみ、そして昇華という術も知っている

銀行が盗んだような低金利 内藤 憲彦  
銀行側になれば、預つてやる。その分の管理費も戴きたい

万引きをした割引の寿司ひとつ 居谷真理子  
切羽詰まったの万引なのだろう、割引シールに残る良心が  
哀れ

その日までわたくしなりの機を織る 山岡富美子  
馬と鹿は死ぬまで走るとか 職人の気概もまた同じ

# 編集後記

★四季浄土花は歌うて鳥  
匂う  
薫風

★「ウイルスに対する戦争」とはテレビのコメンテーターの言葉。新型コロナウィルスが世界中を恐怖に陥れている。学校が休校となり、各種イベントが中止や延期に追い込まれた。本社3月旬会も中止の憂き目を見た。東京五輪の開催も危ぶまれる事態は国難である。マスクや消毒液が店頭から消え、マスク転売禁止の法案もできた。川柳仲間から「大阪へよく出掛ける朱夏さんには必要でしょう」とマスクをたくさん送られた。川柳の絆の有り難さに胸が熱くなった。

★2003年から2004年にかけてのサーズ騒動の時、私は北京のツアーに参加していた。北京では全くサーズは問題になってい

なかったが、行く先々の強烈な消毒薬の臭いには辟易。その背景にサーズが潜んでいたとは知る由もない。当時の中国は情報開示を全くしなかった。後に判ったことはその時、外国人が一人亡くなられていたのだった。帰りの空港でのチェックは厳しかったが、無事帰宅した私にぶつけられた言葉は「近寄らないで」「お土産も持って来ないで」には参った。

★以後塾居閉門の一ヶ月だった。その時は「ずいぶん言われようだわ」と面白くなかったが、現在のコロナの報道をみて「さもありなん」と納得。豪華客船での夢のように楽しい日々が、地獄のツアーになるうとは悪魔のシナリオであったのか。サーズのとき、運が悪かったら私にも災難が降りかかっていたであろう。

★3月12日、WHO（世界保健機構）はパンデミックを宣言。春はセンバツから。そのセンバツが中止、と選評がビッシリ詰まっています。

## ひとこと

### 路郎先生のこと

敬愛する麻生路郎先生のことを思い出すままに筆をとりました。先生は私の経営する「理容男まえ」を気に入られたのか、長年通って下さいました。店は環状線寺田町駅南口を南へ100メートルのところ、とても便利に往復出来ました。調髪後に、ウイスキー入りの紅茶を喜ばれ、ジョークを交えた雑談を煙草を吸いながら楽しませました。当時川柳に興味のなかった私はどんなお話であったか覚えていないのが残念です。

金沢からの帰りには胡桃のお菓子をつたびたび戴いたことも。また大阪難波蓬萊（現在の551）の社長さんに頼まれて、社員教育にもたびたび行かれたそうです。「礼儀正しく素直な若い社員さんばかりで楽しい」とも仰っておられました。先生の訃報を知ったとき、「川柳雑誌」から先生の偉大さ、素晴らしさに触れて私も五七五を考えるようになりました。路郎先生ご存命の折りに、川柳に馴染めなかつたことをとても残念に思っております。

（津守 柳伸）

クを宣言。春はセンバツから。そのセンバツが中止、と選評がビッシリ詰まっています。

プロ野球開幕も延期。川柳大会の多くも中止や延期に。暗い春が続く。くれぐれも手洗いの励行とマスクを。  
（朱夏）

□「川柳展望」（季刊 2020冬）No180を主宰  
天根夢草氏から戴いた。  
P142、厚さ7ミリ。創刊45年を迎えている。

□前半の特徴は、99名の設解消終刊休会。人事、

大会、刊行、受賞、哀悼、句碑の建立など、貴重な資料を網羅されていた。

□「主宰行脚」は、昨年9月から11月までの3カ月間の夢草氏の行動がみつかり綴られている。「川柳宮城野」の雫石隆子主宰も「行脚」を綴られており、わが小島蘭幸主幹も「蘭幸行脚」を綴られては、

（勝弘）

## 作品募集

6月号発表 (4月15日締切)

川柳塔 (8句)	小島蘭幸選
水煙抄 (8句)	川上大輪選
愛染帖 (2句)	新家完司選
檸檬抄「文房具」 (2句)	水野黒兎共選
インスピレーションナビ (2句)	鴨谷瑠美子選
一路集「ゆるゆる」 (2句)	大西泰世選
一路集「幸い」 (2句)	山下凱柳選
初歩教室「魔法」 (3句)	高瀬霜石担当
初歩教室「魔法」	は7月号発表

7月号  
 檸檬抄「さらさら」  
 一路集「騒ぐ」「酔」  
 初歩教室「仕掛け」

## 本社4月句会

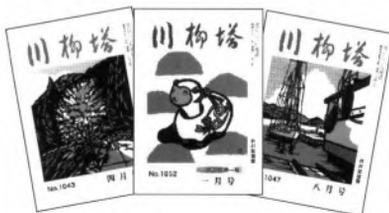
新型コロナウイルス蔓延に  
 配慮して4月句会は中止と致  
 します。  
 皆さま健康に留意して安全  
 にお過ごしくください。

本社5月句会  
 7日(木) 午後1時から  
 兼題「ぼっさり」「稼ぐ」「せりふ」  
 「くもる」「生涯」

## 本社句会欠席投句のお薦め

\* 幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚  
 に一句ずつを書き、裏面に題とお名前  
 を記入のこと。  
 \* 投句料は500円。または84円切手6枚。  
 \* 句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

川柳・俳句・エッセイ・小説  
 新聞・広告・ポスター・伝票等  
 あなたの思いをかたちにします。



## 美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10  
 TEL (06) 4800-3018  
 FAX (06) 4800-3028  
 E-mail: bikenart@ea.mbn.or.jp

定価 八百円(送料100円)  
 半年分 五千円(送料共)  
 一年分 九千八百円(同)  
 二〇二〇年(令和二年)四月一日発行

発行人 小島和幸  
 編集人 木本朱夏  
 印刷所 美研アート

〒543-0052 大阪市天王寺区大道一―四―一七  
 花野ビル201号室  
 発行所 川柳塔社  
 電話(06)六七九一三四九〇番  
 振替 〇〇九八〇一四一―二九八四七九番

川柳塔のホームページアドレス <https://senryutou.net>

# 第13回 オニザキ「ごま川柳」入選句発表

川柳塔社 主幹

小島蘭幸選

ご応募ありがとうございます。入選の皆様には賞品をお送りいたします。

生命力小さなゴマに無限大  
 ごま豆腐世界に誇る宝物  
 春夏秋冬母のごま和え旬野菜  
 京菜シャキシャキ春だ春だごまびたし  
 サブリより美味しいごまをたっぷりと  
 誇負できるごまの栄養無限大  
 自家野菜胡麻和えにして春を呼ぶ  
 ホーレン草ゴマはボクがすりました  
 ごま播つてすつて豚カツ美味くする  
 ゴマ食べて受験戦争打ち勝つた  
 ごま味噌をまぶし十八番の焼むすび  
 ごまをする連木に母の一代記  
 ごま和えと肉じゃがだけは会得する  
 妻介護僕の味方にゴマがある  
 合格をゴマのお陰と祖母は言う  
 逆転のチャンスをねらうゴマむすび  
 胡麻味噌をまぶしひとりのめしにする  
 ごまを播る手の優しさに惚れている  
 ゴマダレは世界の味とになりました  
 一粒のごまの命をいただきます

## 【準 特 選】

ゴマパワー夫婦揃って百がみえ  
 団欒が好きな胡麻和え胡麻豆腐  
 【特 選】  
 東京五輪へしかと寄り添うゴマパワー

坂本 加代  
 前川 善之  
 齋藤奈津子  
 津村志華子  
 出口セツ子  
 松山紀衣子  
 山野 寿之  
 仁部 四郎  
 笹重 耕三  
 今井万紗子  
 岸本 清  
 海老池 洋  
 鴨田 昭紀  
 小沢 淳  
 太田扶美代  
 真島美智子  
 丹下 凱夫  
 常國 喜好  
 緒方美津子  
 小河 柳女  
 広島 巴子  
 平井美智子  
 徳山みつこ

## 杵つき製法の「すりごま」 オニザキの

# ごま

長い間親しまれてきた  
 オニザキの「すりごま」は、  
 名称を変更し、パッケージ  
 を一新いたしました。

「オニザキのすりごま」は、  
 元々すり鉢ですったゴマで  
 はなく、杵と臼を使った杵  
 つき製法で出来た「すりご  
 ま」です。

今までと変わらぬ、風  
 味豊かな味わいをご堪能く  
 ださい。



株式会社 オニザキコーポレーションセルズ  
 〒862-0951 熊本市中心区上水前寺1-6-41 OCOビルディング

TEL 0120-30-5050